

花卷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集

賃貸住宅建設関連遺跡 発掘調査報告書

平成28年度調査

不動Ⅰ遺跡

2018.3

佐々木 浩

岩手県 花卷市教育委員会

**賃貸住宅建設関連遺跡
発掘調査報告書**

平成28年度調査

不動Ⅰ遺跡

例 言

1. 本書は、平成28（2016）年度に賃貸住宅（アパート2棟）の建設に伴い、佐々木浩氏より記録保存を目的とした発掘調査（報告書作成を含む）業務の依頼を受け、花巻市がこれを受託し、花巻市教育委員会が調査を行った「不動Ⅰ遺跡（岩手県遺跡コードME36-0040）」の発掘調査報告書である。
2. 調査地点と面積及び調査の実施期間は次のとおりである。
岩手県花巻市不動町二丁目7-1 866.75㎡
野外調査：平成28年9月12日～11月30日
室内整理：平成29年5月8日～平成30年3月16日
3. 発掘調査の主体及び担当者は、次の通りである。
調査主体者：花巻市教育委員会 教育長 佐藤 勝
調査総括者：花巻市教育委員会教育部文化財課 課長 酒井 宗孝
同 埋蔵文化財係長 村田 豊隆（H28年度）
同 埋蔵文化財係長 佐藤 幸泰（H29年度）
調査担当者：橋本 征也（花巻市教育委員会教育部文化財課埋蔵文化財係 上席主任兼学芸員）[主担当]
菊池 賢（花巻市教育委員会教育部文化財課埋蔵文化財係 上席主任兼学芸員）
高橋 純（花巻市総合文化財センター 学芸調査員）
吉田 宗平（花巻市総合文化財センター 学芸調査員）
4. 本書の執筆は酒井・橋本が行った。編集については、縄文時代の遺物包含層出土土器の分類・配列に際し中村良幸（花巻市総合文化財センター所長）の指導を受けて、橋本・菊池が行った。
5. 本書に掲載の遺物写真は、高橋と吉田が撮影した。
6. 調査および整理作業は、次の方々のご協力を得た。感謝申し上げます。
野外調査：阿部幸蔵・伊藤大輔・大野信幸・日下宏明・熊谷幸作・佐々木茂夫
佐藤隆重・佐藤弘・菅原武志・鈴木たよ子・高橋一水・高橋綱記・高橋淳一
立花健治・千田豊・新渕君雄・野木春雄・原田香理・平藤達也・藤井敏明
堀岡まゆみ・増本勇吾・盛川義雄・八重樫鷹明・雷久保克信
室内整理：川井久美子・菅原富貴子
7. 本遺跡の出土遺物及び図面・写真等の発掘調査資料は、花巻市総合文化財センターにて保管している。

目 次

例 言

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の位置と環境	1
III 調査・整理方法と基本層序	5
IV 検出された遺構と出土遺物	6
【縄文時代の遺構・遺物】	6
(1) 埋設土器遺構	6
(2) 竪穴状遺構	8
(3) 焼土遺構	12
(4) 土坑	12
(5) 遺物包含層	12
【平安時代の遺構・遺物】	14
竪穴住居跡	14
【時期不明の遺構】	16
【遺構外の出土遺物】	18
V まとめ	40

〈挿図〉

第1図 遺跡の位置	2
第2図 調査区の位置	3
第3図 遺跡周辺の地形分類	3
第4図 調査区全体図	4
第5図 埋設土器遺構(1)	9
第6図 埋設土器遺構(2)	10
第7図 竪穴状遺構	11
第8図 調査区北半遺構全体図	13
第9図 1号竪穴住居跡	14
第10図 2号竪穴住居跡(H2調査)	15
第11図 調査区西半ピット群(H9・10調査区を合成)	17
第12図 出土遺物(1) 埋設土器	20
第13図 出土遺物(2) 埋設土器ほか遺構内出土土器	21
第14図 出土遺物(3) 縄文土器(後期)	22
第15図 出土遺物(4) 縄文土器(晩期①)	23
第16図 出土遺物(5) 縄文土器(晩期②)	24
第17図 出土遺物(6) 縄文土器(晩期③)	25
第18図 出土遺物(7) 縄文土器(晩期④)	26
第19図 出土遺物(8) 縄文土器(晩期⑤)	27
第20図 出土遺物(9) 縄文土器(晩期⑥)	28
第21図 出土遺物(10) 土製品	29
第22図 出土遺物(11) 石器①(剥片石器)	30
第23図 出土遺物(12) 石器②(礫石器)	31
第24図 出土遺物(13) 石製品	32
第25図 出土遺物(14) 古代土器	33

〈表〉

表1 柱穴・土坑計測表	34
表2 出土遺物観察表	34

〈写真図版〉

写真図版1 埋設土器(1)ほか	41
写真図版2 埋設土器(2)・遺物出土状況	42
写真図版3 竪穴状遺構・掘立柱建物跡	43
写真図版4 土坑・竪穴住居跡・柱穴群	44
写真図版5 出土遺物(1) 埋設土器・竪穴状遺構出土土器ほか	45
写真図版6 出土遺物(2) 遺構外出土土器	46
写真図版7 出土遺物(3) 遺構外出土土器	47
写真図版8 出土遺物(4) 遺構外出土土器	48
写真図版9 出土遺物(5) 遺構外出土土器	49
写真図版10 出土遺物(6) 土製品・剥片石器	50
写真図版11 出土遺物(7) 礫石器・石製品・古代土器	51

報告書抄録

I 調査に至る経過

平成 28 年 5 月 31 日付で、今回の開発行為の施主である佐々木浩氏（以下、届出人）の代理人・大和ハウス工業株式会社若手支店（以下、代理人）より花巻市教育委員会（以下、市教委）へ賃貸住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出された。開発予定地は、縄文時代及び平安時代の集落跡として周知の遺跡である不動Ⅰ遺跡の範囲内であり、周辺部は東側に隣接する不動Ⅱ遺跡とともに平成 2 年より平成 12 年まで継続して行われた市教委による発掘調査が実施されている。特に平成 7 年より同 12 年の 6 年間に 20 次に及び行われた不動上諏訪地区土地区画整理事業に伴う一連の発掘調査において、縄文時代晩期及び平安時代の遺構・遺物が発見されていることから、今回の開発予定地内においても埋蔵文化財が残存する可能性が極めて高いことが想定された。

市教委では、平成 28 年 6 月 3 日付け 28 花教文第 2-17 号により当該地への試掘調査が必要な旨を代理人を通じて届出人へ通知し、6 月 8 日に試掘調査を実施した。試掘調査は、建物の建設予定地内の南北 2 箇所に一辺 2～3 m のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出を行った。なお、試掘調査は遺構や遺物が密に分布しているとの想定のもと、重機を使用せず手掘りで行った。この結果、表土直下から縄文時代晩期の土器・石器や古代の土師器・須恵器といった遺物が多く出土し、さらに下層まで掘り下げた部分では遺構（土坑）も検出された。

試掘結果を基に、届出人及び代理人と市教委との間で埋蔵文化財の保護措置に関する協議を行った。届出人からは、開発は計画通り行いたい意向が示され、代理人からは敷地内に表土の漉き取り後、盛土によるかさ上げを行い、遺構等を保護しながら建物基礎を設置する工法案が提示された。なお、同工法では盛土造成に伴って敷地外周への擁壁の設置と、車両進入用スロープ設置の必要性も示された。

このため、市教委では擁壁設置予定部分の試掘調査を 7 月 11 日に実施し、ほぼ全域から遺構・遺物を確認したため、遺物が出土しなかった東側の一部を除く外周擁壁部分及びスロープ部分の全面発掘とそれ以外の箇所（盛土予定部）の表土下までの調査実施が必要との結論に至った。

発掘調査実施にあたり、賃貸住宅の建設であるため、原因者負担の原則により実施した。すなわち、届出人より平成 28 年 8 月 19 日付け文書にて市教委が埋蔵文化財発掘調査の依頼を受けたため、協議を行い調査費用（室内整理費、報告書刊行費を含む）の合意に達したことから、発掘調査受託契約を平成 28 年 9 月 2 日に締結した。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地と地形・地質（第 3 図）

不動Ⅰ遺跡は、花巻市役所の南南西約 1.6km の花巻市不動町二丁目及び諏訪町二丁目地内に所在し、東流して北上川に注ぐ豊沢川下流域右岸の低位段丘北縁に立地する。標高は 84 m 前後で、北側は段丘崖となり、比高差約 9 m で豊沢川の氾濫源に続いている。

周辺の地形は、中川久夫氏（中川他：1963 b）、渡辺満久氏（渡辺：1991）、小岩直人氏（小岩：2001）による研究があり、中位の段丘として村崎野段丘（渡辺：M 1 面、小岩：村崎野面）、下位の段丘として金ヶ崎段丘（内上位の面を渡辺：L 1 面・小岩：花巻面、下位の面を渡辺：L 2 面・小岩：南城面）に区分している。村崎野段丘は、下部に焼石連峰を噴出源とし 4 万年～7 万年前の年代が推定されている村崎野浮石を伴う黒沢尻火山灰に覆われるが、金ヶ崎段丘は更新世の火山灰は載せないとされている。

今次の調査区は、中川氏の金ヶ崎段丘、渡辺氏の L 2 面、小岩氏の南城面に相当する。しかし、中川氏が当面の細分化を示唆しているように、南側には比高差約 2 m で一段高い面が広がる他、戦後まもなくの空撮写真では、遺跡の周辺に数段のテラス状の地形が観察される。さらに、平成 25 年度と平成 28 年度に調査した南城地区の上館遺跡は、地形分類上同じ面に立地するが、周囲より約 2 m 高い微高地となり、基盤となる砂礫層の上部に村崎野火山灰と考えられる褐色～明黄褐色土の堆積が確認されている。

なお、これらの地形と遺跡の分布状況には傾向性が認められるが、これについては、より多くの事例の検討が必要であると考えられる。

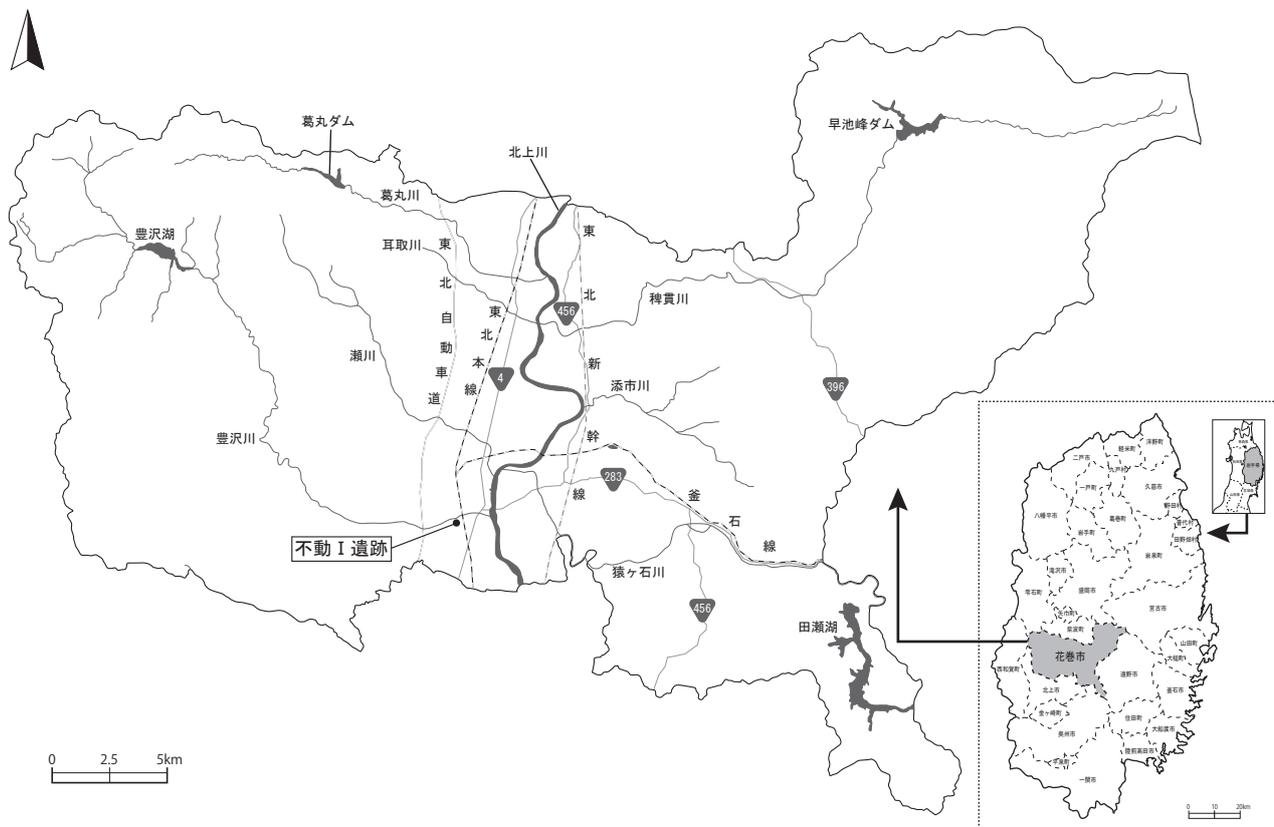
2 周辺の遺跡（第2図）

花巻市内には平成29年現在、1,006か所の埋蔵文化財包蔵地が岩手県遺跡台帳に登録されており、旧花巻市内には318の遺跡がある。また、不動Ⅰ遺跡が所在する花南地区には30か所の遺跡が分布するが、以下に主な遺跡を紹介する。

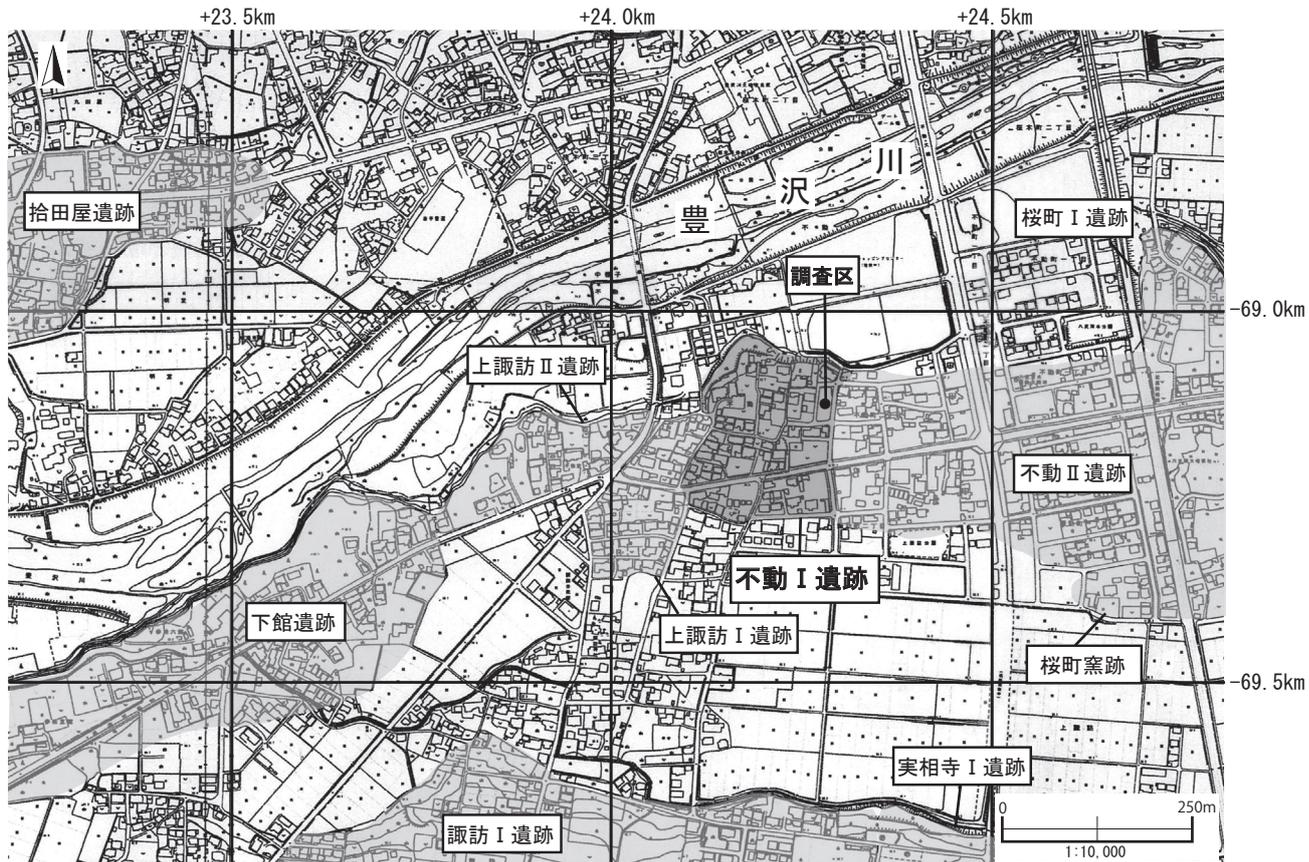
旧石器時代の遺跡では、市内最古の遺跡で2～3万年前に遡る可能性を持つ形態の石器が出土した山の神地区の宿内遺跡がある。なお、豊沢川南岸の段丘縁辺には、本遺跡を始めとする縄文時代～古代、中近世までの複合遺跡が連続して立地している。この遺跡群は、平成7年度より12年度まで市教委が実施した、不動上諏訪地区土地区画整理事業に係る一連の発掘調査により、不動Ⅰ・Ⅱ遺跡からは縄文時代晩期の墓壇や埋設土器が発見された。また一帯からは、平安時代の住居跡が多数発見され、該期の拠点的な集落跡であったことが明らかになった。

中世には、本遺跡の西に稗貫氏の重臣で豊沢川中～下流域を領した根子氏の一族が流域各所に築いた三館の一つである下館跡（他に根子館〔上館〕・古館〔中館〕）がある。また本遺跡の東側、不動Ⅱ・桜町Ⅲ遺跡周辺は、同じく稗貫氏家臣の八反清水氏の居館があったとの伝承が残るが、平成7年度の発掘調査では、段丘縁から南東へ伸びる薬研堀跡が検出されており同氏の館跡との関係が窺われる。

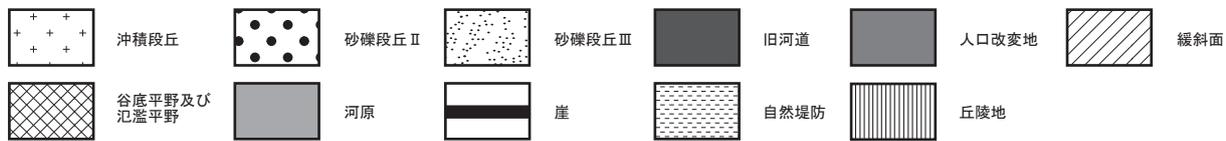
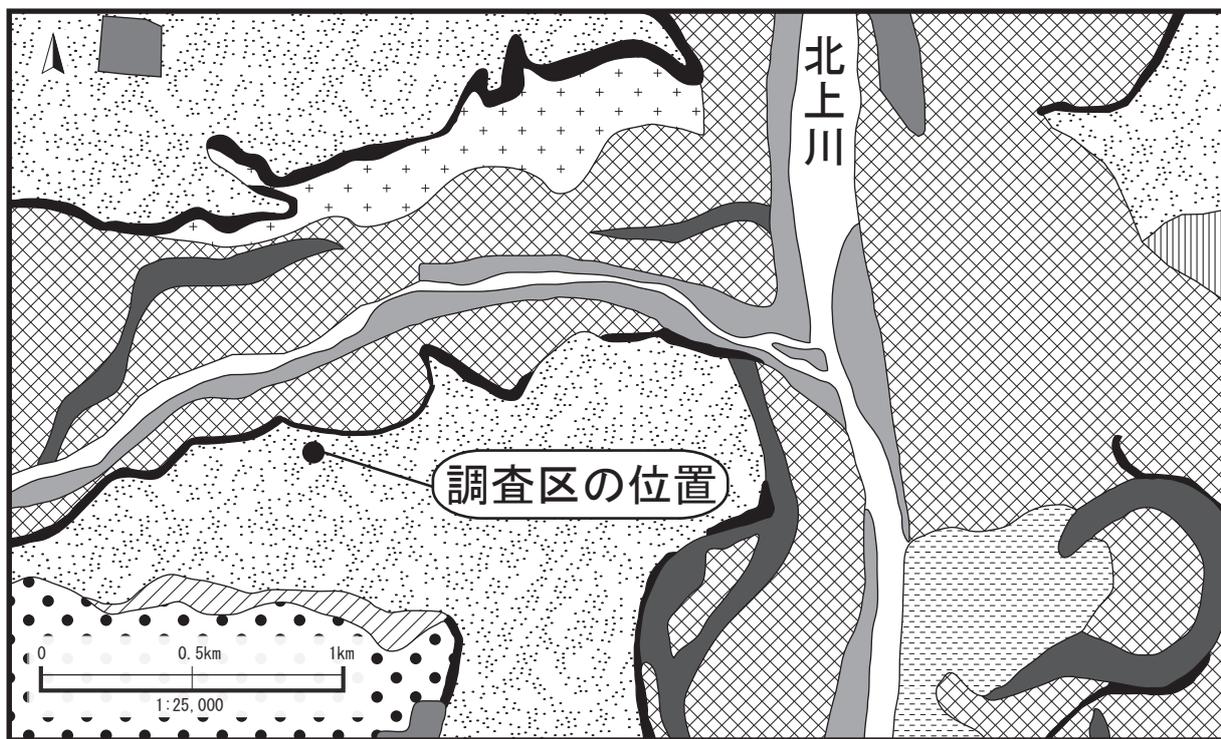
近世の遺跡としては、調査区の南東約400mに幕末から明治時代初期にかけて陶磁器やレンガを生産し、短い期間ではあったが盛岡藩の御小納戸支配職人を務めた花巻焼の窯跡がある。また、調査区の西約500mは、太田清水寺に通じる清水道と和賀郡岩崎瀬畑に繋がる瀬畑街道（瀬畑みち・馬街道）との分岐点に当たり、元文5年（1740）の紀年銘を持つ追分碑が残る。



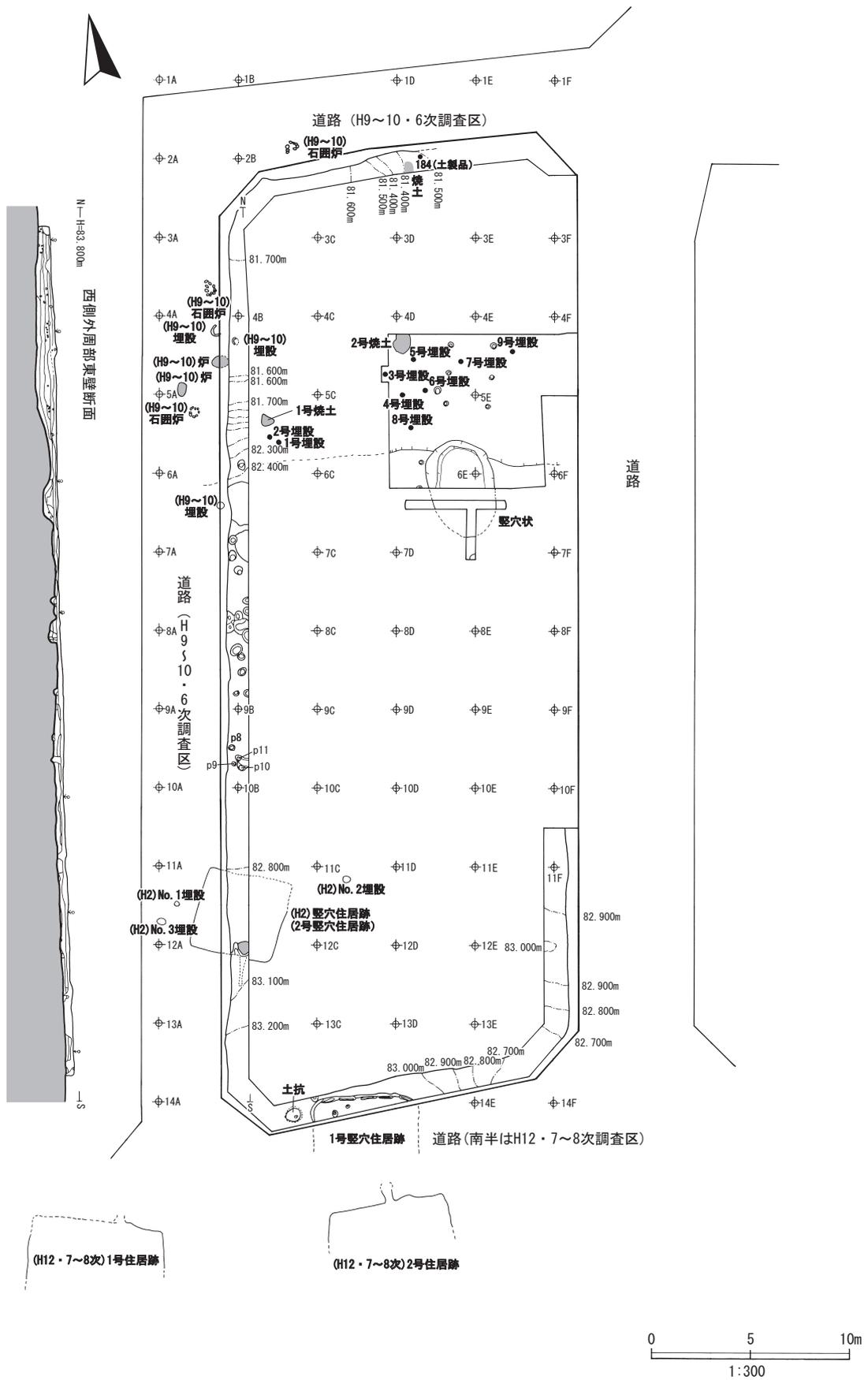
第1図 遺跡の位置



第 2 図 調査区の位置



第 3 図 遺跡周辺の地形分類



第4図 調査区全体図 (一部に6次 (H9) 調査区及び7・8次 (H12) 調査区を合成)

Ⅲ 調査・整理方法と基本層序

1 調査方法

(1) 調査区及びグリッド設定 (第4図)

開発予定地は、長辺(南北)約48m、短辺(東西)約20mの長方形を呈している。測量及び遺物取り上げの基準とするグリッドは、便宜上調査対象範囲の形状に合わせて設定した。すなわち、上記の長方形の長辺、短辺に平行する軸を設け、これを4m四方に区画するメッシュを設定して北西の端部を原点として南方向には1～14、東方向にはA～Fの番号と記号を付してA1、B2等と呼称した。なお、基準とした軸や点は平面直角座標値に基づくものではなく、任意の設置である。

(2) 調査方法

試掘調査の結果、表土にも遺物が包蔵されることや、下位には大量の遺物を含む層(Ⅱ層)の堆積が確認されたことから、人力によって表土の除去と遺構の検出作業を行った。

擁壁設置部分とスロープ設置部分については、層ごとに遺物の収集と遺構検出、精査、実測を行いながらⅢ層またはⅣ層まで掘り下げた。また、中央部の盛土工法がとられる部分についても、同様に表土とⅡ層を除去し、遺物の収集を行い、Ⅲ層上面までの精査を実施した。

検出された遺構は、当初グリッド名と遺構種別を併せて“6D 堅穴状遺構”等と命名したが、便宜上、整理段階において遺構種別と番号の組み合わせ(1号堅穴住居跡 等)に改めている。遺構の精査にあたっては、堅穴類は4分法、土坑類は2分法を原則として埋土の状態を観察し、重複状況や新旧関係の把握に努めた。

検出された遺構は、トータルステーションによる簡易的な遣り方測量により、平面・断面の各実測図を作成したが、一部平板による測量も併用した。図面の縮尺は1/20を原則としたが、埋設土器等の小規模な遺構は一部1/10、平板での測量は1/100で作成した。

出土遺物の取り上げは、遺構内出土遺物は遺構名と出土層位を、遺構外からの遺物はグリッド名と出土層位を記して取り上げた。

写真撮影は、デジタル一眼レフカメラをメインに工事現場用カメラを補助として、精査の各段階に応じて適宜撮影を行った。

2 室内整理

室内整理では、61×37×15cm(容量34ℓ)のコンテナで50箱分の出土遺物について、洗浄・分類・接合・写真撮影を先行させ、その後に実測作業とトレースをそれぞれ行った。遺構図面については、第二原図の作成後これをトレースして図版化し、さらに写真図版を作成した。

3 基本層序 (第4図、第8図東壁)

本調査区における堆積土の状況は、西側外周部の東壁を中心に観察を行い、基本層序とした。

Ⅰ層 表土層。10YR3/2 黒褐色。草根を多く含み攪乱が多い。土器片を若干含む。層厚10～20cm。

Ⅱ層 遺物包含層で、近代～縄文時代までの遺物を含む。特に晩期の土器片を多く含むが、堆積土が厚くなる南半の一部では上下2層に分かれる。

Ⅱ a層 10YR3/3 暗褐色。耕作による上層からの攪乱も多い。縄文時代の遺物を多く含む。層厚10～25cm。

Ⅱ b層 10YR2/3 黒褐色。Ⅱ a層より粘性がある、縄文時代の遺物を多く含む。層厚10～20cm。

Ⅲ層 黒色土層で、基本的には遺物を包蔵しない。調査区の北半及び東南隅部分(12E～12F・13E～13F付近)の傾斜地形や凹地形では厚く堆積し、層相により3層に細分される。検出された遺構はすべて本層を掘り込む。

Ⅲ a層 10YR2/2 黒褐色。上部には土器片を含むことがある。層厚10～30cm

Ⅲ b層 10YR2/1 黒色。やや粘性があり、径5cm以下の小礫を僅かに混入する。層厚10～25cm。

Ⅲ c層 10YR3/1 黒褐色。やや粘性があり、下位はⅣ層への漸移層となる。層厚10～30cm。

Ⅳ層 10YR4/3 におい黄褐色 粘性を持つシルト層で固くしまる。層厚不明。

断面の観察によれば、グリッド東西軸の5ライン以北では主な遺構はⅢ層上面よりの掘り込みが確認できたが、一方の6ライン以南ではⅢ層の堆積が薄く、または後世の造成等により失われているため、Ⅳ層が主な遺構の検出面となっている。(※本文中の土層註記部分では、本層を便宜上「地山」と標記している。)

IV. 検出された遺構と出土遺物

今次調査で検出した遺構は、縄文時代の埋設土器遺構9基・竪穴状遺構1棟・土坑1基・焼土遺構3基・全域に広がる遺物包含層、平安時代の竪穴住居跡2棟(うち1棟は平成2年度に調査済)、時期不明の掘立柱建物跡1棟、さらに時期不明(近世以降か)の柱穴群1ヶ所ほかである。

出土遺物は縄文土器が殆んどであり、他に石器類や古代土器、陶磁器類を若干出土している。総量は中コンテナ(容量34ℓ)で50箱分程出土しており、多数を占めるのは遺物包含層より出土の縄文土器片である。

【縄文時代の遺構・遺物】

(1) 埋設土器遺構

調査区北半の5Bグリッド及び4C～4E・5Dグリッド付近に位置し、計9基を検出している。

1号埋設土器(遺構:第5図・写真図版1、遺物:第12図・写真図版5)

〔位置・検出状況〕調査区北半西側の5Bグリッド北西付近に位置し、Ⅲ層上面で検出したものであるが、隣接する2号埋設土器の検出状況からみて上層のⅡ層から掘り込まれた可能性がある。遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕直径30～35cm前後で断続的に3/4程まわる土器片の範囲として検出され、平面の観察では明確な掘り方は確認されなかった。断面の観察では、深さ16～18cm程の土器本体とほぼ同規模の据え穴を伴うものであり、底面はⅣ層(下位の礫層)を若干掘り込むものである。

〔埋土・堆積状況〕土器内部にはA層(粘性のある黒褐色土)が堆積し、底面近くには径10cm以下の礫を若干含んでいる。

〔出土遺物〕1は粗製の深鉢であり、口縁部～胴部上半は欠損している。

〔時期〕縄文時代晩期の遺構とみられる。

2号埋設土器(遺構:第5図・写真図版1、遺物:第12図・写真図版5)

〔位置・検出状況〕調査区北半西側の5Bグリッド北西付近に位置し、Ⅱ層中で検出したものである。遺構の重複はみられないが、南東に1号埋設土器、さらに北側に1号焼土と同一検出面上でそれぞれ隣接している。

〔形状・規模〕直径38cm前後で断続的に3/4程まわる土器片の範囲として検出され、平面の観察では明確な掘り方は確認されなかった。断面の観察では、深さ26～28cm程の土器本体とほぼ同規模の据え穴を伴うもので、底面はⅣ層上面となっている。

〔埋土・堆積状況〕土器内部にはA層(粘性のある黒褐色土)が堆積し、土器片が混入している。

〔出土遺物〕2はほぼ完形の粗製深鉢であり、口縁部は直上し、底部に穿孔箇所が一つある。

〔時期〕縄文時代晩期の遺構とみられる。

3号埋設土器(遺構:第5図・写真図版1、遺物:第12図・写真図版5)

〔位置・検出状況〕調査区北半の4Cグリッド南東付近に位置する。Ⅲ層上面で検出したものであるが、断面の観察によるとⅡ層上面からの掘り込みが確認できる。遺構の重複は見られないが、南側に柱穴状のp19、及び北側にピット(埋設土器の据え穴か)とそれぞれ隣接している。

〔形状・規模〕直径37cm前後で断続的に半周以上する土器片の範囲として検出され、平面の観察では明確な掘り方は確認されなかった。断面の観察では、直径はほぼ同じ規模であるが、深さは35cm前後の土器残存高(20～24cm程)より深い据え穴を伴うもので、底面は黒色土中(Ⅲb層中位)となる。

〔埋土・堆積状況〕土器内部にはA層(しまり粘性ともある黒褐色土)が堆積している。

〔出土遺物〕3は完形の粗製深鉢であり、外面はRL斜位の縄文施文により縦縞状の地文となる。また、外面には胴部下端から器高10cm前後まで、使用時に火熱を受けたとみられる暗赤褐色化した範囲が観察される。

〔時期〕縄文時代晩期の遺構とみられる。

4号埋設土器（遺構：第5図・写真図版1・2、遺物：第12図・写真図版5）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の4Dグリッド西南隅～5Dグリッド西北隅付近に位置する。Ⅲ層上位で検出したものであり、遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 直径42cm前後で断続的に2/3程まわる土器片の範囲として検出され、土器内部の東寄り及びやや北寄りの検出面上には火熱を受けた扁平な川原石（一辺20cm×厚さ5～8cm内外）が2個載っていた。平面の観察では、明らかな掘り方は確認されなかった。断面の観察では、直径45cm・深さ36cm程の土器の規模より若干大きめの据え穴を伴うもので、底面は黒色土中（Ⅲb層中位）となる。

〔埋土・堆積状況〕 土器内部にはA層（周囲のⅢa・Ⅲb層に近似する黒色土）、及び土器内面際にB層（粘性が強く、しまる黒褐色土）がそれぞれ堆積している。

〔出土遺物〕 4は完形の粗製深鉢であり、口縁部はやや内湾気味に直上する。外面の胴部下端から器高20cm前後まで、暗白黄～暗赤褐色を呈する使用時のものとみられる被熱痕跡が観察され、一方で内面の同位置にもドーナツ状に炭化物が付着する範囲（おこげ）が観察される。

〔時期〕 縄文時代晩期の遺構とみられる。

5号埋設土器（遺構：第6図・写真図版1・2、遺物：第12図・写真図版5）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の4Dグリッド西半付近に位置する。Ⅲ層上位で検出したものであり、遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 直径35cm前後で断続的に半周程まわる土器片の範囲として検出され、土器内部の検出面上には扁平な川原石（一辺20cm×厚さ10cm内外）が1個載っていた。平面の観察では、明らかな掘り方は確認されなかった。断面の観察では、深さ12cm程の土器とほぼ同じ規模もしくはやや大きめの据え穴を伴うもので、底面は黒色土中（Ⅲb層上面）となる。

〔埋土・堆積状況〕 土器内部には、焼土主体のA層（しまりの弱い暗赤褐色土）を堆積する。

〔出土遺物〕 5は粗製の深鉢胴部片であり、下端は部分的に摩耗し意図的に欠かれている様である。

〔時期〕 縄文時代晩期の遺構とみられる。

6号埋設土器（遺構：第6図・写真図版1、遺物：第12図・写真図版5）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の4Dグリッド南端中央付近に位置する。Ⅲ層上位で検出したものであり、遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 直径30cm前後で断続的に半周程まわる土器片の範囲として検出されたが、あまり残りが良くない。平面の観察では、明らかな掘り方は確認されなかった。断面の観察では、深さ16cm以上の土器とほぼ同じ規模もしくはやや大きめの据え穴を伴うもので、底面は黒色土中（Ⅲb層上面）となる。

〔埋土・堆積状況〕 土器内部には、A層（土器片を若干含み、ややしまる黒褐色土）を堆積する。

〔出土遺物〕 6は粗製深鉢の口縁～胴部上半片である。

〔時期〕 縄文時代晩期の遺構とみられる。

7号埋設土器（遺構：第6図・写真図版2、遺物：第13図・写真図版5）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の4Dグリッド東半付近に位置する。Ⅱ層中位で検出したものであり、遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 直径40cm前後で断続的に半周程まわる土器片の範囲として検出された。平面の観察では、明らかな掘り方は確認されなかった。断面の観察では、深さ35cm程の土器とほぼ同じ規模もしくはやや大きめの据え穴を伴うもので、底面は黒色土中（Ⅲb層中位）となる。

〔埋土・堆積状況〕 土器内部には、A層（土器片や炭粒を含み、しまる黒褐色土）を堆積する。

〔出土遺物〕 7はほぼ完形の粗製深鉢であり、RL斜位の縄文施文により縦縞状の地文となる。

〔時期〕 縄文時代晩期の遺構とみられる。

8号埋設土器（遺構：第6図・写真図版2、遺物：第13図・写真図版5）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の5Dグリッド西半付近に位置する。Ⅲ層上位で検出したものであり、遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 直径40cm前後で断続的に2/3周程まわる土器片の範囲として検出された。平面の観察では、明らかな掘り方は確認されなかった。断面の観察では、深さ22cm程の土器とほぼ同じ規模の据え穴を伴うものとみられ、底面は黒色土中（Ⅲ層中位）となる。

〔埋土・堆積状況〕 土器内部には、A層（Ⅲ層起源の黒色土）を堆積する。

〔出土遺物〕 8はほぼ完形の粗製深鉢であり、断面の輪積み痕が比較的明瞭に観察される。

〔時期〕 縄文時代晩期の遺構とみられる。

9号埋設土器（遺構：第6図・写真図版2、遺物：第13図・写真図版5）

〔位置・検出状況〕 調査区北半東側の4Eグリッド北半中央付近に位置する。Ⅱ層上位で検出したものであり、遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 直径25cm前後で断続的に一周する土器片の範囲として検出された。なお、北隣には扁平な川原石（一辺15cm内外）1個があり、元々は検出面上の土器内部に載っていた可能性がある。平面の観察では、明らかな掘り方は確認されなかった。断面の観察では、深さ26cm程の土器とほぼ同じ規模もしくはやや大きめの据え穴を伴うもので、底面は黒色土中（Ⅲb層中位）となる。

〔埋土・堆積状況〕 土器内部には、A層（土器片を含み、しまる黒褐色土）を堆積する。

〔出土遺物〕 9はほぼ完形の粗製深鉢で、口縁部は内湾気味となる。外面はLR斜位の縄文施文により横縞状の地文となる。また、外面の胴部下端から器高3cm前後から同15cm前後までドーナツ状に、使用時に火熱を受け変色（赤褐～暗赤褐色）した範囲が観察される。

〔時期〕 縄文時代晩期の遺構とみられる。

（2） 竪穴状遺構（遺構：第7・8図・写真図版3、遺物：第13・21～23図・写真図版5・10・11）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の5D・5Eグリッド南半～6Dグリッド東半・6Eグリッド西半付近に位置する。南半1/2程は盛土保存部分にあたるために、遺構内の精査は行わず範囲の検出のみに留めた。

Ⅳ層上面で検出したものであるが、断面の観察によるとⅢ層上面からの掘り込みが確認できる。遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 南北方向に長軸をもつ東西3.4m・南北5.0m程の楕円形を呈する。壁面の状況は、部分的に底面近くに緩い段差をもつが、全体的には明確に立ち上がる。底面は平坦で、全体に貼床が施される。掘り込み面から底面までの深さは45～50cm、貼床上面までの深さは40cm前後を測る。南半が完掘に及ばなかったため断定はできないが、炉跡は見つかっていない。

〔埋土・堆積状況〕 A・B層及びC層（貼床層）に分かれ、また下位のB層はさらに3層に細分される。A層は土器片を多く混入し炭粒を若干含む黒褐色土、B層はしまり粘性ともあり土器片を含む黒褐～黒色土である。なお、C層は層厚5～10cm前後で、粘性が強く非常に固くしまり、土器片・石器や炭粒～ブロックまた焼土粒～ブロックを含む黒色土である。

〔出土遺物〕 縄文土器10～18・20・21、土製品183・186、石器195・196・217が出土している。縄文土器は、10～12・20・21が縄文時代後期とみられる深鉢で、外面に倒卵状の磨消縄文や網目状撚糸文が施文される。13～18は、縄文時代晩期（大洞B・BC・C1・C2式）の注口土器・浅鉢・壺・深鉢・鉢であり、雲形文や羊歯状文、平行文などが描かれる精製もしくは半精製土器である。なお出土量としては、晩期土器の割合が卓越している。

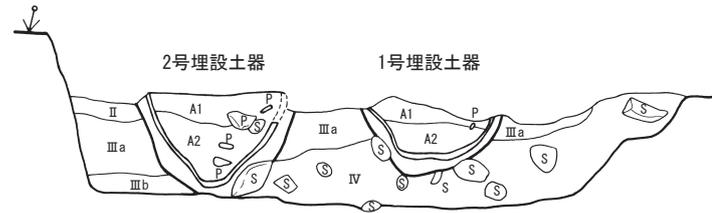
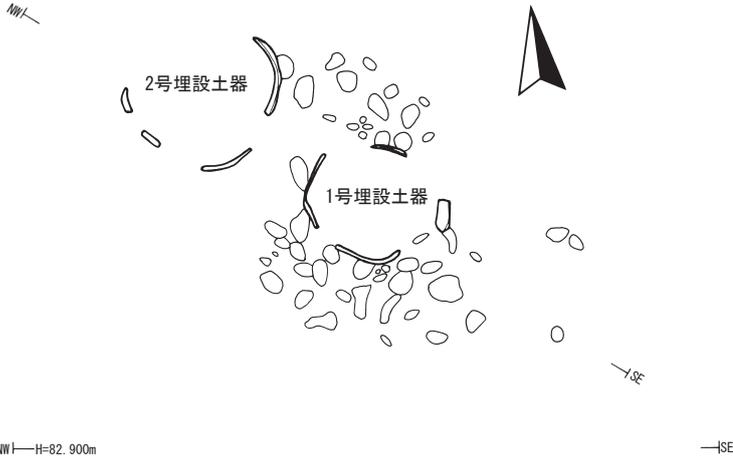
土製品は、小型で中空の亀形土製品（183）及び穿孔のある土製円盤（186）がある。

石器は石鏃が2点（195・196）、また217は棒状を呈する磨製石斧で、蛤刃形の刃部となる可能性がある。

他に、図示しなかったが、南西部の床面近くより朱彩皮膜の細片（漆塗木製品か）が1点出土している。

〔時期〕 底面の一括出土遺物がないため断定できないものの、埋土中に縄文時代後期～晩期の遺物が含まれること、特に晩期の遺物が多く出土していることから、縄文時代晩期頃の遺構とみられる。

1号・2号埋設土器



〈1号埋設土器〉

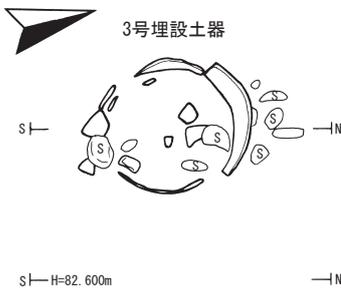
A1層：10YR3/2 黒褐色 しまる 粘性あり
 A2層：10YR2/3 黒褐色 しまる 粘性あり
 底面近くに小礫若干(径10cm以下)

〈2号埋設土器〉

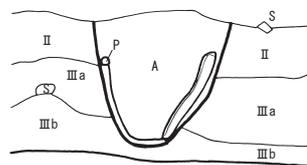
A1層：10YR3/2 黒褐色 しまる 粘性あり
 土器片混 地山粒若干混
 A2層：10YR2/3 黒褐色 しまる 粘性あり
 土器片混

IIIa層：10YR3/2 黒褐色 しまる 粘性あり
 IIIb層：10YR3/1 黒褐色 ややしまる 粘性あり
 IV層：上位の粘質シルト層が欠除し、
 下位の礫層が露出。

3号埋設土器

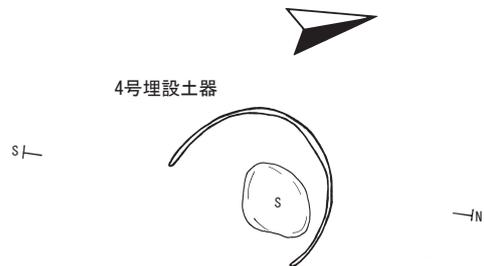


S | H=82.600m N

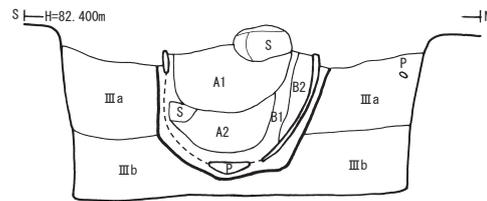


A層：10YR2/2 黒褐色 しまる 粘性あり
 地山粒~ブロック若干混
 植物根多く混

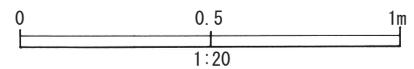
4号埋設土器



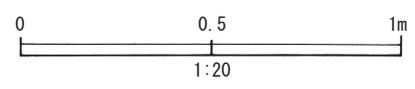
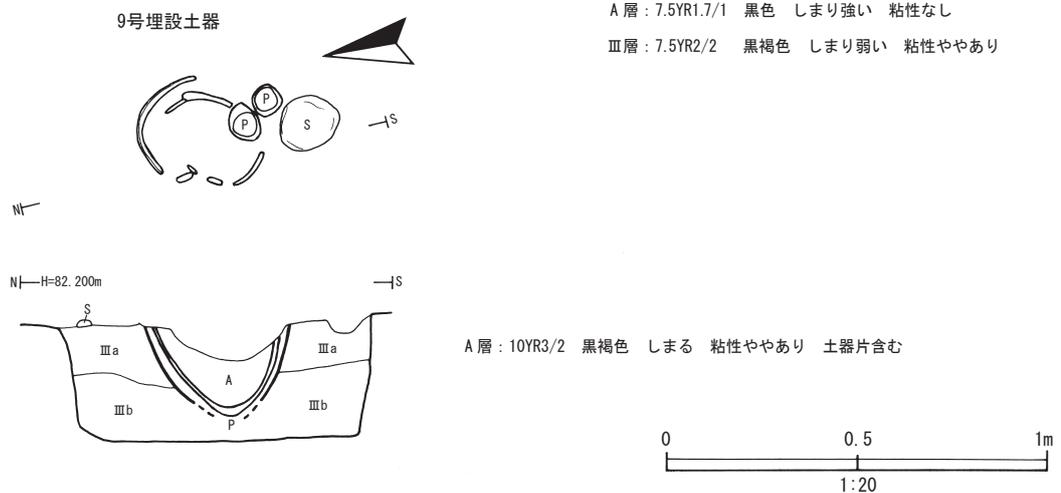
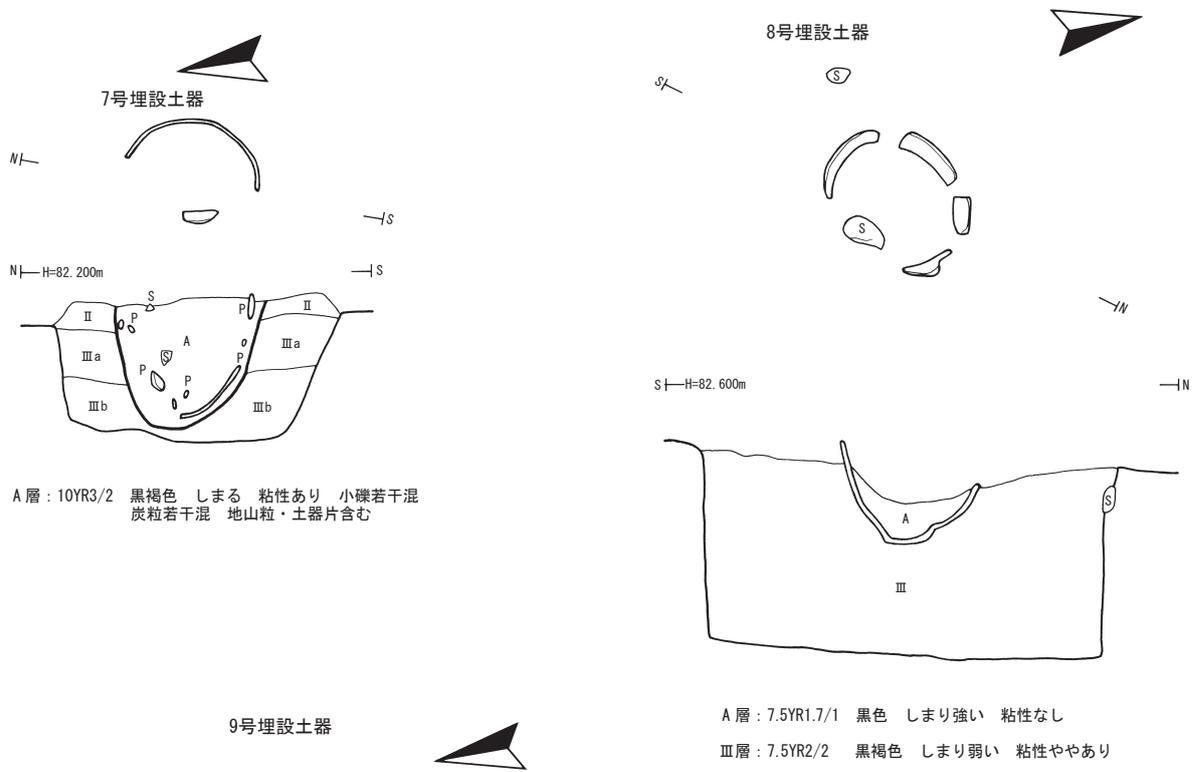
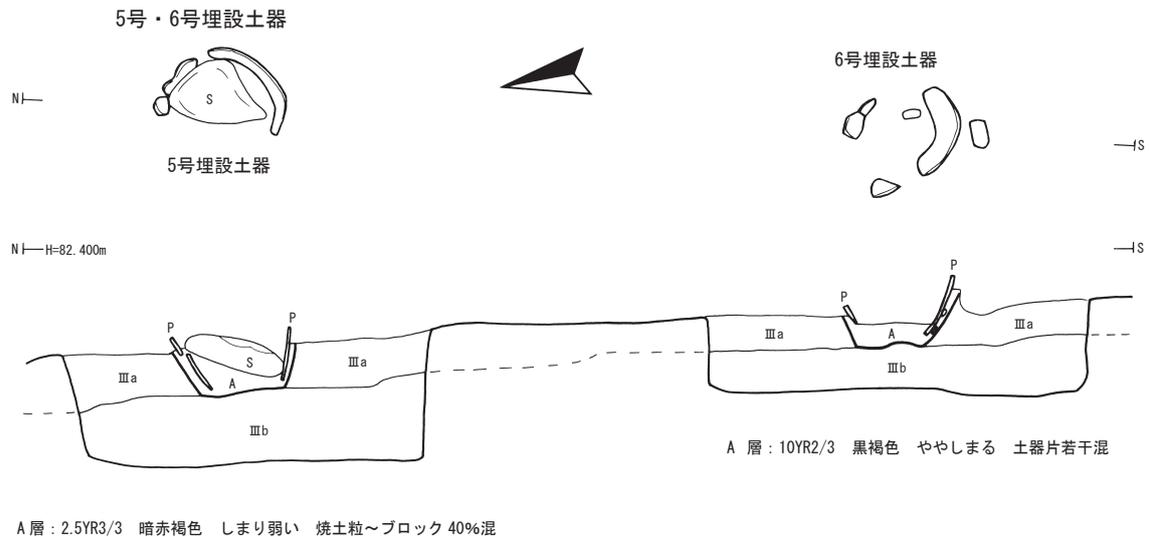
S | H=82.400m N



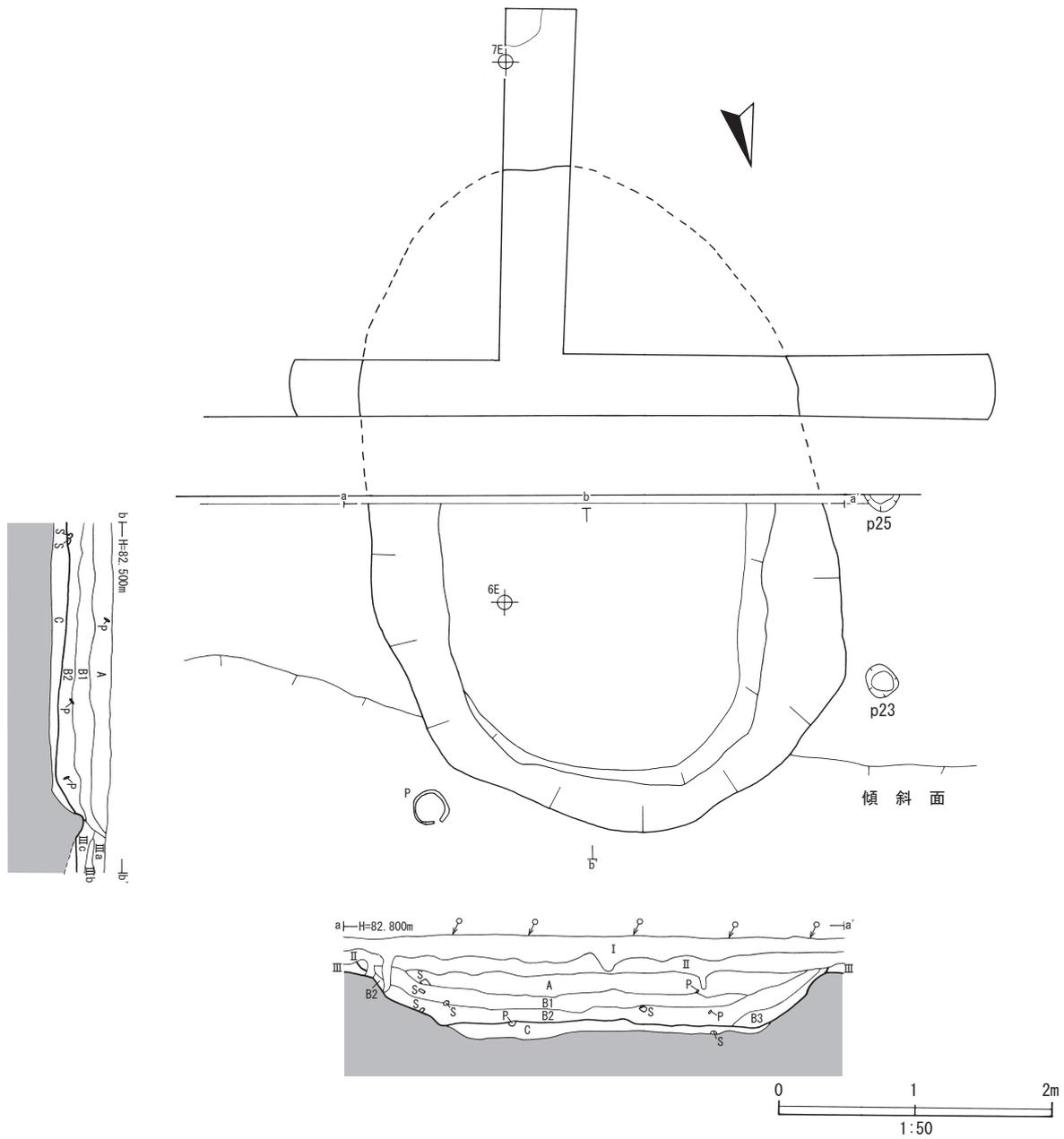
A1層：検出面上の北寄に焼礫あり IIIa層に近似
 A2層：IIIb層に近似
 B1層：10YR2/2 黒褐色 しまる 粘性強い 地山粒~ブロック30%混
 B2層：10YR2/1 黒色 粘性強い 固くしまる 地山粒~ブロック若干混



第5図 埋設土器遺構(1)



第6図 埋設土器遺構 (2)



- A 層: 10YR3/2 黒褐色 しまる 粘性ややあり 土器片多く混 炭粒若干混
地山粒~ブロック 10%混
- B1 層: 10YR3/2 黒褐色 固くしまる 粘性あり 土器片混 炭粒・小礫若干混
地山粒~ブロック 20%混
- B2 層: 10YR2/1 黒色 しまる 粘性あり 土器片多く混 炭粒若干
地山粒~ブロック 20%~30%混 小礫若干
- B3 層: 10YR1.7/1 黒色 しまる 粘性あり 地山粒~ブロック 30%~40%混
西壁際のみ堆積
- C 層: 10YR2/1 黒色 非常に固くしまる 粘性強い 地山粒~ブロック 30%混
炭粒~ブロック・焼土粒~ブロック若干混 土器片・石器多く混

第7図 竪穴状遺構

(3) 焼土遺構

調査区北半の4Dグリッド及び5Bグリッド付近で2基、また部分検出につき掲載を割愛したが、北端の2Dグリッド北西部でもⅡ層下位で東西30cm・南北40cm以上の不整範囲に厚さ4～6cm前後で堆積する焼土層を検出しており、これを含めると計3基を検出している。

1号焼土遺構（遺構：第4図）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の5Bグリッド北西半付近に位置する。Ⅲ層上位（Ⅲa層中位）で検出したものであり、遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 東西60cm以上・南北50cmの不整な範囲に広がる焼土で、2～5cmの層厚で堆積している。

〔埋土・堆積状況〕 A層は、赤褐色を呈する焼土層でレンズ状に堆積する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔時期〕 出土遺物がないため詳細は不明であるが、検出状況からみて縄文時代（晩期か）の遺構であろう。

2号焼土遺構（遺構：第4・8図、遺物：第21図・写真図版10）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の4Dグリッド北西付近に位置する。Ⅱ層中位で検出したものであり、遺構の重複は見られない。

〔形状・規模〕 東西85cm・南北100cm前後の不整な範囲に広がる焼土で、厚さ3～10cm程の厚さで堆積している。

〔埋土・堆積状況〕 A層は焼土層でレンズ状に堆積するものであり、しまり粘性ともある赤褐色土である。

〔出土遺物〕 有孔の土製円盤（188）が出土している。また、遺構外ではあるが焼土下のⅢ層からは中空の亀形土製品（182）が1点出土しており、内部に小さな粘土粒（小石？）を含むもので用途に関わるものの可能性がある。

〔時期〕 出土遺物が少ないが、縄文時代（晩期か）の遺構であろう。

(4) 土坑（遺構：第4・9図、写真図版4）

〔位置・検出状況〕 調査区南半の14Bグリッド北東寄りに位置する。Ⅳ層上面で検出したものであるが、攪乱により掘込面は失われている。遺構の重複はみられないが、西側の一部を攪乱に切られている。

〔形状・規模〕 平面形は開口部径70～80cm程の円形であり、断面形は底面に向かい緩くオーバーハングするフラスコ状を呈し、底面径は開口部径よりやや膨らむ径80cm内外、検出面からの深さは28～33cm程を測る。底面はほぼ平坦となり、床上やや東寄りに副穴となる小ピット（径15cm・底面からの深さ5cm前後）を有し、また東南壁寄り床面には扁平な川原石（一辺25cm・厚さ10cm程）が検出されている。

〔埋土・堆積状況〕 埋土はA・B層に分かれ、うちA層は上下2層に細分される。A層は黒褐色土、B層は黒色土となる。

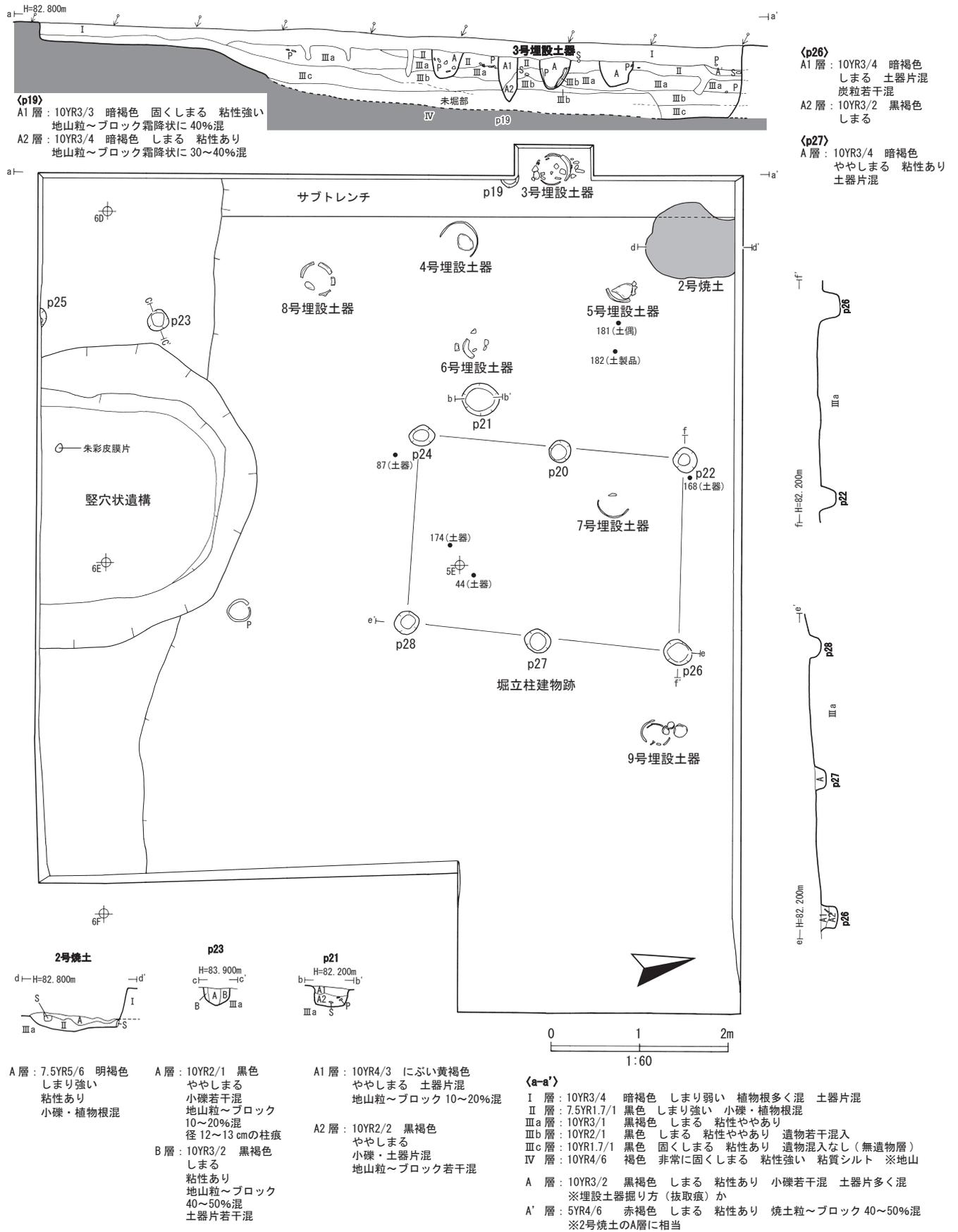
〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔時期〕 出土遺物がないため不明であるが、形状からみて縄文時代（晩期か）の遺構とみられる。

(5) 遺物包含層（遺構：第4・8図・写真図版1、遺物：第14～24図・写真図版5～11）

調査区全域にわたって、表土（Ⅰ層）及び遺物包含層（Ⅱ層）より多くの縄文時代～古代にかけての土器片（縄文土器が主体）を出土している。今回調査における完掘箇所は、スロープ設置予定部分及び外周部分のみで、多くのグリッドはⅠ～Ⅱ層のみの部分的調査であったためあくまで暫定的なデータではあるが、質的には1グリッド（4m×4m）あたり0.3kg～6kg前後の出土量があり、平均すると1グリッドあたり1～3kg前後となる箇所が多く、また5ライン以北の北向き緩斜面部では地形的な要因も加わり出土量がより増える傾向にあった。今回の調査で最も土器の出土量が多かった箇所は、完掘したスロープ設置予定部分であり、4D・5D・5Eグリッドは平均20kg前後、4Eグリッドに至っては1グリッドで65kgと突出した出土量となっている。このように、調査区内の土器出土量を概観すると、北側の緩斜面部を中心に周辺一帯に密度の濃い縄文時代後期～晩期にかけて（縄文時代晩期が主体）の遺物包含層が形成されていることがわかる。

なお、包含層出土の個別遺物については、【遺構外の出土遺物】の項にてその概要を述べることにする。



第8図 調査区北半遺構全体図

【平安時代の遺構・遺物】

竪穴住居跡

調査区南半において古代に属する2棟の竪穴住居跡を検出しており、うち北側の1棟（2号竪穴住居跡）は平成2年度に調査済みのものを再度確認したものである。

1号竪穴住居跡（遺構：第9図・写真図版4、遺物：第13・25図・写真図版5・11）

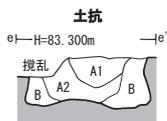
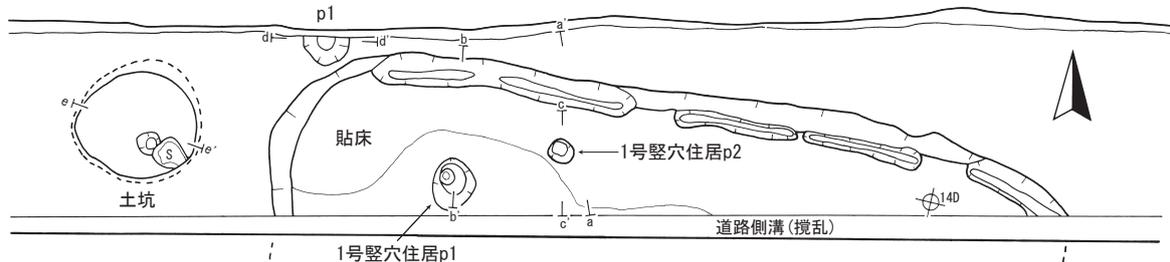
〔位置・検出状況〕 調査区南半の14Cグリッド北半付近に位置し、南半の大部分は調査区外となる。IV層上面で検出しているが、断面の観察によればⅢ層上面からの掘り込みが確認できる。遺構の重複は見られないが、南端の調査区境付近を道路側溝に伴う掘削により切られている。

〔形状・規模〕 大半が調査区外となるために全体形は不明であるが、概ね東西5.2～5.3m前後の隅丸方形とみられ、北壁を除くいずれかの壁にカマドがつくものと推定される。検出面からの深さは30cm前後となり、IV層（地山）を20cm程掘り込んでいる。床面は平坦であり、北壁際に周溝が断続的に巡るほか、小ピットを2基確認している。小ピットの規模は、直径20～30cm・床面からの深さ28～45cmで、うちp1は掘り方内に径10cm前後となる柱痕様の掘り込みを有するもので、主柱穴であろう。また、壁に沿った床面には焼土を多く含む貼床（層厚2～3cm程）が施されている。

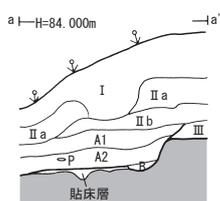
〔埋土・堆積状況〕 A層は炭粒や焼土粒～ブロックを含む黒褐色土で、上下2層に細分され、上層には流れ込みとみられる縄文土器片、下層には古代土器片をそれぞれ含んでいる。周溝埋土（B層）は、焼土粒～ブロックを含む黒色土となる。なお、埋土中には炭化材等は確認できなかった。

〔出土遺物〕 埋土内より土師器坏（236～239）が出土しており、いずれもロクロ使用、底部回転糸切のものである。うち、239は内黒処理が施される。他に、流れ込みとみられる縄文時代晩期の土器（19）が出土している。

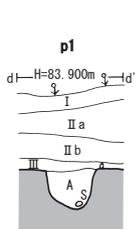
〔時期〕 埋土中の出土遺物から、平安時代の遺構とみられる。



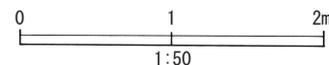
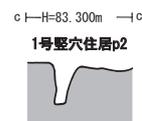
A1層：10YR3/1 黒褐色 しまる 粘性あり
地山粒～ブロック若干混
A2層：10YR3/2 黒褐色 しまる 粘性あり
地山粒～ブロック 30%混
B層：10YR1.7/1 黒色 しまる 粘性あり
地山粒～ブロック塊状に 10～20%混



Ⅰ層：10YR2/3 黒褐色 しまる 草根多く混
Ⅱa層：10YR3/4 暗褐色 固くしまる 粘性あり 縄文土器片多く混
地山粒～ブロック 20%混 炭粒若干混
Ⅱb層：10YR3/3 暗褐色 固くしまる 粘性あり 縄文土器片を含む
地山粒～ブロック 10～20%混 炭粒若干混
Ⅲ層：10YR1.7/1 黒色 固くしまる 粘性強い
A1層：10YR2/2 黒褐色 しまる 粘性ややあり 小礫・縄文土器片を含む
地山粒～ブロック若干混 炭粒及び焼土粒を若干含む
A2層：10YR3/1 黒褐色 ややしまる 粘性ややあり 焼土粒～ブロック 10～20%混
地山粒～ブロック 10～20%混 炭粒若干混 古代土器片を含む
B層：10YR2/1 黒色 ややしまる 粘性あり 焼土粒～ブロック上位中心に 30～40%混
地山粒～ブロック及び炭粒若干混 ※壁周溝



A層：10YR2/2 黒褐色
固くしまる
粘性強い 土器片含む
地山粒～ブロック塊状に
20～30%混 炭粒若干混



第9図 1号竪穴住居跡

2号竪穴住居跡（遺構：第10図・写真図版4、遺物：第25図・写真図版11）

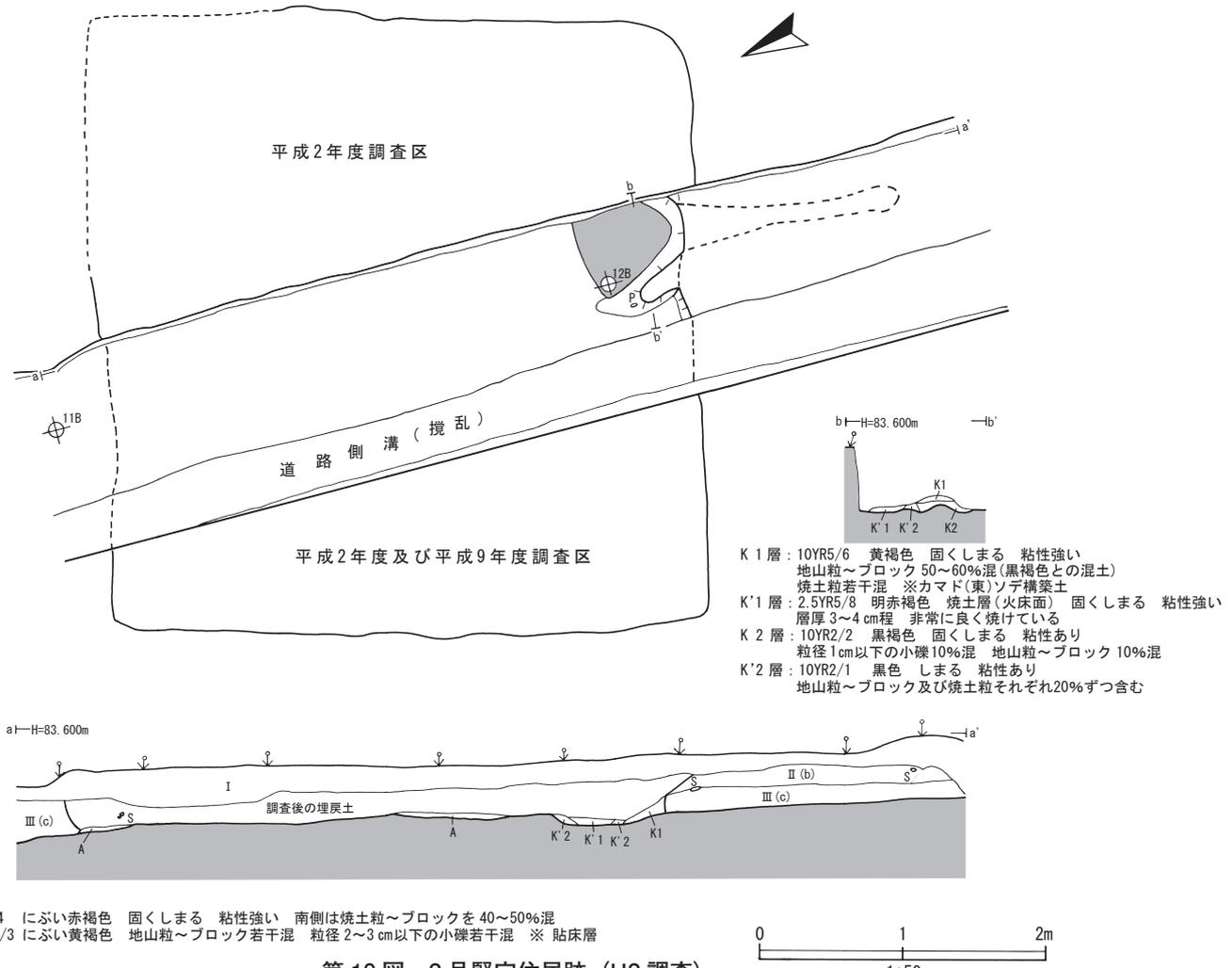
〔位置・検出状況〕 調査区南半の11A グリッド東半～11B グリッド西半付近に位置し、東西壁の軸方向は約28°東傾する。IV層上面で住居に伴うカマド袖及び火床面（平成2年度調査）を検出しており、東壁断面の観察によればⅢ層上面からの掘り込みが確認でき、これは以前の調査成果とも一致する。遺構の重複は見られないが、西端の調査区境付近を道路側溝に伴う掘削により切られている。

〔形状・規模〕 平成2年度の調査成果により、平面形は一辺4m前後の正方形を呈すること、カマドは南壁東寄りに構築され、壁外に煙道（幅30cm・長さ1.4m）が掘り込まれていること等がわかっている。床面はIV層（地山）上面をそのまま利用し平坦となるため、平面上で明確な壁の段差は確認できなかったが、断面の観察によれば検出面（Ⅲ層上面）から床面まで深さ20cm程を測る。同様に、平成2年度に検出済みの煙道についても面的には確認できなかった。検出されたカマドの西側袖は、住居内に長さ60cm・幅30cm・高さ5～10cm程が残存し、一方の東側袖は大部分が調査区外となっている。この両袖に囲まれた部分で、カマド火床面（東西60cm以上・南北68cm程）を検出している。床面にピットは確認されず、また以前の調査で確認されていた貼床はその際に大半は除去されたようであり、今回は部分的に確認されたのみである。

〔埋土・堆積状況〕 埋土状況は平成2年度調査後の埋め戻し土が確認されたのみであるが、前回の調査時に不明であったカマド袖及び火床面の構築層について今回精査を実施している。カマド袖は粘性が強く固くしめる地山粒～ブロック主体の黄褐～黒褐色土（K層）で構築され、2層に細分される。一方、火床面は5cm前後の皿状に浅い地業を行った後で、しまり粘性ともある黒色土（K'層）を張ったもので、やはり2層に細分され、上位（K'1層）は火熱を受け焼土化し明赤褐色を呈している。

〔出土遺物〕 既に調査済みの遺構につき遺物はほとんどないが、わずかにロクロ使用で内黒処理される土師器坏（240）が出土した。

〔時期〕 平成2年度調査時の出土遺物から、平安時代（10世紀代）の遺構とみられる。（※花巻市教育委員会刊『平成2年度 花巻市内遺跡詳細分布調査報告書－花巻地区－』参照）



第10図 2号竪穴住居跡 (H2調査)

【時期不明の遺構】

ここでは、所属時期が不明確な遺構について述べることにする。

掘立柱建物跡（遺構：第8図・写真図版3）

〔位置・検出状況〕 調査区北半の4Dグリッド東半及び4Eグリッド西半付近に位置する。Ⅲ層上位で検出したもので、南北2間・東西1間（東西1.9m・南北2.5m）の範囲に6基の柱穴状ピットが検出された。ただし、南北の間数については、北側調査区外へのびる可能性もあり定かではない。

〔形状・規模〕 個々の柱穴状ピットの規模は直径25～30cm・深さ10～20cmで、柱痕跡をもつものは確認されなかった。柱間距離は南北が1.2～1.3m、東西が1.9mを測る。

〔埋土・堆積状況〕 柱穴状ピットの埋土は、土器片や炭粒を混入する暗褐色～黒褐色土である。なお、遺構の掘り込み面に関しては、前述の深さや埋土の状況からみて、上位のⅡ層からなされている可能性がある。

〔出土遺物〕 小片のために図示していないが、柱穴内より縄文土器片が数点出土している。

〔時期〕 縄文時代の土器片が出土しているが、いずれも磨滅した小片であり時期は不明である。これらの土器片は流れ込みによる混入の可能性があり、柱穴の深さも総じて浅く、かなり上層より掘り込まれた様相を呈しているために、本遺構は後世の建物跡である可能性が高い。

柱穴群（遺構：第11図・写真図版4）

〔位置・検出状況〕 調査区西半の6A・6B～8A・8Bグリッド付近に位置する柱穴状のピット群で、約20基程が確認された。Ⅳ層上面で検出したものであるが、南北断面（東壁）の観察によればp14等のようにⅡ層上面からの掘り込みが複数箇所で見られる。

西隣の平成9・10年度調査区（現在の道路部分）では、東西棟とみられる江戸時代の掘立柱建物跡1棟（東西3m以上・南北6.5m程か、東西1間以上・南北3間（南側1間は庇か））及び柱穴群が検出されている。今回の調査区においても同様の範囲に柱穴群が集中して見つかっており、明確な柱穴配置は認められないため推定ではあるが、平成9・10年度調査の2区p21と今回調査のp3付近、さらに今回調査p17・p13・p14付近等に掘立柱建物跡もしくは柱列跡が所在する可能性が指摘できそうである。

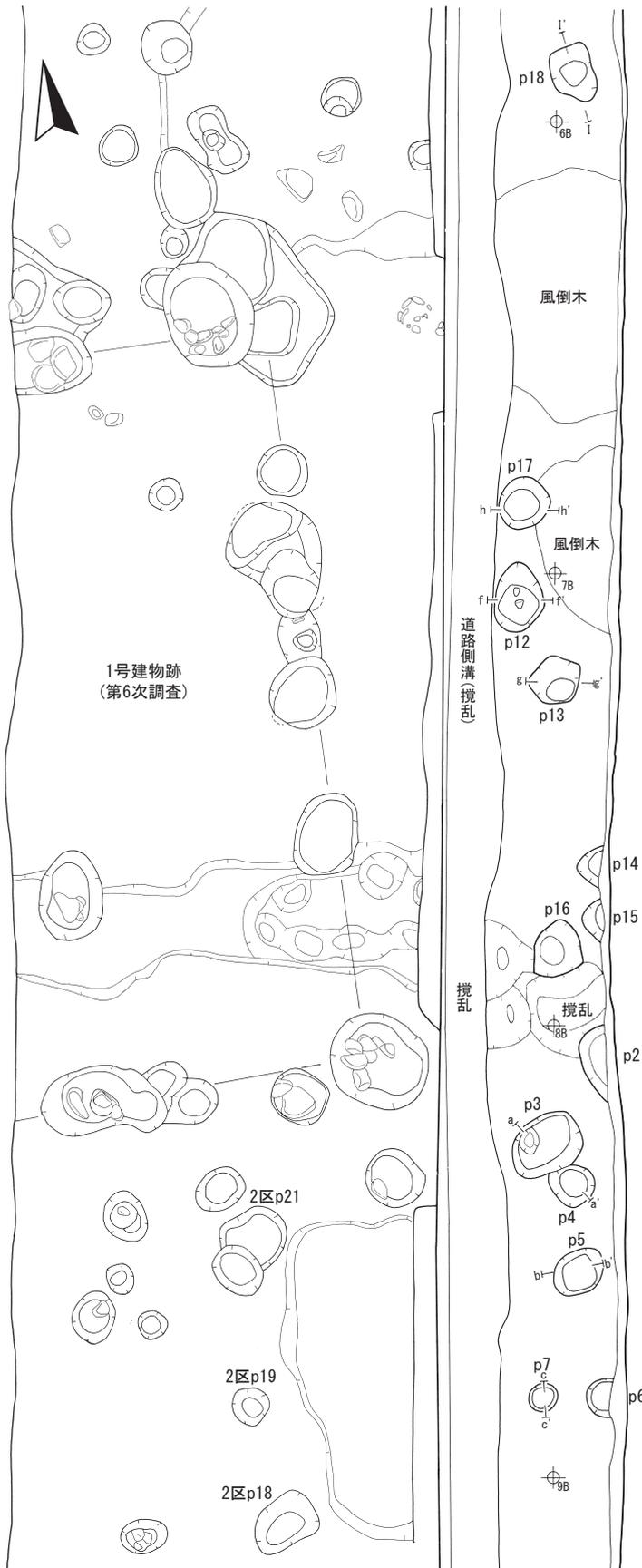
遺構の重複は、p3とp4が重複するものである。

〔形状・規模〕 柱穴状ピットの規模は直径30～50cm前後・深さ10～30cm程で、うちp3・p4、p12のように直径10～15cm前後の柱痕跡（A層）を残すものもみられる。

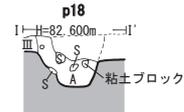
〔埋土・堆積状況〕 A層は土器片を若干含む黒褐色主体土、根固めのB層はⅣ層起源の粒子～ブロックを含み固くしめる暗褐色～黒褐色土となるものが多い。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

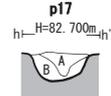
〔時期〕 出土遺物がないため詳細は不明である。しかしながら、平成9・10年度調査区を含む西側隣接地周辺から今回の調査区周辺にかけて掘立柱建物跡等の所在が推定されていることから、江戸時代以降の遺構であろう。



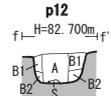
第6次 (H9~10) 調査区



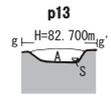
p18
A層: 10YR1.7/1 黒色 しまる 粘性あり
地山粒~ブロック 10~20%混
粒径 4~5 cmの小礫及び砂利 10~20%混
土器片若干混



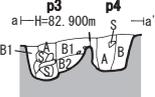
p17
A層: 10YR3/3 暗褐色 しまる 粘性あり 土器片含む
地山粒~ブロック 20%混
粒径 4~5 cmの小礫及び砂利 10~20%混
土器片若干混
B層: 10YR2/2 黒褐色 固くしまる 粘性あり
地山粒~ブロック 30~40%混



p12
A層: 10YR2/2 黒褐色 しまる 粘性あり 土器片含む
地山粒~ブロック 20~30%混
底面に幅 10 cmの扁平礫あり ※径 20 cmの柱痕
B1層: 10YR3/2 黒褐色 固くしまる 粘性あり
地山粒~ブロック 30%混
B2層: 10YR3/4 暗褐色 固くしまる 粘性あり
地山粒~ブロック 40~50%混

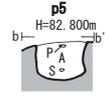


p13
A層: 10YR2/2 黒褐色 固くしまる 粘性あり
粒径 5 cm以下の小礫若干混
地山粒~ブロック 20%混 炭粒若干混



<p3>
A層: 10YR3/3 暗褐色 しまる 粘性あり 一辺 10cm前後の川原石多数混
地山粒~ブロック若干混 ※径14cmの柱痕
B1層: 10YR3/2 黒褐色 固くしまる 粘性あり
地山粒~ブロック 20%混 土器片若干混
B2層: 10YR3/1 黒褐色 固くしまる 粘性あり
地山粒~ブロック 10~20%混

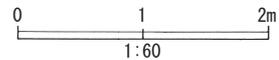
<p4>
A層: 10YR3/3 暗褐色 しまる 粘性あり 径1~3 cmの小礫及び
地山粒~ブロック若干混 ※径10~15 cmの柱痕
B層: 10YR2/2 黒褐色 固くしまる
地山粒~ブロック塊状に20~30%混



p5
A層: 10YR1.7/1 黒色 固くしまる 粘性強い 土器片若干混
東壁際中心に地山粒~ブロック塊状に20%混



p7
A1層: 10YR3/2 黒褐色 固くしまる 粘性あり
炭粒及び焼土粒・小礫若干混
A2層: 10YR3/1 黒褐色 固くしまる 粘性あり
炭粒・土器片若干混
地山粒~ブロック 20~30%混



第 11 図 調査区西半ピット群 (H9・10 調査区を合成)

【遺構外の出土遺物】（第 14～25 図、写真図版 5～11）

調査区全域にわたって I～II 層より、縄文～古代にかけての大量の土器片（縄文土器がほとんど）、少量の石器及び石製品・土製品、陶磁器等を出土している。掲載にあたっては、以下に述べる基準により選別を行い、掲載することとした。遺構外出土遺物の大部分を占める縄文土器に関しては、一括出土等により完形及び半完形のものや文様帯のある精製・半精製土器（破片を含む）を中心に選別を行い、また粗製土器であっても器形や施文に特徴のあるものは選別し掲載した。掲載順については縄文後期⇒晩期とし、多くを占める晩期については大きく精製・半精製土器⇒粗製土器の順に配列し、それぞれ鉢・台付鉢・深鉢・壺・浅鉢・皿・注口土器といった器種毎の配列を行い、さらに各器種内を大洞 B・BC・C1・C2・A 式といった時期順に便宜上配列した。出土した石器については、剥片石器⇒礫石器の順に配列し、原則として定形石器を掲載し、不定形石器については紙面の都合から一覧表掲載のみに留めている。陶磁器（近世～近代）については、出土量が限られ全て遺構外出土であるため、掲載を割愛している。

①土器（第 14～20 図・写真図版 5～9）

22～31 は縄文時代後期とみられる土器である。22～26 のように沈線による倒卵状の磨消縄文がつくもの、29～31 のように網目状捺糸文がつくものなどがみられ、いずれも器厚は厚めである。

32～155 は縄文時代晩期に属する精製・半精製土器類である。32・39～52・55～87 は鉢もしくは深鉢類で、中でも鉢型のものが主体となる。うち、32・39～47 は沈線に加え研磨されるものや羊歯状文に特色のある大洞 B～BC 式、48～52・55～59 は大洞 BC・C1 式移行期、60～81・87 は磨消縄文による雲形文主体の大洞 C1～C2 式、82～86 は工字文が描かれる大洞 A 式にそれぞれ併行する時期のものであり、文様帯はいずれも胴部上半にある。33・34・37・38・53・54 は台付鉢で、全て大洞 B～BC 式併行期のものとみられ、33 は外面に赤彩が施される。35・88～90 は壺類で、肩部に文様の描かれるものである。91～128 は浅鉢・皿であり、うち 91 のみ大洞 BC 式併行とみられる以外は大洞 C1～C2 式とみられるものが多い。皿類には、93・97・99 などのように体～底部境界がはっきりせず丸底風となるものがあり、底部を除く外面に文様が施される。36・105～120 は注口土器であり、完形のもの少ないが 105 は比較的残りが良く、壺もしくは算盤玉状の器形にやや上方を向く注ぎ口をつけた形状となる。36・105～113・115・116 は大洞 B～BC 式、114・117～120 は大洞 C1～C2 式併行期のものである。121 は香炉であり、羊歯状文が施される大洞 BC 式とみられるもので、122 も香炉の外面上半につく装飾突起の可能性はある。

123～155 は半粗製のもので、鉢もしくは深鉢・台付鉢といった器種がみられる。羊歯状文の退化した平行沈線間の刻み目や平行沈線による幅の狭い文様帯が口縁部に施されるもので、口縁端には連続刻み目もしくは山型の小突起がつく。いずれも大洞 C1～C2 式併行期とみられるものが多い。

156～171 は粗製土器類である。156～165 は深鉢類で、総じて大型のものが目立つ。156～163 は口縁端に連続刻み目がつき、また 156～158・160～162 は口縁部に単～多条の平行沈線文が施されるもので、大洞 C2 式前後に属するものであろう。166～171 は壺類で、うち 165 は口縁端近くや頸～胴部の境界付近に平行沈線、167 は口縁端に地文の施されるもの。168～170 は小型のものである。172 は欠損後に浅鉢（または壺）の底部付近を皿として再利用したもので、欠損部分が摩耗している。173 は大型の四足土器で、大洞 A 式前後のものである。174～176 はミニチュアの壺もしくは台付鉢類で、いずれも無文のものである。

②土製品（第 21 図・写真図版 10）

177～181 は土偶とみられ、全て中空のものであり、完形で出土のものはない。177・178 は遮光器土偶で、土器と類似する文様のみられる大洞 BC 式前後のものである。179 は、顔付土器の口縁部片の可能性も残る。181 は大型土偶の腕部片である。

182・184・185・187～194 はその他の土製品類である。182 は中空の亀形土製品で、長軸上の両端に 2 箇所の小穿孔を施すものである。内部に粘土粒（小石？）1 個を含む縄文時代晩期の遺物である。184 は、朱塗りの耳栓である。185～194 は土製円盤であり、主に粗製土器の胴部片を再利用し周縁を打ち欠いている。185・187～189 は中央に穿孔がされ周縁が摩耗するもので、190～194 は穿孔の無いものである。文様からみて、185 は大洞 C2 式、193 は大洞 B～BC 式期のもので、他のものも概ね縄文時代晩期に属するものであろう。

③石器 (第 22・23 図・写真図版 10・11)

197～213 は剥片石器類、214～216・218～223 は礫石器類である。

197～207 は、石鏃類である。うち、197～200 は有茎のもので、205～207 は棒状、201・202 は無茎（凹基）のもの、また 203・204 は木葉形もしくは柳葉形のものである。うち、200 は大型で、基部側の片縁にタール状の付着物が残る。208～211 は石錐で、うち 208～210 は基部がやや明瞭に作り出される。212 は、大型の縦型石匙である。213・219 は、両面調整石器である。

214～216 は磨製石斧類で、全て欠損しているが、214 に限り接合している。218 は礫石錘で、1 点のみ出土している。220 は敲打磨石で、長軸上の一端と一側縁が主な機能面である。221 は打製石斧（未成品）、222 は石鋏で特に基部側に摩耗が目立つ。223 は砥石で、上下両端を除く各面に擦痕が観察される。

④石製品 (第 24 図・写真図版 11)

224～226 は石棒もしくは棒状石製品であり、うち 224 は頭部が明確に作り出される。227 は岩板で、片面に正中線様の沈線が刻まれるほか、各面に擦痕が顕著にみられる縄文時代晩期のものである。

228～230 は、有孔の石製品類である。228 は白色を呈し、片面に連続刻みによる縁取りがあるもの。229・230 は垂飾品とみられ、229 は勾玉状、230 は暗緑色を呈し一辺に突出部をもつ小型のものである。

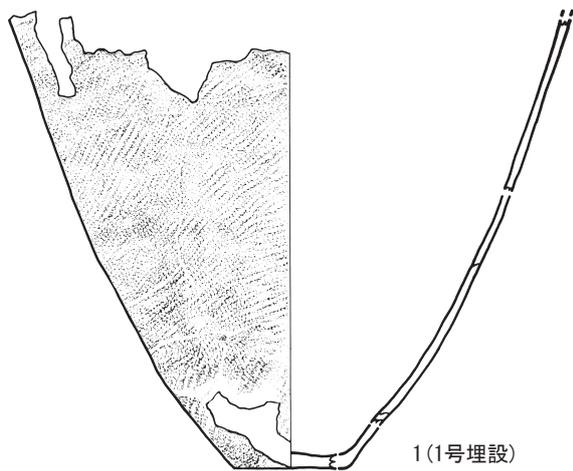
231～235 は石製円盤であり、前述の土製円盤と類似する形状となるものである。扁平な石材を利用し、周縁の打ち欠きが一周するものが多い。うち、233 は打ち欠きが全周せず途切れるもので、未成品の可能性はある。なお、土製円盤にみられた穿孔が施されるものは、一切含まれない。

⑤古代土器 (第 25 図・写真図版 11)

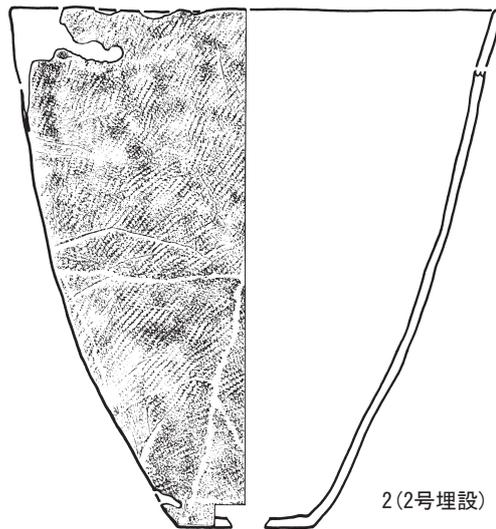
241～243 は土師器坏で、243 のみロクロ未使用で体部下半に浅い沈線が巡る。244～248 は、ロクロ未使用の土師器甕である。

249～251 は須恵器坏で、底部糸切のものが多い。252 は須恵器瓶の胴部下半～底部片で、低い台部がつくもの。253 は須恵器大甕の胴部上半片で、外面に平行タタキ目がつく。

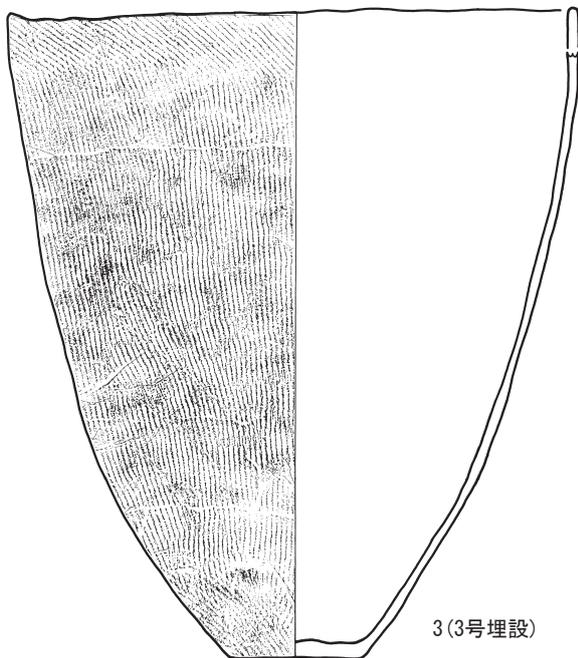
なお、236～240 については住居内の出土につき、竪穴住居跡出土遺物の項を参照されたい。



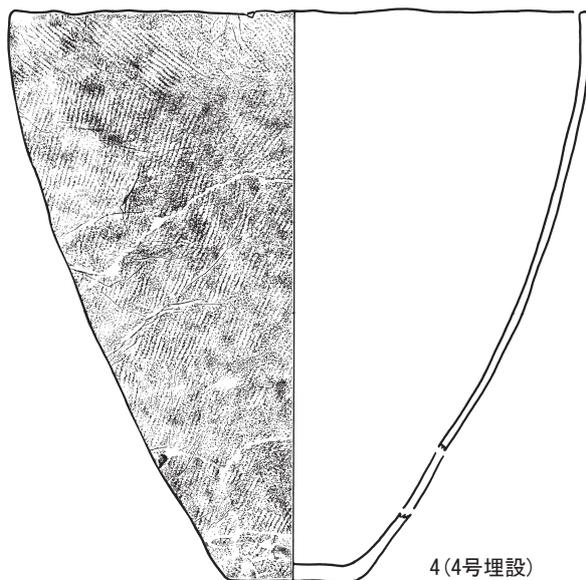
1(1号埋設)



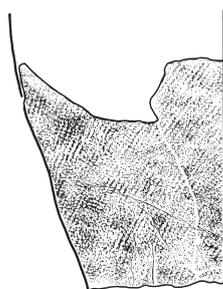
2(2号埋設)



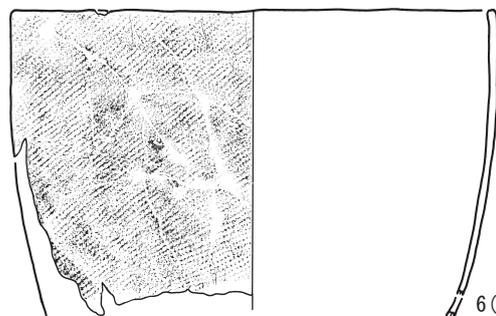
3(3号埋設)



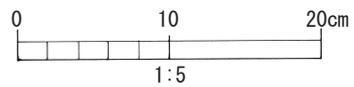
4(4号埋設)



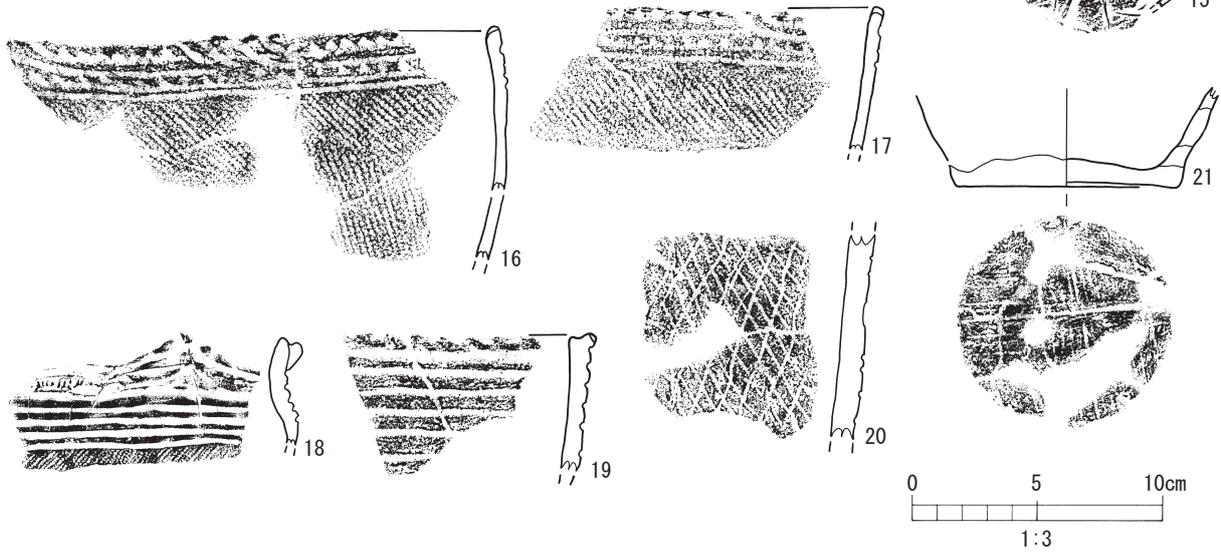
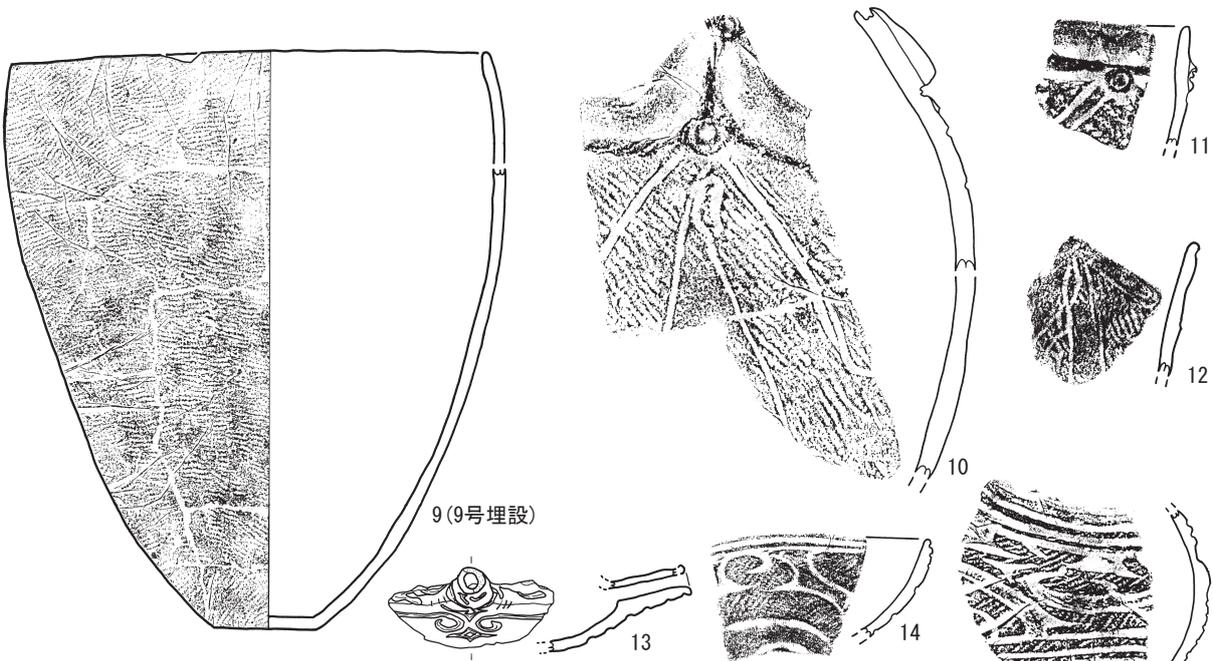
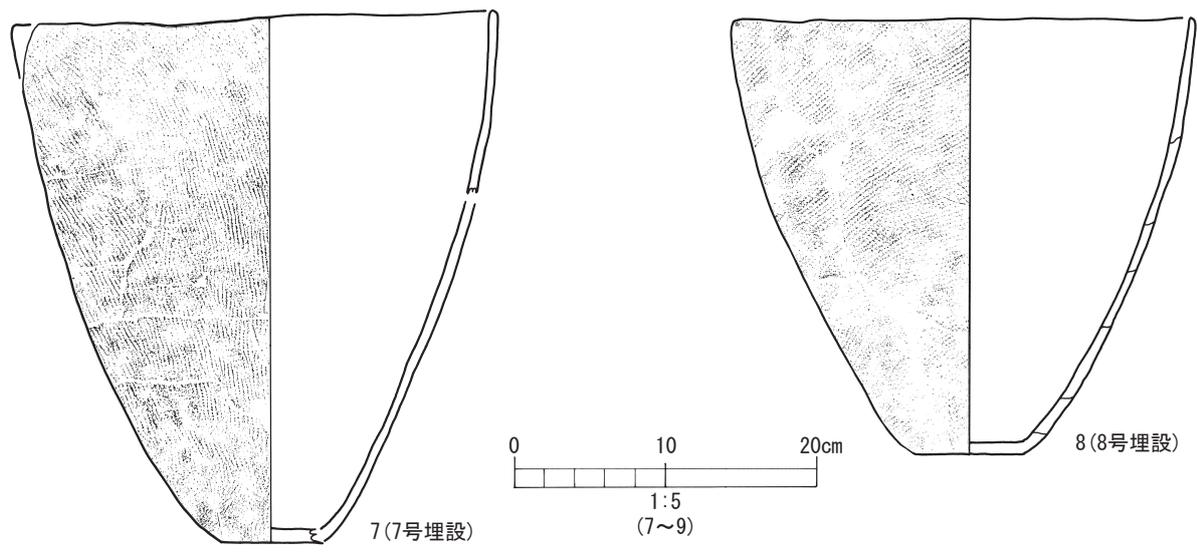
5(5号埋設)



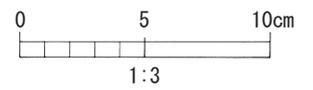
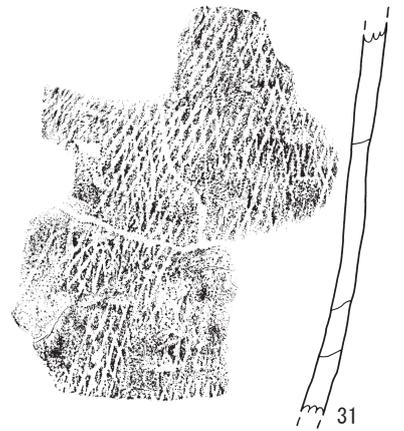
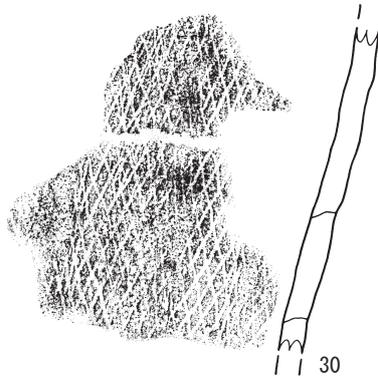
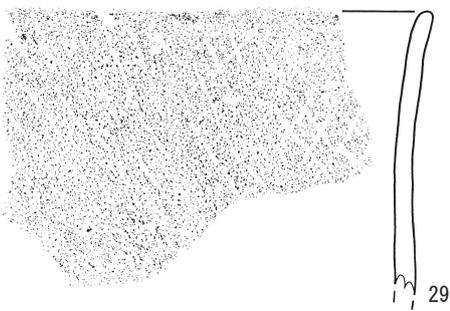
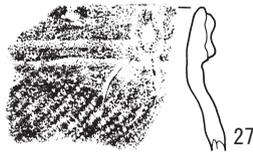
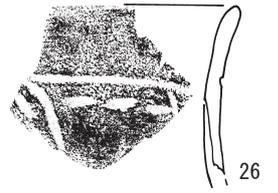
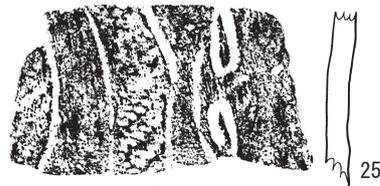
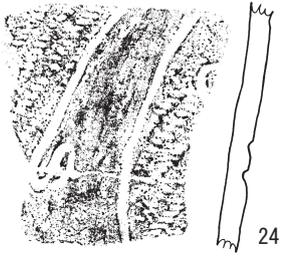
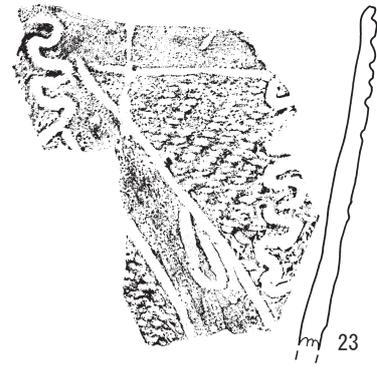
6(6号埋設)



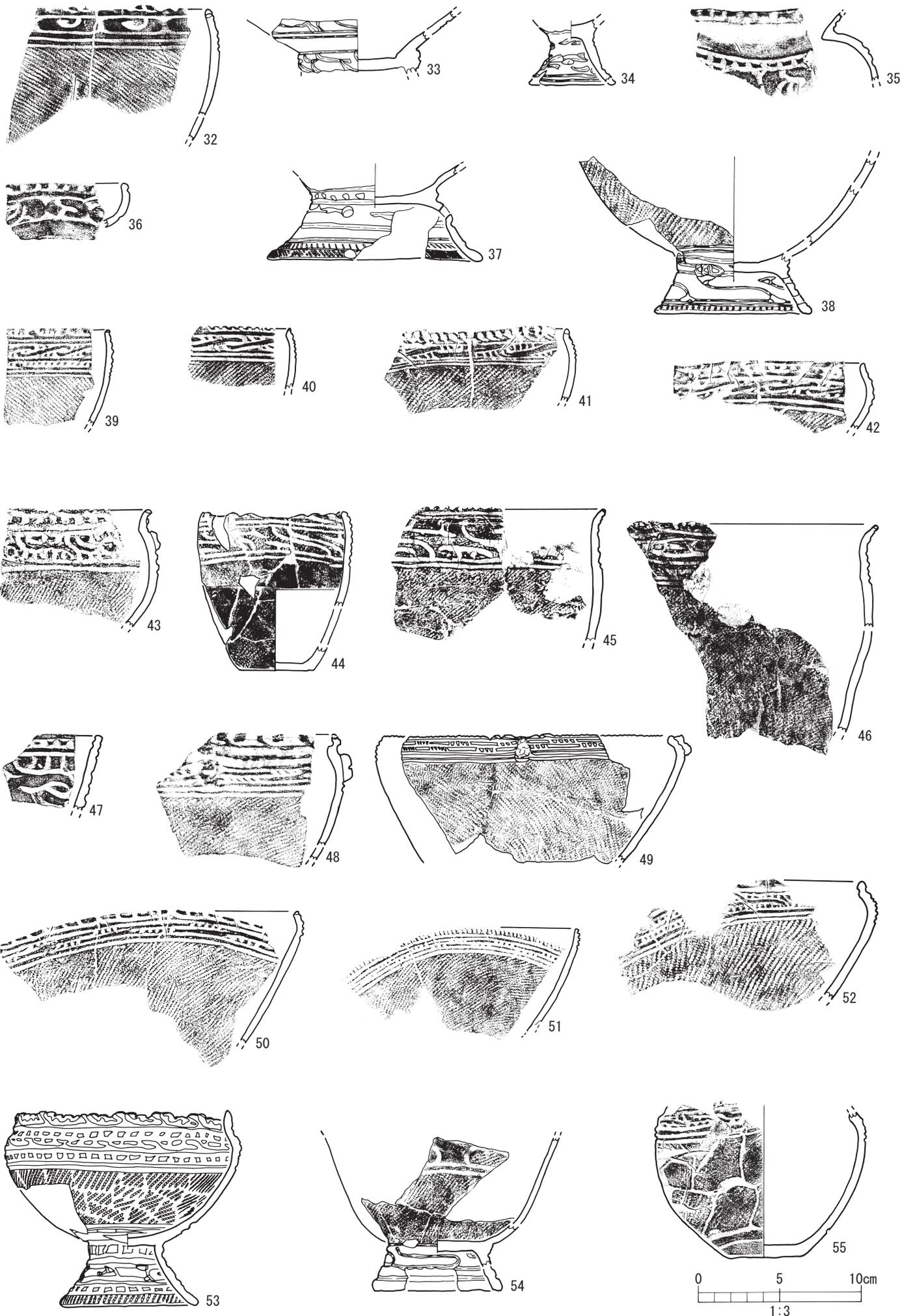
第12図 出土遺物(1) 埋設土器



第13図 出土遺物(2) 埋設土器ほか遺構内出土土器



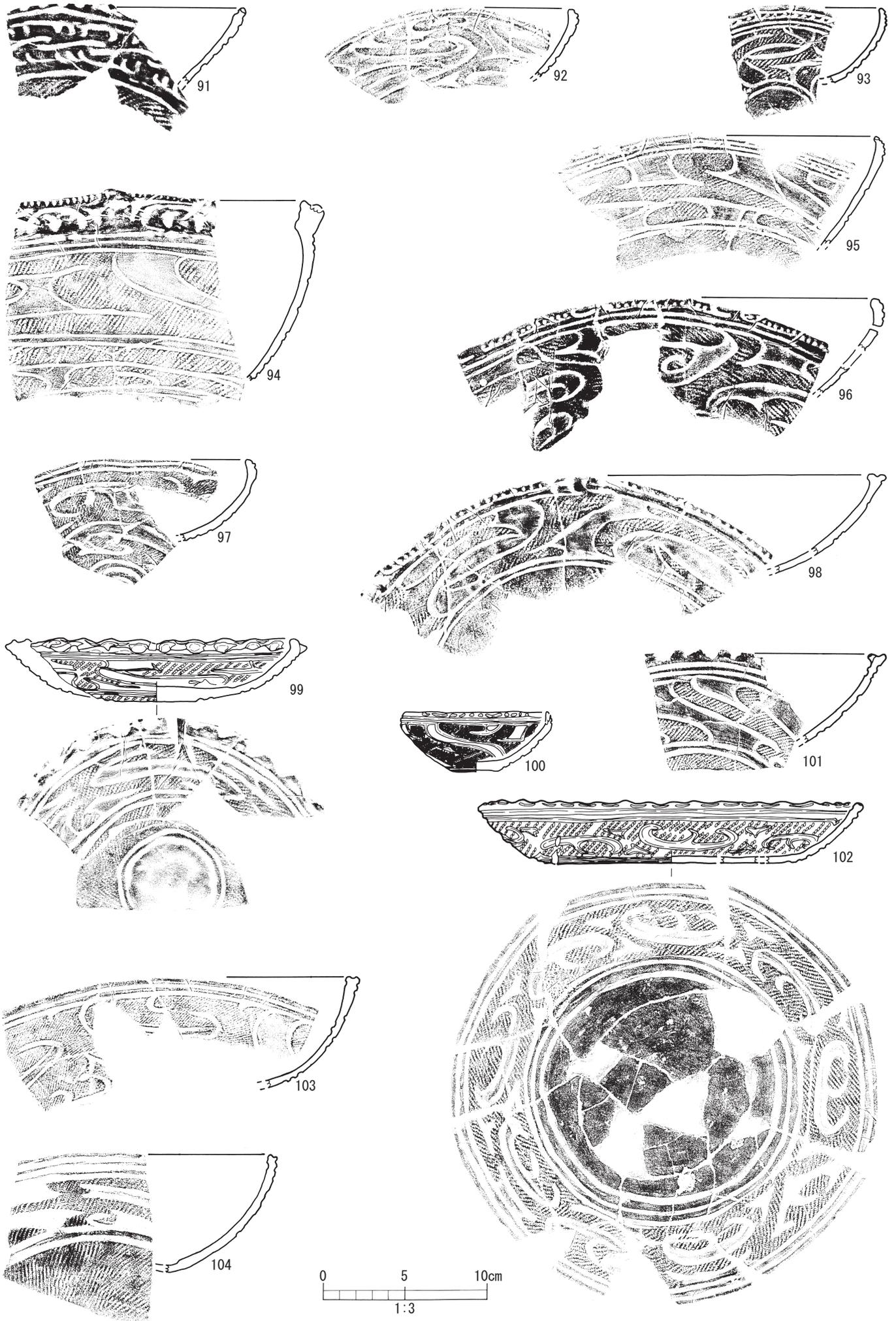
第14図 出土遺物(3) 縄文土器(後期)



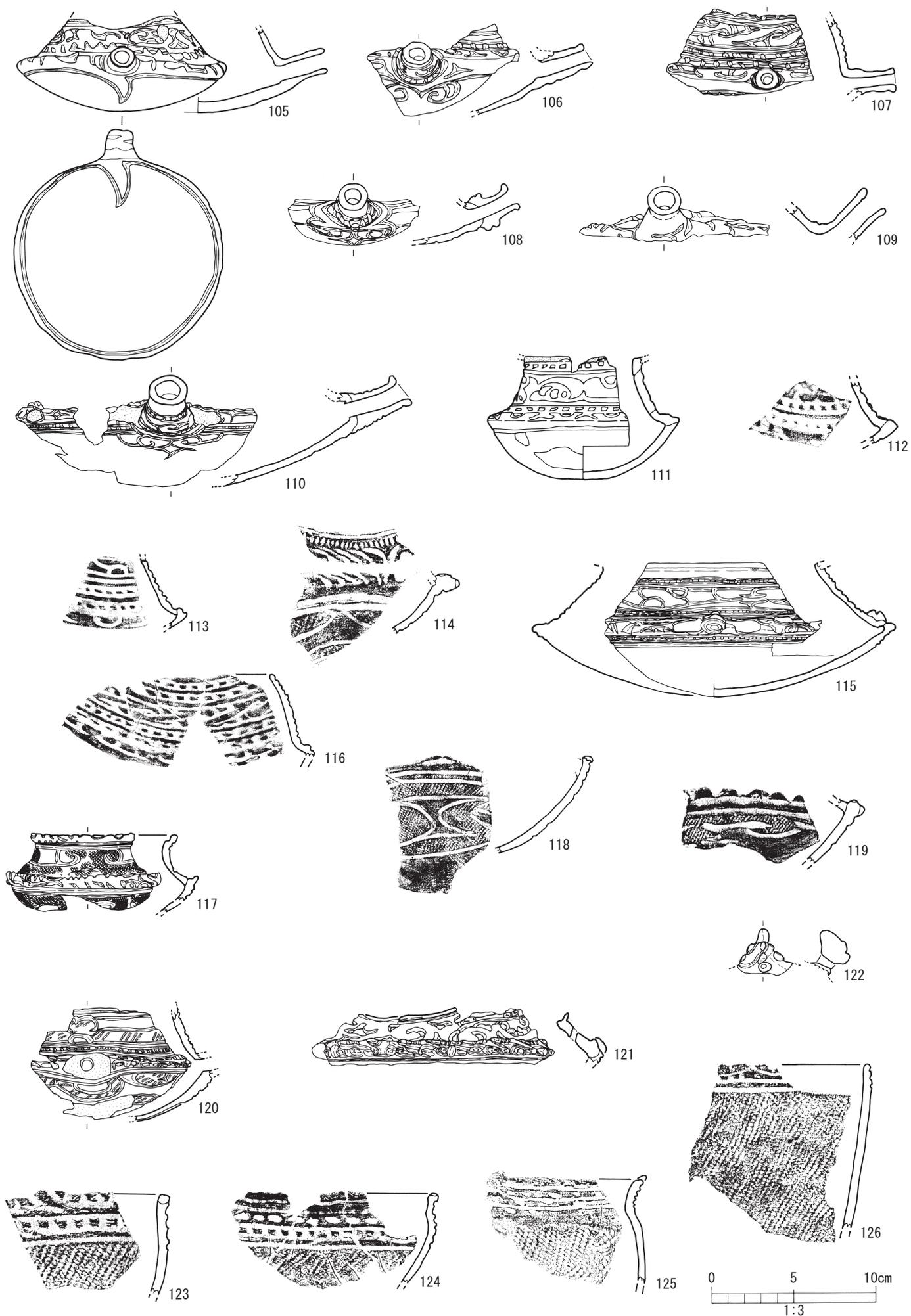
第 15 図 出土遺物 (4) 縄文土器 (晩期①)



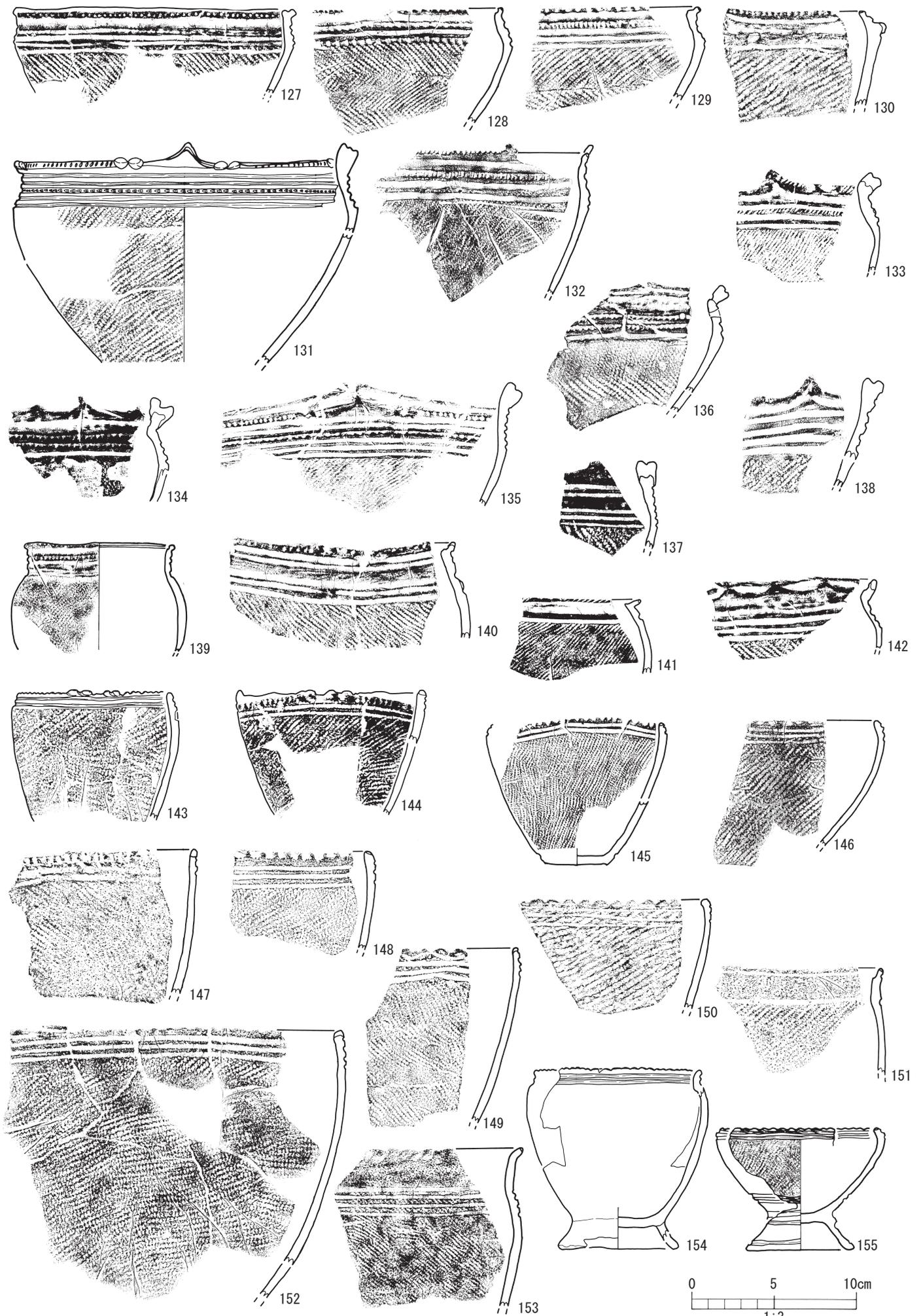
第 16 図 出土遺物 (5) 縄文土器 (晩期②)



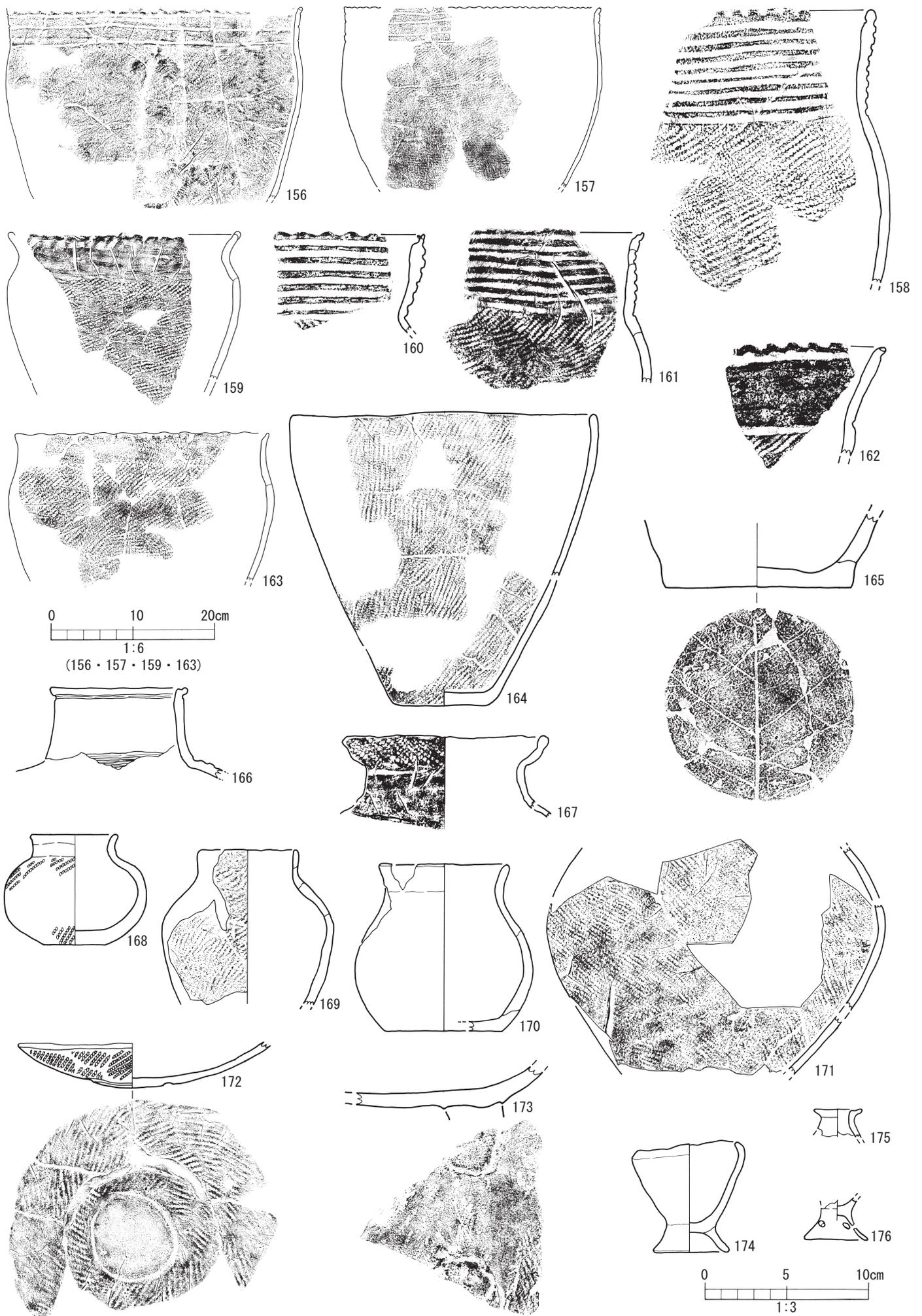
第 17 図 出土遺物 (6) 縄文土器 (晩期③)



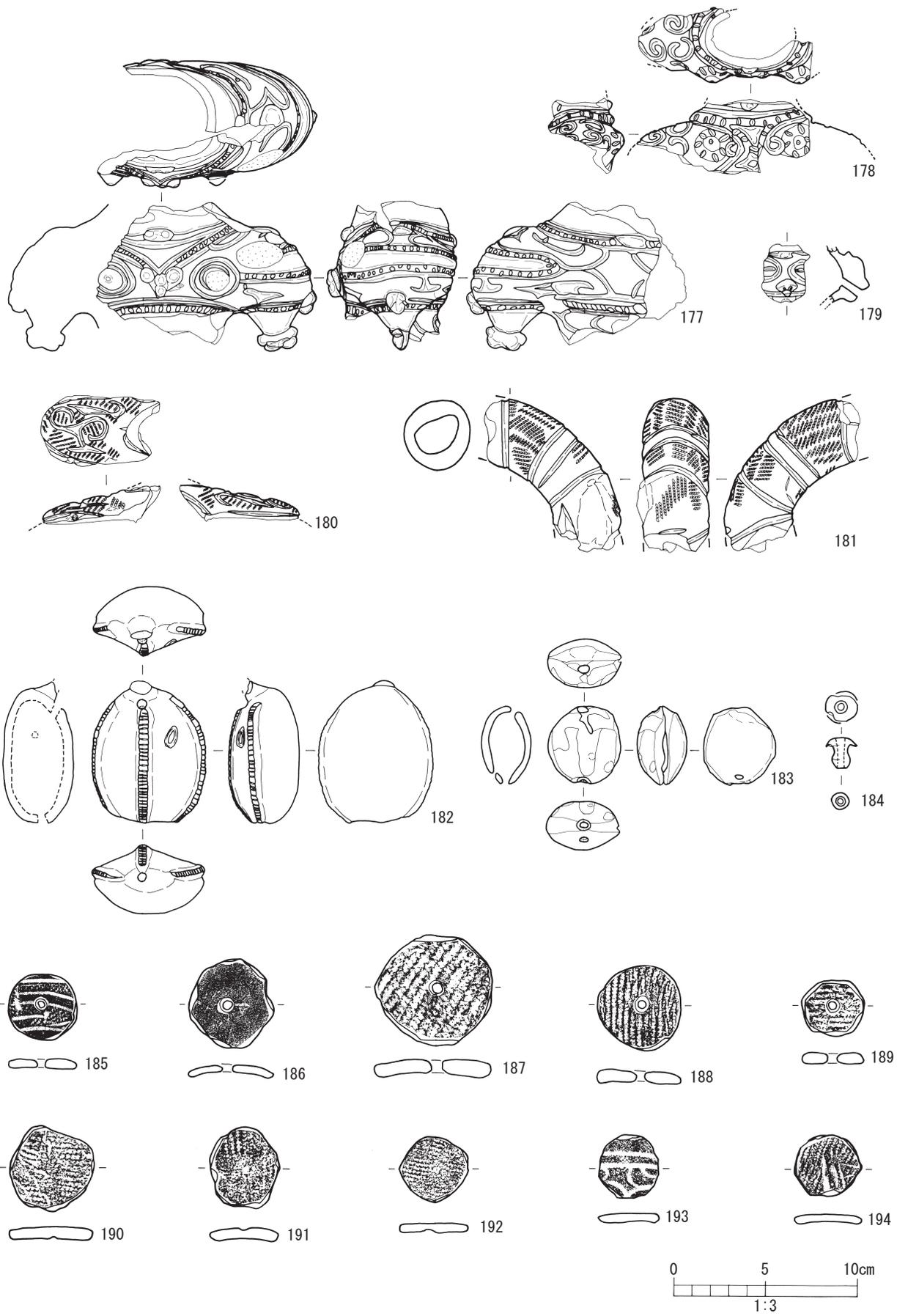
第 18 図 出土遺物 (7) 縄文土器 (晩期④)



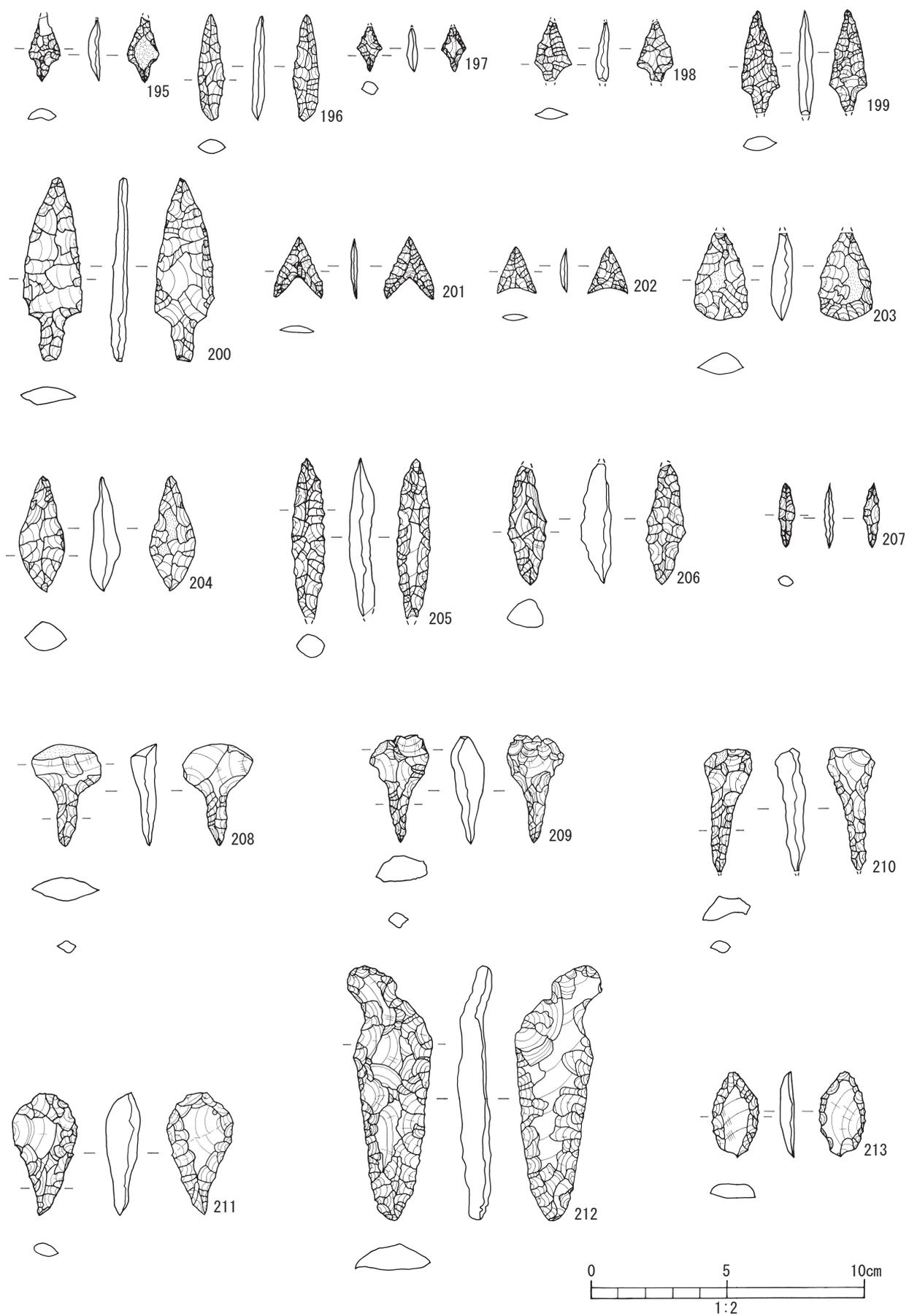
第 19 図 出土遺物 (8) 縄文土器 (晩期⑤)



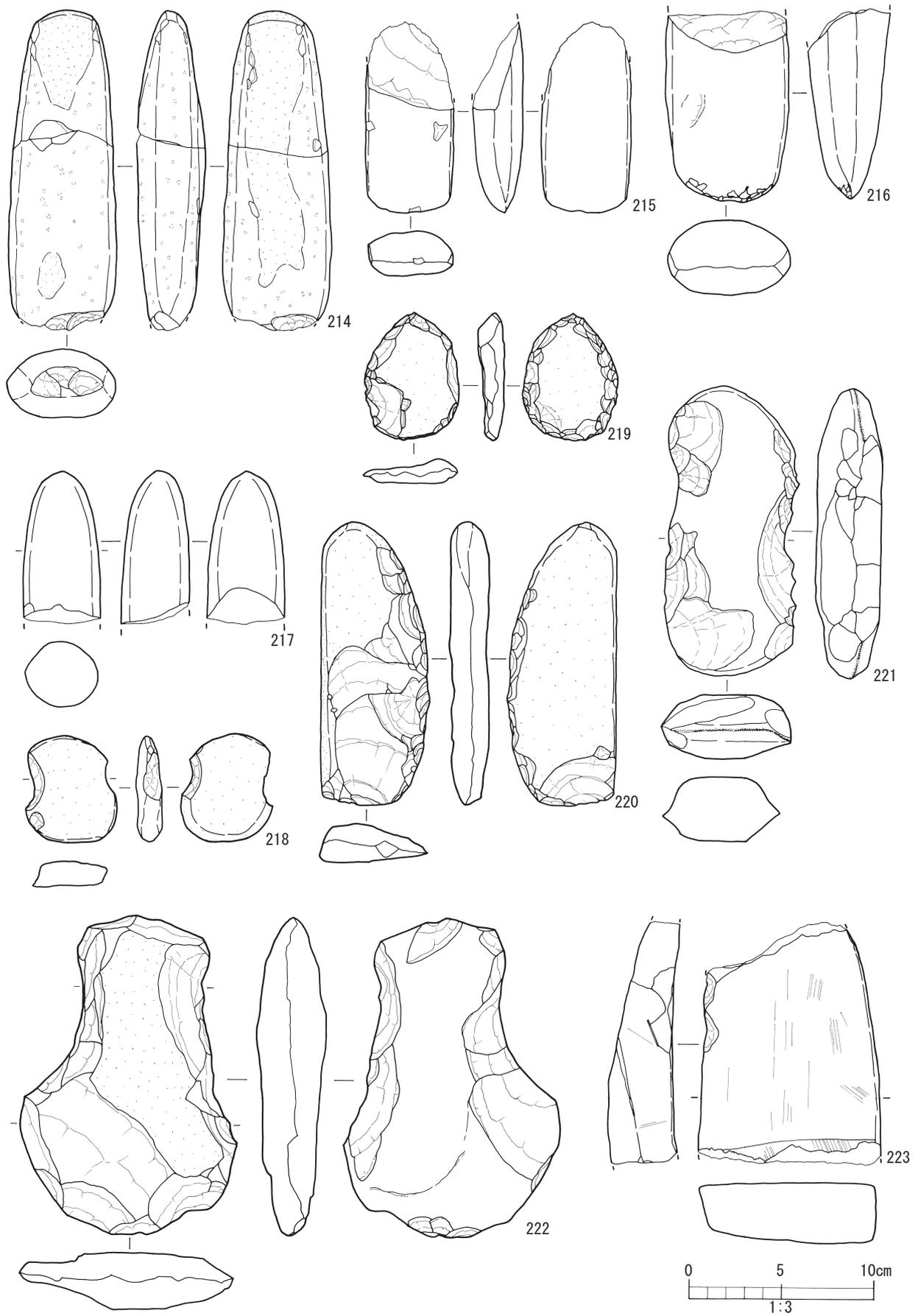
第 20 図 出土遺物 (9) 縄文土器 (晚期⑥)



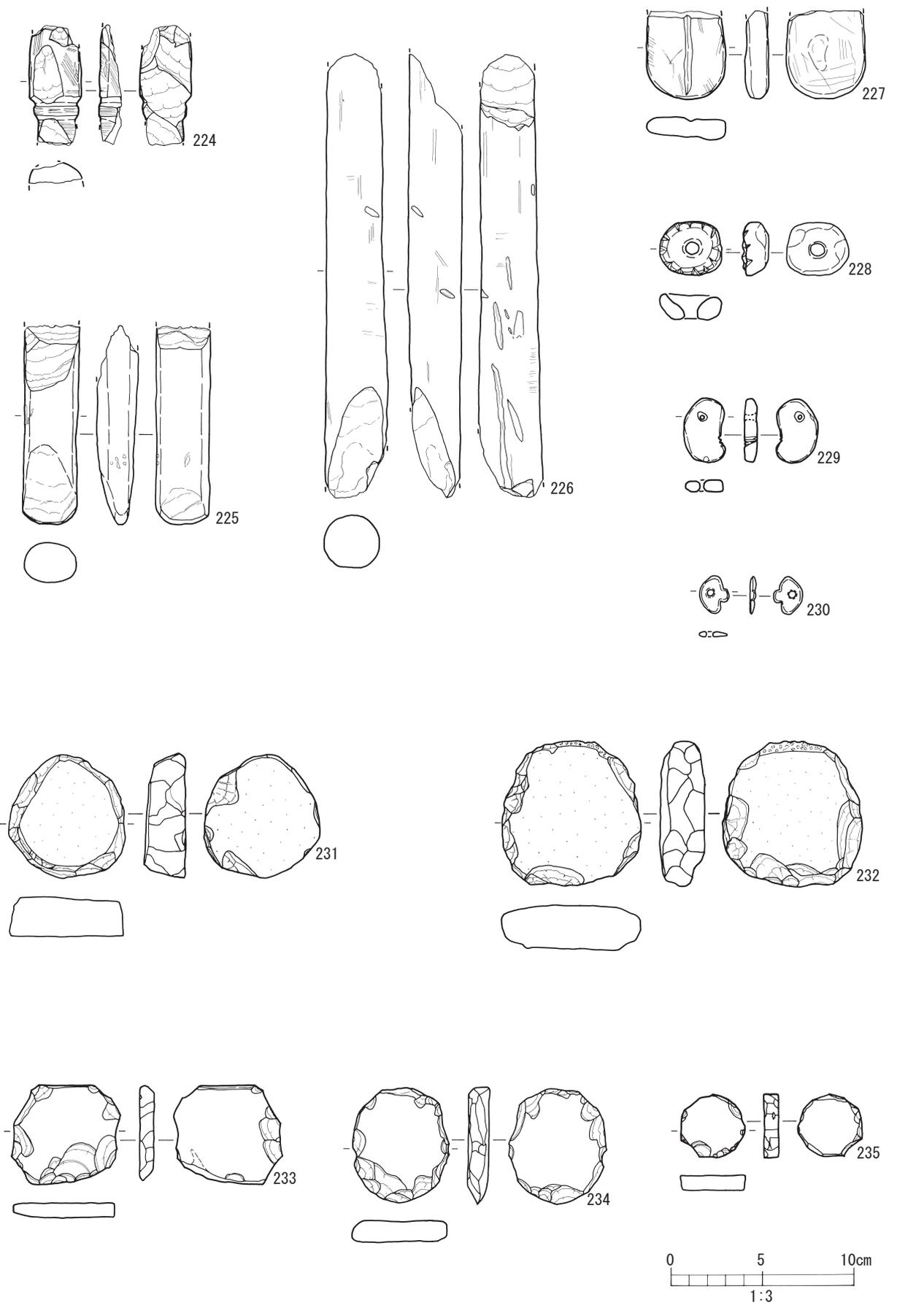
第21图 出土遺物 (10) 土製品



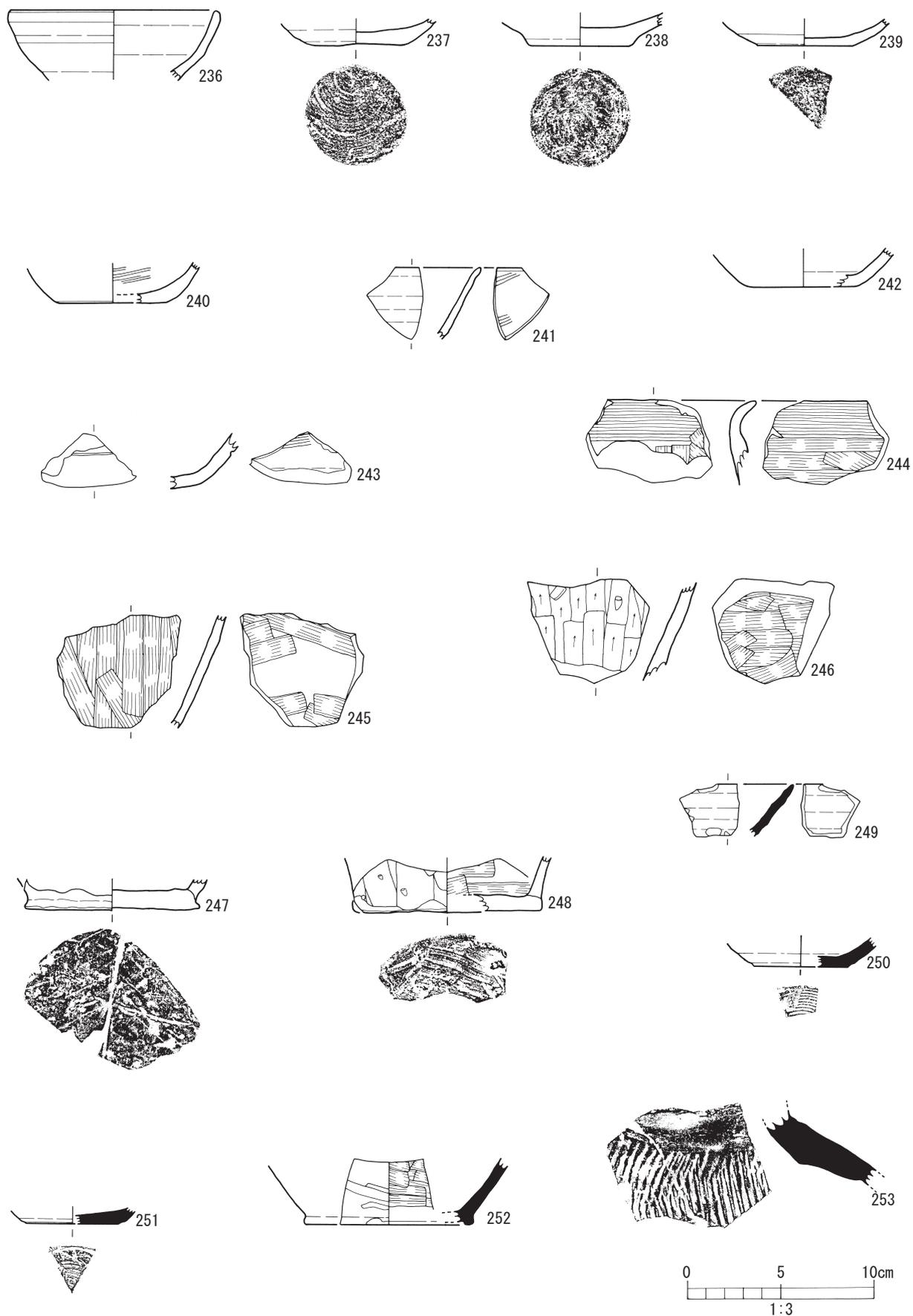
第 22 图 出土遺物 (11) 石器① (剥片石器)



第23图 出土遺物 (12) 石器② (礫石器)



第 24 図 出土遺物 (13) 石製品



第 25 图 出土遺物 (14) 古代土器

名称	グリッド	開口部径 (cm)	深さ (cm)	底面標高値 (m)
ピット1	13B	(31) × (20)	17.3	82.828
ピット2	8B	(61) × (13)	(40.3)	81.032
ピット3	8B	66 × (54)	36.6	80.092
ピット4	8B	(48) × 33	29.5	81.176
ピット5	8B	50 × 36	33.7	81.131
ピット6	8B	(34) × (22)	13.2	81.310
ピット7	8B	27 × 24	16.6	81.235
ピット8	9B	32 × (28)	15.5	81.155
ピット9	9B	22 × 22	14.2	81.185
ピット10	9B	(47) × (46)	26.3	81.152
ピット11	9B	32 × 29	22.0	81.100
ピット12	7A	62 × 44	26.6	82.323
ピット13	7A	48 × 43	10.1	82.556
ピット14	7B	(35) × (21)	(20.3)	82.499
ピット15	7B	(39) × (18)	(6.9)	82.633
ピット16	7B	(51) × (43)	16.2	82.521
ピット17	6A	47 × 44	22.4	82.340
ピット18	5B	52 × 36	32.2	82.086
ピット19	4C	(14) × (22)	11.9	81.832
ピット20	4D	28 × 24	20.6	81.878
ピット21	4D	42 × 37	24.4	81.896
ピット22	4D	28 × 27	17.6	81.799
ピット23	5D	27 × 24	9.3	82.227
ピット24	5D	28 × 24	12.2	81.918
ピット25	6D	(24) × (10)	(5.9)	(82.414)
ピット26	4E	32 × 30	20.7	81.749
ピット27	4E	30 × 26	13.6	81.892
ピット28	5E	29 × 27	16.8	81.937
土坑	14B	80 × 71	45.1	82.742

表1 柱穴・土坑計測表

※ () 内は残存値。

■土器

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	器種	部位	計測値			文様	備考
								口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)		
1	001	1号埋設	5B	—	縄文土器	深鉢	胴～底	—	76	(297)	LR横～斜(不整)	
2	002	2号埋設	5B	—	縄文土器	深鉢	準完形	324	90	344	不整(LR横が主体)	
3	003	3号埋設	4D	—	縄文土器	深鉢	準完形	375	87	431	(口縁及び胴下端) RL横(胴) RL斜	
4	004	4号埋設	4D	—	縄文土器	深鉢	完形	382	84	378	(口縁・胴下端) RL横(胴) RL斜	
5	005	5号埋設	4D東半	—	縄文土器	深鉢	胴	(272)	—	(183)	RL縦	
6	006	6号埋設	4D東半	—	縄文土器	深鉢	口縁～胴	(320)	—	(191)	LR横	
7	007	7号埋設	4D東半	—	縄文土器	深鉢	準完形	314	66	352	RL斜	
8	008	8号埋設	5D東側ガトレンチ	—	縄文土器	深鉢	準完形	307	76	299	LR横	
9	009	9号埋設	4E	—	縄文土器	深鉢	準完形	309	65	373	LR斜	
10	018	竪穴状	6D東側ガトレンチ	埋土	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(190)	RL横	
11	022	竪穴状	6D	貼床	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(48)	LRL縦(複節)	
12	020	竪穴状	7D	貼床	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(54)	RL横	
13	016	竪穴状	6D西半	埋土下位	縄文土器	注口	注口～胴	—	—	(32)	—	
14	015	竪穴状	7D西半	埋土上位	縄文土器	浅鉢	口縁	—	—	(45)	—	
15	017	竪穴状	6D東半	埋土下位	縄文土器	壺	胴	—	—	(72)	—	
16	011	竪穴状	6D南北ベルト	埋土	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(90)	RL横	
17	012	竪穴状	6D南北ベルト	埋土	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(55)	RL横	
18	014	竪穴状	6D東半	埋土上位	縄文土器	台付鉢	口縁	—	—	(41)	LR横	
19	019	1号竪穴住居	13C南北ベルト	貼床	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(56)	—	
20	013	竪穴状	6D南北ベルト	埋土	縄文土器	深鉢	胴	—	—	(84)	網目状燃系	
21	023	竪穴状	6D	貼床	縄文土器	深鉢	底	—	90	(38)	—	敷物痕
22	224	—	5E	Ⅱ層～Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(235)	LR縦	
23	241 244	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(142)	RL縦	接合
24	234	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴	—	—	(97)	RL縦	
25	227	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴	—	—	(65)	RL横	
26	043	—	3B	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(68)	—	
27	160	—	4E	Ⅰ層	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(57)	LR横	
28	076	—	12B	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(43)	条痕(縦)	
29	147	—	5D北半	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(114)	網目状燃系(縦)	
30	139	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴	—	—	(130)	網目状燃系(縦)	

表2 出土遺物観察表

※ () 内は残存値。

■土器

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	器種	部位	計測値			文様	備考
								口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)		
31	236	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴	—	—	(159)	網目状燃系(横)	
32	062	—	5B	I層~II層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(81)	RL横	
33	184	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	台付浅鉢	胴~台	—	—	(38)	—	
34	133	—	5D	Ⅱ層	縄文土器	台付鉢	底~台	—	(50)	(36)	—	小型
35	025	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	壺	頸~胴	—	—	(45)	—	2号焼土下層
36	178	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	注口	口縁	(122)	—	(28)	—	
37	182	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	台付鉢	高台	—	128	(55)	—	大型
38	129-1	—	5D	I層	縄文土器	台付鉢	胴~底	—	(96)	(96)	—	
39	115	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(58)	RL横	
40	054	—	4B	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(35)	LR横	
41	228	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	(170)	—	(43)	LR横	
42	100	—	4D	Ⅱ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(40)	LR横	
43	026	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(72)	LR横	2号焼土下層
44	176	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	準完形	86	46	98	LR横(磨消)	小型
45	058	—	5B	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(81)	LR横	
46	067	—	6B	—	縄文土器	深鉢	口縁~胴	—	—	(127)	LR横	風倒木(北側)
47	028	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(47)	—	2号焼土下層
48	113	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(77)	—	
49	087	—	12C	I層	縄文土器	鉢	口縁~胴	(176)	—	(78)	RL横	
50	188	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	(146)	—	(81)	不整(LR横)	
51	198	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	(110)	—	(65)	不整(LR横)	
52	129-2	—	5D	I層	縄文土器	鉢	胴~底	—	(96)	(96)	LR横	
53	146	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	台付浅鉢	準完形	124	79	121	LR	
54	127	—	5D	I層	縄文土器	台付鉢	胴~底	—	80	(95)	LR横(磨消)	
55	036	—	2B南東壁寄	Ⅲ層	縄文土器	鉢	胴~底	(118)	(45)	(91)	羽状縄文(結節なし)横	
56	075	—	12B	Ⅱ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(78)	LR横	
57	061	—	5B	I層~II層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(50)	磨消縄文	
58	031	p21	4D南半	埋土	縄文土器	壺	口縁~頸	—	—	(40)	—	
59	081	—	4C	I層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(76)	LR横	
60	068	—	6B	—	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(26)	LR横(磨消)	風倒木(北側)
61	121	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(44)	LR横(磨消)	
62	194	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(44)	—	
63	144	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(63)	LR横(磨消)	
64	181	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	—	—	
65	063	—	6B	—	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(110)	LR横	風倒木(北側)
66	082	—	4Cサブトレンチ	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(60)	LR横(磨消)	
67	223	—	5E東側	I層~II層	縄文土器	鉢	口縁	(176)	—	(40)	—	小型
68	118	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	(132)	—	(103)	LR横(磨消)	
69	110	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(56)	RL横	
70	109	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(71)	LR横	
71	120	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(51)	RL横(磨消)	
72	174	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(52)	LR横	
73	098	—	4D	Ⅱ層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(104)	(頸部)RL横 (胴部)LR縦	
74	205	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁~胴	—	—	(53)	LR横(磨消)	
75	168	—	4E	Ⅲb層~Ⅲc層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(47)	LR横(磨消)	
76	085	—	12C	I層	縄文土器	鉢	口縁~胴	—	—	(48)	LR横(磨消)	
77	119	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(52)	LR横(磨消)	
78	079	—	2C	I層~II層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(63)	LR横(磨消)	
79	247	—	13E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(42)	LR横(磨消)	
80	099	—	4D	Ⅱ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(65)	LR横	
81	104	—	4D	Ⅲ層上位	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(36)	—	
82	192	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	(106)	—	(44)	—	
83	193	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(41)	—	
84	164	—	4E	I層	縄文土器	鉢	口縁~胴	(150)	—	(50)	—	小型
85	197	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(39)	—	
86	041	—	2B	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(29)	—	小型
87	149	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁~底	(118)	—	(85)	—	小型
88	171	—	4E	Ⅲb層~Ⅲc層	縄文土器	壺	胴	—	—	(24)	LR横(磨消)	
89	071	—	6B	埋土	縄文土器	壺	頸~胴	—	—	(52)	LR横	
90	035	—	5A	Ⅲ層	縄文土器	壺	胴(肩)	—	—	(52)	LR横(磨消)	
91	117	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	浅鉢	口縁	—	—	(33)	LR横	
92	214-1	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	浅鉢	口縁~胴	(136)	—	(46)	LR横(磨消)	
93	032	p21	4D南半	埋土	縄文土器	皿	口縁~底	—	—	(46)	—	丸底風、小型
94	216	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	浅鉢	口縁~胴	(400)	—	(115)	LR横(磨消)	大型
95	240	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	浅鉢	口縁~胴	(180)	—	(66)	—	
96	185	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	浅鉢	口縁~胴	(180)	—	(58)	—	
97	242	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	皿	口縁~底	(120)	—	(45)	LR横(磨消)	丸底
98	218	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	皿	口縁~胴	(204)	—	(63)	LR横(磨消)	
99	248	—	4C東半	I層~II層	縄文土器	皿	口縁~胴	(184)	(50)	39	LR横(磨消)	丸底風平底、 内面朱塗
100	090	—	2D北西	Ⅱ層	縄文土器	浅鉢	準完形	(88)	(25)	(36)	LR横	焼土上、 丸底気味、小型
101	130	—	5D	I層	縄文土器	皿	口縁~胴	—	—	(55)	LR横(磨消)	
102	128	—	5D中央北端	I層	縄文土器	皿	準完形	235	150	38	LR横(磨消)	
103	050	—	4B	Ⅲ層	縄文土器	皿	口縁~胴	(127)	—	(69)	—	
104	064	—	6B	埋土(上~中位)	縄文土器	皿	口縁~胴	—	—	(66)	LR横	丸底風
105	102	—	4D	Ⅲa層	縄文土器	注口	注口~胴	—	(127)	(50)	—	
106	209	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	注口	注口~胴	—	—	(55)	—	
107	030	p21	4D南半	埋土	縄文土器	注口	口縁~注口	—	—	(53)	—	
108	167	—	4E	Ⅲa層	縄文土器	注口	注口~胴	—	—	(37)	—	
109	212	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	注口	注口~胴	—	—	(34)	—	
110	108	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	注口	注口~胴	—	—	(74)	—	丸底風

■土器

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	器種	部位	計測値			文様	備考
								口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)		
111	131	—	5D	Ⅱ層	縄文土器	注口	胴～底	—	30	(75)	—	丸底
112	029	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	注口	胴	—	—	(37)	—	2号焼土下層
113	122	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	注口	胴	—	—	(45)	—	—
114	152	—	7D	Ⅰ層	縄文土器	注口	胴	—	—	(45)	LR横(磨消)	—
115	096	—	4D	Ⅱ層	縄文土器	注口	胴～底	—	—	82	—	丸底
116	145	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	注口	口縁	—	—	(50)	—	—
117	060	—	5B	Ⅲ層	縄文土器	注口	口縁～胴	(80)	—	(48)	RL横(磨消)	—
118	150	—	6D	Ⅰ層～Ⅱ層	縄文土器	注口	胴	—	—	(61)	LR横(磨消)	—
119	132	—	5D	Ⅱ層	縄文土器	注口	胴	—	—	(38)	LR横(磨消)	—
120	239	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	注口	口縁～胴	—	—	(60)	LR横(磨消)	—
121	046-1	—	4B	Ⅲ層	縄文土器	香炉形	口縁～胴	—	—	(32)	—	—
122	073	—	6B	攪乱中	縄文土器	香炉形	口縁上部	—	—	(28)	—	—
123	024	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(61)	LR横	2号焼土下層
124	137	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(54)	LR横	—
125	027	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(64)	LR横	2号焼土下層
126	097	—	4D	Ⅱ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(100)	LR横	—
127	153	—	12D北西隅	Ⅰ層～Ⅱ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	84	—	(52)	RL横	—
128	052	—	4B	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(70)	羽状縄文横	—
129	138	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(62)	羽状縄文(結節なし)横	—
130	229	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(58)	LR横	—
131	220	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	(210)	—	(135)	LR横	—
132	051	—	4B	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(91)	LR横	—
133	232	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(60)	LR横	—
134	169	—	4E	Ⅲb層～Ⅲc層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(66)	—	—
135	217-2	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	(182)	—	(81)	LR横	—
136	243	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(82)	羽状縄文(結末なし)横	—
137	089	—	13C	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(54)	RL横	—
138	208	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(69)	—	—
139	186	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	(92)	—	(66)	LR横	—
140	177	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	(142)	—	(60)	RL横	—
141	226	—	5E北西隅	Ⅲ層上位	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(45)	LR横	—
142	195	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁	—	—	(43)	RL横	—
143	215	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	(95)	—	(79)	不整	小型
144	162	—	4E	Ⅰ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	(112)	—	(77)	LR横	小型
145	112	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～底	(109)	36	87	不整(LR横主体)	無文、小型
146	055	—	4B	Ⅲ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(77)	LR横	小型
147	142	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(89)	不整(LR横主体)	—
148	207	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(61)	LR横	—
149	095	—	4D	Ⅱ層	縄文土器	鉢	口縁～胴	—	—	(118)	RL横	—
150	116	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(67)	LR横	—
151	190	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	(118)	—	(64)	LR横	—
152	111	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	(236)	—	(164)	不整(LR横主体)	—
153	107	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(95)	RL横	—
154	219	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	台付鉢	準完形	102	74	110	無文	—
155	136	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	台付鉢	口縁～底	(104)	72	75	LR横	—
156	156	—	2E北半	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	(360)	—	(236)	不定方向	—
157	080	—	2C	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(221)	LR横	—
158	183	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(168)	LR横	—
159	125	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	(280)	—	(203)	LR横	—
160	042	—	3B	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(62)	—	—
161	170	—	4E	Ⅲb層～Ⅲc層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	—	—	(92)	LR横	—
162	157	—	2E	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁	—	—	(70)	LR横	—
163	047	—	4B	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁～胴	(155)	—	(181)	不整(LR横主体)	—
164	124	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	準完形	(184)	55	(179)	不整方向(LR横?)	小型
165	106	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	深鉢	底	—	116	(45)	—	木葉痕
166	165	—	4E	Ⅲa層	縄文土器	壺	口縁～頸	(84)	—	(50)	—	—
167	166	—	4E	Ⅲa層	縄文土器	壺	口縁～頸	(125)	—	(40)	RL横	—
168	123	—	4D	Ⅲ層	縄文土器	壺	準完形	52	38	68	LR横	小型
169	233	—	5E	Ⅲ層	縄文土器	壺	口縁～胴	(62)	—	(95)	LR横	—
170	105	—	4Dサトレンテ	Ⅲ層	縄文土器	壺	準完形	78	(70)	103	—	—
171	135	—	5D北端	Ⅲa層	縄文土器	壺	胴	—	(104)	(146)	RL横	—
172	140	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	皿	胴～底	—	50	(25)	LR横	丸底風
173	039	—	2B	Ⅲ層	縄文土器	四足(浅鉢)	底	—	—	(28)	LR横	—
174	148	—	5D	Ⅲ層	縄文土器	台付鉢	完形	60	45	67	—	小型
175	088	—	13C	Ⅰ層	縄文土器	壺	口縁	30	—	(17)	—	小型
176	191	—	4E	Ⅲ層	縄文土器	台付鉢	底～高台	—	41	—	—	小型

■土製品

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	計測値				備考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
177	002	—	4D	Ⅰ層	土偶	(82)	(120)	(70)	137.1	—
	003			Ⅱ層						
178	005	—	4D	Ⅲ層	土偶	(41)	(91)	(42)	36.9	—
179	007	—	4E	Ⅲ層	土偶	(57)	(26)	(15)	10.2	頭部
180	001	—	4B北西	(Ⅰ～Ⅱ)層	土偶	(20)	(65)	(20)	34.2	腕部
181	004	—	4D	Ⅲa層	土偶	(85)	(75)	(40)	107.3	—
182	010	—	4D北西	Ⅲa層	亀形	77	61	38	90.9	—
183	009	竪穴状	6D	埋土	亀形	43	40	27	19.0	—
184	011	ピット状	2D北西	埋土上位	耳栓	17	17	17	1.9	—
185	018	—	13E	Ⅲ層中位	土製円盤	36	36	6	7.4	有孔
186	012	竪穴状	6D西半	埋土中位	土製円盤	49	45	7	12.0	有孔
187	017	—	4E	Ⅲ層	土製円盤	60	64	10	36.7	有孔
188	013	—	4D	Ⅰ層	土製円盤	47	45	8	18.0	有孔、2号焼土上
189	014	—	13B	Ⅲ層	土製円盤	31	34	6	6.7	有孔
190	024	—	4E	Ⅲ層	土製円盤	47	45	7	19.5	—

■土製品

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	計測値				備考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
191	026	—	4E	Ⅲ層	土製円盤	45	38	7	12.7	
192	027	—	4E	Ⅲ層	土製円盤	37	37	5	8.4	
193	019	—	5A	Ⅲ層	土製円盤	35	32	6	7.5	
194	020	—	6B	I層	土製円盤	34	36	5	7.6	
—	006	—	11D	I層	土偶	(33)	(28)	(6)	6.7	頭～体部上半
—	008	—	4E	Ⅲ層	土偶	(15)	(31)	(7)	12.8	脚部
—	015	—	5D	Ⅲ層	土製円盤	40	(15)	7	8.1	有孔、1/2 残存
—	016	—	4E	Ⅲ層	土製円盤	37	(20)	4	3.7	有孔、1/2 残存
—	021	—	4D	Ⅲ層	土製円盤	37	33	5	9.4	
—	022	—	5D	Ⅱ層	土製円盤	32	32	5	6.6	
—	023	—	6D	I層～Ⅱ層	土製円盤	29	25	5	4.6	
—	025	—	4E	Ⅲ層	土製円盤	30	31	6	7.2	
—	028	—	4E	Ⅲ層	土製円盤	53	52	10	23.1	
—	029	—	4E	Ⅱb層～Ⅲc層	土製円盤	61	52	7	31.9	
—	048	—	4E	I層	土偶	(8)	(28)	(9)	4.8	脚部
—	049	—	7D	I層	土偶	(21)	(19)	(9)	10.5	脚部

■石器

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	計測値				備考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
195	001	竪穴状	6D 東半	埋土中	石鏃	24	11	4	0.8	有茎
196	002	竪穴状	6D 西半	埋土中	石鏃	39	10	5	1.5	棒状
197	028	—	4E	I層	石鏃	(17)	9	4	0.6	小型、有茎
198	012	—	12B	Ⅱ層	石鏃	22	13	5	1.0	有茎
199	022	—	6D	Ⅱ層	石鏃	37	14	5	2.1	有茎
200	005	—	3B	I層	石鏃	67	22	7	7.5	大型、有茎
201	021	—	5D 北半	Ⅲ層	石鏃	23	18	2	0.5	凹基
202	029	—	4E 西側	Ⅲb層～Ⅲc層	石鏃	17	14	2	0.3	凹基
203	013	—	13B	Ⅲ層	石鏃	32	20	8	4.2	凸基
204	004	—	11A	I層	石鏃	43	17	11	6.0	
205	019	—	4D	I層	石鏃	59	12	9	5.8	棒状
206	011	—	10B	I層	石鏃	44	13	11	5.6	棒状
207	020	—	5D	Ⅱ層	石鏃	23	6	3	0.4	小型、有茎(棒状)
208	042	—	9E	I層	石鏃	37	26	9	4.3	基部有
209	037	—	9C	I層	石鏃	39	21	12	6.2	基部有、小型
210	035	—	2B	Ⅲ層	石鏃	(45)	17	11	4.0	基部有
211	038	—	4E 西半	Ⅲ層上位	石鏃	45	23	12	10.9	
212	033	—	4E 西半	Ⅲ層上位	石鏃	94	31	13	25.4	大型、縦型
213	025	—	6D	I層	両面調整石器	31	17	5	2.7	
214	115	—	5D	Ⅲ層	磨製石斧	175	58	33	560.0	
215	114	—	5C	Ⅲ層	磨製石斧	104	48	27	173.9	
216	113	—	5C	I層	磨製石斧	104	67	41	435.0	
217	109	竪穴状	6D 東半	埋土下位	磨製石斧	84	40	35	223.0	
218	139	—	13A	Ⅲ層	石鏃	59	50	14	55.0	
219	143	—	4D	I層	両面調整石器	70	51	12	52.3	
220	142	—	5D 北半	Ⅲa層	敲打磨石	155	59	22	281.0	
221	120	—	3C	I層	打製石斧	159	70	35	584.4	
222	124	—	4B	I層	石鏃	174	117	35	800.0	
223	137	—	6D	I層～Ⅱ層	砥石	133	99	37	660.0	
—	003	竪穴状	6D 西半	貼床	石鏃	22	14	4	1.0	有茎
—	006	—	4B	Ⅲ層	石鏃	24	15	4	1.4	有茎
—	007	—	6B	I層	石鏃	27	13	4	2.0	有茎
—	008	—	9B	I層	石鏃	25	13	7	1.8	
—	009	—	10B	I層	石鏃	25	14	4	0.9	有茎
—	010	—	10B	I層	石鏃	25	17	5	1.6	有茎
—	014	—	6C	I層	石鏃	17	10	3	0.5	基部欠損
—	015	—	9C	I層	石鏃	41	24	9	7.6	
—	016	—	13C	I層	石鏃	34	14	6	4.0	有茎
—	017	—	13C	Ⅲ層	石鏃	25	10	5	1.0	有茎
—	018	—	2D	I層～Ⅱ層	石鏃	38	12	11	5.0	
—	023	—	6D	I層	石鏃	34	20	8	5.0	
—	024	—	6D	I層	石鏃	25	11	6	1.1	有茎
—	026	—	9D	I層	石鏃	28	16	4	1.8	有茎
—	027	—	12D	I層	石鏃	27	17	7	3.1	
—	030	—	5E	I層～Ⅱ層	石鏃	29	14	5	2.3	
—	031	—	12E	Ⅱ層	石鏃	24	13	4	1.0	基部欠損
—	032	—	試掘トレンチ1	Ⅱ層	石鏃	20	16	6	1.5	凹基
—	034	—	5D	I層	石槍	51	44	16	21.9	大型、縦型
—	036	—	9B	I層	石鏃	21	10	5	0.8	基部有、小型
—	039	—	4E	Ⅲ層	石鏃	34	13	7	2.7	
—	040	—	5E	Ⅱ層～Ⅲ層	石鏃	25	13	8	1.5	
—	041	—	9E	I層	石鏃	25	17	8	2.3	基部有
—	043	—	6D	Ⅲ層	石鏃	51	37	11	10.0	縦型
—	044	竪穴状	6D	貼床	不定形	25	13	5	1.0	
—	045	1号竪穴住居	13C 東半	埋土	不定形	55	37	19	33.0	
—	046	1号竪穴住居	13C 西側	埋土上位	不定形	49	33	12	19.0	
—	047	—	6A	I層	不定形	43	22	10	9.0	
—	048	—	6A	I層	不定形	43	38	11	22.0	
—	049	—	6A	Ⅲ層上位	不定形	79	49	19	58.0	
—	050	—	6A	Ⅲ層	不定形	23	21	6	2.0	

■石器

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	計測値				備考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
-	051	-	13A	Ⅲ層	不定形	42	31	27	33.0	
-	052	-	4B	I層~Ⅱ層	不定形	47	31	13	19.0	
-	053	-	4B	Ⅲ層	不定形	31	19	8	4.0	
-	054	-	6B	-	不定形	53	34	11	20.0	風倒木 (北側)
-	055	-	6B	-	不定形	81	39	15	39.0	風倒木 (北側)
-	056	-	8B	I層	不定形	43	31	10	12.0	
-	057	-	9B	I層	不定形	42	18	6	4.0	
-	058	-	10B	I層	不定形	62	51	30	112.0	
-	059	-	10B	I層	不定形	15	16	3	0.6	
-	060	-	12B	Ⅱ層	不定形	42	34	13	15.0	
-	061	-	13B	I層	不定形	33	27	7	4.9	
-	062	-	13B	I層	不定形	40	30	17	20.1	
-	063	-	13B	Ⅱ層	不定形	52	36	11	17.8	
-	064	-	13B	Ⅱ層	不定形	43	39	12	16.2	
-	065	-	13B	Ⅲ層	不定形	46	29	14	17.3	
-	066	-	2C	I層~Ⅱ層	不定形	29	26	13	12.5	
-	067	-	2C	Ⅲ層	不定形	23	19	6	3.2	
-	068	-	4C	Ⅲ層	不定形	67	48	15	36.0	
-	069	-	5C	Ⅲ層	不定形	39	35	13	16.9	
-	070	-	6C	I層	不定形	33	22	9	5.3	
-	071	-	6C	I層~Ⅱ層	不定形	57	31	25	35.5	
-	072	-	12C	I層	不定形	41	36	11	13.1	
-	073	-	12C	I層	不定形	63	35	15	27.1	
-	074	-	13C	I層	不定形	26	19	7	3.0	
-	075	-	4D	I層	不定形	42	25	12	10.9	
-	076	-	4D	Ⅱ層	不定形	28	32	7	4.6	
-	077	-	4D	Ⅲ層	不定形	32	31	11	8.8	
-	078	-	4D	Ⅲ層	不定形	50	42	12	24.5	
-	079	-	4D	Ⅲ層	不定形	26	18	7	2.5	
-	080	-	4D	Ⅲ層	不定形	23	13	7	1.8	
-	081	-	4D	Ⅲ層	不定形	85	66	27	93.7	
-	082	-	4D	Ⅲ層	不定形	55	40	11	20.7	
-	083	-	5D	Ⅲ層	不定形	47	46	13	22.1	
-	084	-	5D	Ⅲ層	不定形	58	35	13	21.4	
-	085	-	6D	I層	不定形	21	19	5	1.5	
-	086	-	6D	I層~Ⅱ層	不定形	44	43	10	18.0	
-	087	-	7D	I層	不定形	24	9	5	1.1	
-	088	-	7D	I層~Ⅱ層	不定形	87	44	17	53.8	
-	089	-	12D	Ⅱ層	不定形	49	36	7	9.5	
-	090	-	13D	I層	不定形	60	80	24	68.7	
-	091	-	4E	I層	不定形	36	18	7	4.7	
-	092	-	4E	I層	不定形	45	24	8	7.9	
-	093	-	4E	Ⅲ層	不定形	37	29	9	7.9	
-	094	-	4E	Ⅲ層	不定形	53	52	14	36.2	
-	095	-	4E	Ⅲ層	不定形	93	51	21	86.3	
-	096	-	4E	Ⅱ層~Ⅲ層	不定形	70	44	12	37.9	
-	097	-	5E	Ⅲ層	不定形	52	12	10	6.4	
-	098	-	6E	I層~Ⅱ層	不定形	20	21	3	1.1	
-	099	-	6E	I層~Ⅱ層	不定形	43	24	12	11.2	
-	100	-	9E	I層	不定形	25	19	9	3.9	
-	101	-	9E	I層	不定形	28	17	10	4.4	
-	102	-	9E	I層	不定形	46	26	14	18.0	
-	103	-	10E	I層~Ⅱ層	不定形	36	18	9	4.9	
-	104	-	11E	I層	不定形	35	36	13	15.3	
-	105	-	11E	I層	不定形	57	52	12	30.7	
-	106	-	11E	I層	不定形	51	22	12	11.8	
-	107	-	13E	Ⅱ層	不定形	44	27	10	10.1	
-	108	-	13D 西半	I層~Ⅱ層	不定形	35	22	9	5.1	
-	110	-	13A	Ⅲ層	磨製石斧	102	56	40	364.0	
-	111	-	2B	Ⅲ層	磨製石斧	33	26	21	25.3	
-	112	-	13B	Ⅲ層	磨製石斧	47	32	15	25.2	
-	116	-	4E	Ⅲ層	磨製石斧	115	49	24	149.2	
-	117	-	4E	Ⅱ層~Ⅲ層	磨製石斧	143	64	42	600.0	
-	119	竪穴状	6D 東半	埋土上位	打製石斧	77	50	26	116.5	
-	121	-	5D	Ⅱ層	打製石斧	87	73	17	131.2	
-	122	-	4E	Ⅲ層	打製石斧	88	78	18	166.6	
-	123	-	2A	I層~Ⅱ層	磨製石斧	50	37	26	48.4	未成品
-	125	竪穴状	6D 東半	埋土中位	凹石	128	88	26	245.4	
-	126	-	4B	Ⅲ層	磨石	122	62	36	353.0	
-	127	-	5D	Ⅲ層	磨石	124	68	36	374.0	
-	128	-	13D 西半	I層~Ⅱ層	磨石	88	53	39	215.5	
-	129	-	2B	Ⅲ層	特殊磨石	104	62	52	630.0	
-	130	-	4B	Ⅲ層	特殊磨石	79	49	27	152.1	
-	131	-	4B ヘルト	I層~Ⅲ層	特殊磨石	178	89	60	1400.0	
-	132	-	4C	Ⅲ層	特殊磨石	116	37	28	195.8	
-	133	-	7C	I層	特殊磨石	140	50	34	328.0	
-	134	-	4D	Ⅲ層	石皿	93	74	42	221.1	
-	135	-	4B	Ⅲ層	台石	226	208	67	3050.0	
-	136	竪穴状	6D 東半	埋土下位	砥石	34	33	8	10.1	
-	138	-	4E	Ⅲ層	砥石	156	55	39	474.0	
-	140	竪穴状	6D 東半	埋土上位	礫器	63	49	18	58.6	
-	141	-	7B	-	礫器	70	50	12	59.1	風倒木 (北側)

■石製品

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	計測値				備考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
224	008	—	4E	Ⅲ層	石棒	66	28	12	26.7	
225	006	—	4D	Ⅲ a 層	石棒状	110	30	22	119.0	
226	004	—	3A	I 層～Ⅱ層	石棒状	245	34	29	314.4	
227	013	—	5D 北東隅	Ⅲ層上位	岩板	48	43	13	22.8	
228	015	—	4E	Ⅲ層	有孔	29	34	14	7.2	
229	014	—	6B	Ⅱ層	有孔 (勾玉状)	35	22	12	7.6	
230	016	—	8D	I 層	有孔 (垂飾)	21	16	3	1.7	
231	023	—	4B	Ⅲ層	石製円盤	68	63	23	160.3	
232	027	—	5D	Ⅲ層	石製円盤	80	75	24	205.0	
233	032	—	4E	Ⅱ層～Ⅲ層	石製円盤	55	57	80	34.9	
234	022	—	13A	Ⅲ層	石製円盤	64	53	12	53.4	
235	030	—	4E	Ⅲ層	石製円盤	35	34	80	15.6	
—	001	竪穴状	6D	貼床	石棒	89	27	12	38.0	
—	002	竪穴状	6D	貼床	石棒類	37	12	4	2.0	
—	005	—	4D	I 層	石棒	86	22	10	25.0	
—	007	—	6D	I 層～Ⅱ層	石棒	106	25	15	46.0	
—	009	—	4E	Ⅲ層	石棒類	133	38	14	66.0	
—	010	—	5E	I 層～Ⅱ層	石棒類	46	15	11	11.0	
—	011	—	—	I 層	石棒類	72	33	16	50.0	表採
—	012	—	4E	Ⅲ層	石刀	131	33	7	38.0	
—	017	—	4D	Ⅱ層～Ⅲ a 層	石製円盤	72	45	21	100.0	4号埋設土器周辺
—	018	竪穴状	6D 東半	埋土上位	石製円盤	73	62	12	83.0	
—	019	竪穴状	6D 東半	埋土	石製円盤	56	55	14	59.0	
—	020	1号竪穴住居	13C 西半	埋土	石製円盤	56	50	11	50.0	
—	021	—	3A	I 層～Ⅱ層	石製円盤	67	63	14	82.0	
—	024	—	4B ベルト	I 層～Ⅲ層	石製円盤	79	73	22	178.0	
—	025	—	4D	Ⅱ層	石製円盤	54	50	11	37.0	
—	026	—	4D	Ⅲ層	石製円盤	71	63	17	113.0	
—	028	—	4E	Ⅲ層	石製円盤	62	53	12	52.0	
—	029	—	4E	Ⅲ層	石製円盤	54	52	8	27.0	
—	031	—	4E	Ⅲ b 層～Ⅲ c 層	石製円盤	47	45	7	25.0	
—	033	—	4E	Ⅲ a 層	球状	49	38	31	34.0	細沈線

■土師器・須恵器

掲載番号	登録番号	遺構名	出土地点	出土層位	種類	器種	部位	計測値			器面調整等			備考
								口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	外面	内面	底部	
236	001	1号竪穴住居	13C 東半	埋土	土師器	坏	—	(110)	—	(37)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
237	003	1号竪穴住居	13C	Ⅱ層	土師器	坏	底部	—	(55)	(15)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	
238	004	1号竪穴住居	13C	埋土上位	土師器	坏	底部	—	(55)	(18)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
239	002	1号竪穴住居	13C	埋土	土師器	坏	底部	—	(50)	(15)	ロクロナデ	内黒ミガキ	—	
240	005	2号竪穴住居	11B	埋土	土師器	坏	底部	—	(60)	(22)	ロクロナデ	内黒ミガキ	—	
241	011	—	13C	I 層	土師器	坏	口縁部	—	—	(39)	ロクロナデ	内黒ミガキ	—	
242	010	—	13A	Ⅲ層	土師器	坏	底部	—	(60)	(21)	ロクロナデ	内黒ミガキ	—	
243	013	—	5E	Ⅱ層～Ⅲ層	土師器	坏	底部	—	—	(32)	ロクロナデ	内黒ミガキ	—	
244	014	—	5E	Ⅲ層	土師器	甕	口縁部	—	—	(45)	ヨコナデ ヘラナデ	ヨコナデ ヘラナデ	—	
245	007	—	9A	Ⅲ層	土師器	甕	—	—	—	(61)	ヘラナデ	ヘラナデ	—	
246	012	—	5E	Ⅲ層	土師器	甕	—	—	—	(55)	ヘラケズリ	ヘラナデ	—	
247	008	—	9A 南半	攪乱(道路側溝)	土師器	甕	底部	—	(94)	(17)	—	—	木葉痕	
248	009	—	9A 南半	攪乱(道路側溝)	土師器	甕	底部	—	(100)	(30)	ヘラケズリ	ヘラナデ	—	
249	017	—	6B	I 層	須恵器	坏	口縁部	—	—	(29)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	
250	018	—	6B	I 層～Ⅱ層	須恵器	坏	底部	—	(50)	(16)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	
251	019	—	6B	I 層	須恵器	坏	底部	—	(50)	(9)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	
252	020	—	13B	Ⅱ層	須恵器	瓶	底部	—	(90)	(36)	ヘラケズリ	ヘラナデ	—	
253	022	—	6E	—	須恵器	大甕	—	—	—	(39)	平行タタキ	—	—	

V. まとめ

不動Ⅰ・Ⅱ遺跡では、平成7年度より12年度まで花巻市教育委員会により継続して実施された不動上諏訪地区土地区画整理事業に係る一連の発掘調査（報告書7冊既刊）が行われたことで、一帯が市内でも有数の縄文・古代・近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされた。特に、不動Ⅰ遺跡東半の北側緩斜面部では縄文時代晩期の埋設土器や炉跡、遺物包含層が広がっており、南半には平安時代の集落跡が広がることが予想されたこと、一方、東側に隣接する不動Ⅱ遺跡においては平安時代の拠点的で大きな集落跡が広がっていたことが判明しており、両遺跡の特色が浮き彫りになった貴重な調査成果といえる。

一方、今回の調査成果としては、前述のように遺跡内において時代ごとの占地形態に明らかな違いが認められる点を改めて証明する結果となった。以下には、今回検出した遺構と出土した遺物についてわかった点を述べる。

〔遺構について〕

- ①縄文時代後期の遺物が若干出土しているが、遺構は見つかっていない。
- ②縄文時代晩期の埋設土器遺構群が、今回の調査区を含む北側の緩斜面移行部分を中心に東西方向に帯状に広がっている可能性が強まった。（不動Ⅱ遺跡第14次調査（平成10年度実施）成果を参照）
- ③東方の不動Ⅱ遺跡より展開する平安時代の大きな集落跡が、北側斜面部を除き、より西方域へと広がっている。
- ④江戸時代以降の屋敷建物跡が重複しており、現代につながる不動地区の先人の足跡を示している。

〔遺物について〕

①縄文土器

遺物包含層を中心に縄文時代後期～晩期にかけての土器（破片が大部分）を多く出土しており、主体となるのは縄文時代晩期（大洞B・BC・C1・C2・A式）の土器である。中でも大洞BC～C2式にかけての土器が多くみられる。なお、注口土器には大洞B・BC式期といった古手のものが一定量以上含まれている。

②石器

剥片石器では有基石鎌や石錐及びスクレイパー類（不定形石器）、礫石器では磨製石斧が割合多くみられる傾向にあるが、土器に比して全体的に出土量は少ない。出土したものの多くは、遺構外出土のもので土器との共存関係が不明なものが多いが、その多くは縄文時代晩期に属するものとみられる。

③土製品・石製品

土製品では、遮光器土偶及び亀形土製品といった縄文時代晩期の祭祀等に関わる遺物が数点出土していること。前者には、古手（大洞B・BC式期）のものが多い。

石製品では、石棒類及び岩板といった祭祀関連の遺物が少量出土している。

土製品・石製品ともに円盤状を呈するものが一定数出土しているほか、朱塗耳栓や有孔の垂飾品といった祭祀もしくは服飾に関わる遺物も少量みられる。

土製品・石製品においても、石器と同様に遺構外出土のものが多く詳細は不明ではあるが、ほとんどは縄文時代晩期に属するものとみられる。

〈主要参考文献〉

- ・ 昆野靖・石川長喜「花巻市桜町窯出土の陶磁器」『紀要Ⅴ』（1985.3（財）岩手県埋蔵文化財センター）
- ・ 『平成2年度 花巻市内遺跡詳細分布調査報告書（花巻地区）』（1991.3 花巻市教育委員会）
- ・ 鈴木克彦「注口土器の研究」『研究紀要 第2号』（1997.3 青森県埋蔵文化財調査センター）
- ・ 『花巻市埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 不動Ⅱ遺跡（第14次発掘調査報告書 不動上諏訪地区土地区画整理事業関連発掘調査報告書Ⅴ）』（2007.3 花巻市教育委員会）
- ・ 酒井宗孝・小原茂「『花巻焼』について－『若狭屋文書』と『覚書』からの検討」『花巻市博物館研究紀要 第3号』（2007.3 花巻市博物館）
- ・ 『花巻市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 不動Ⅰ遺跡（第6～8次発掘調査報告書 不動上諏訪地区土地区画整理事業関連発掘調査報告書Ⅶ）』（2009.3 花巻市教育委員会）
- ・ 三浦歌子・関根達人「資料紹介 窯跡採集資料からみた花巻焼」『花巻市博物館研究紀要 第6号』（2010.3 花巻市博物館）
- ・ 成田滋彦「亀形土偶（上）－乳房をもつ亀は存在するのか」『研究紀要 第21号』（2016.3 青森県埋蔵文化財調査センター）
- ・ 成田滋彦「亀形土偶（下）」『研究紀要 第22号』（2017.3 青森県埋蔵文化財調査センター）



調査区北半 全景（北西から）



埋設土器群（4D グリッド付近） 出土状況（南から）



1号（右）・2号（左）埋設土器 断面（南から）



3号埋設土器 断面（東から）

写真図版1 埋設土器（1）ほか



4号埋設土器 断面（東から）



5号埋設土器 断面（西から）



7号埋設土器 断面（西から）



8号埋設土器 検出状況（南から）



9号埋設土器 断面（西から）



4D～5Dグリッド付近No. 87土器 出土状況（南から）



2Dグリッド北西部 耳栓No. 184 出土状況（西から）



2Eグリッド北半Ⅲ層土器 出土状況（西から）

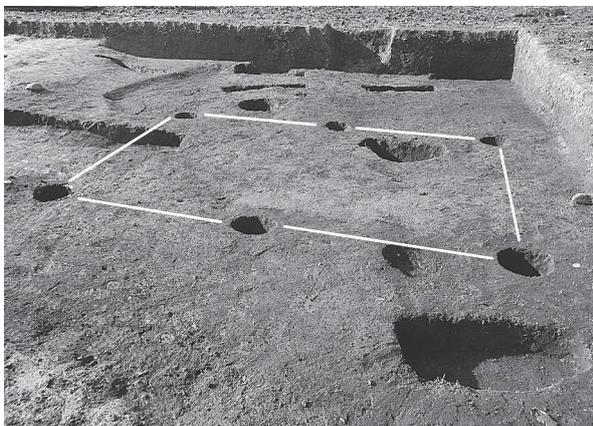
写真図版2 埋設土器(2)・遺物出土状況



竪穴状遺構 全体検出状況（南東から）



竪穴状遺構 完掘状況〔貼床除去後〕（北から）



掘立柱建物跡 全景（東から）



p20〔掘立柱建物跡〕断面（南から）

写真図版3 竪穴状遺構・掘立柱建物跡



土坑 全景 (東から)



土坑 断面 (南から)



1号竪穴住居跡 全景 (西から)



1号竪穴住居跡 南北ベルト断面 (東から)



2号竪穴住居跡 カマド・袖 断割り状況 (北から)

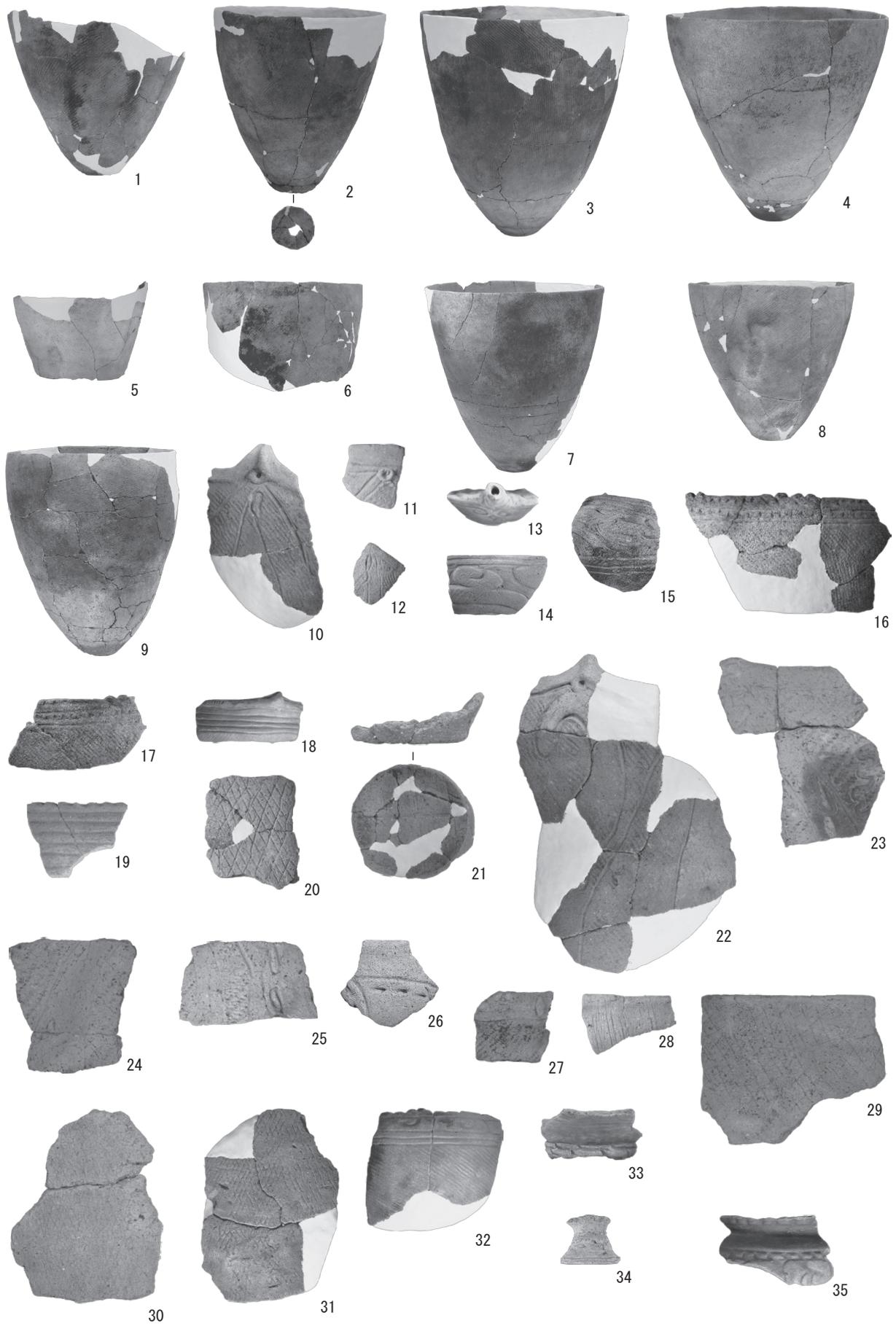


8B グリッド p2 断面 (西から)

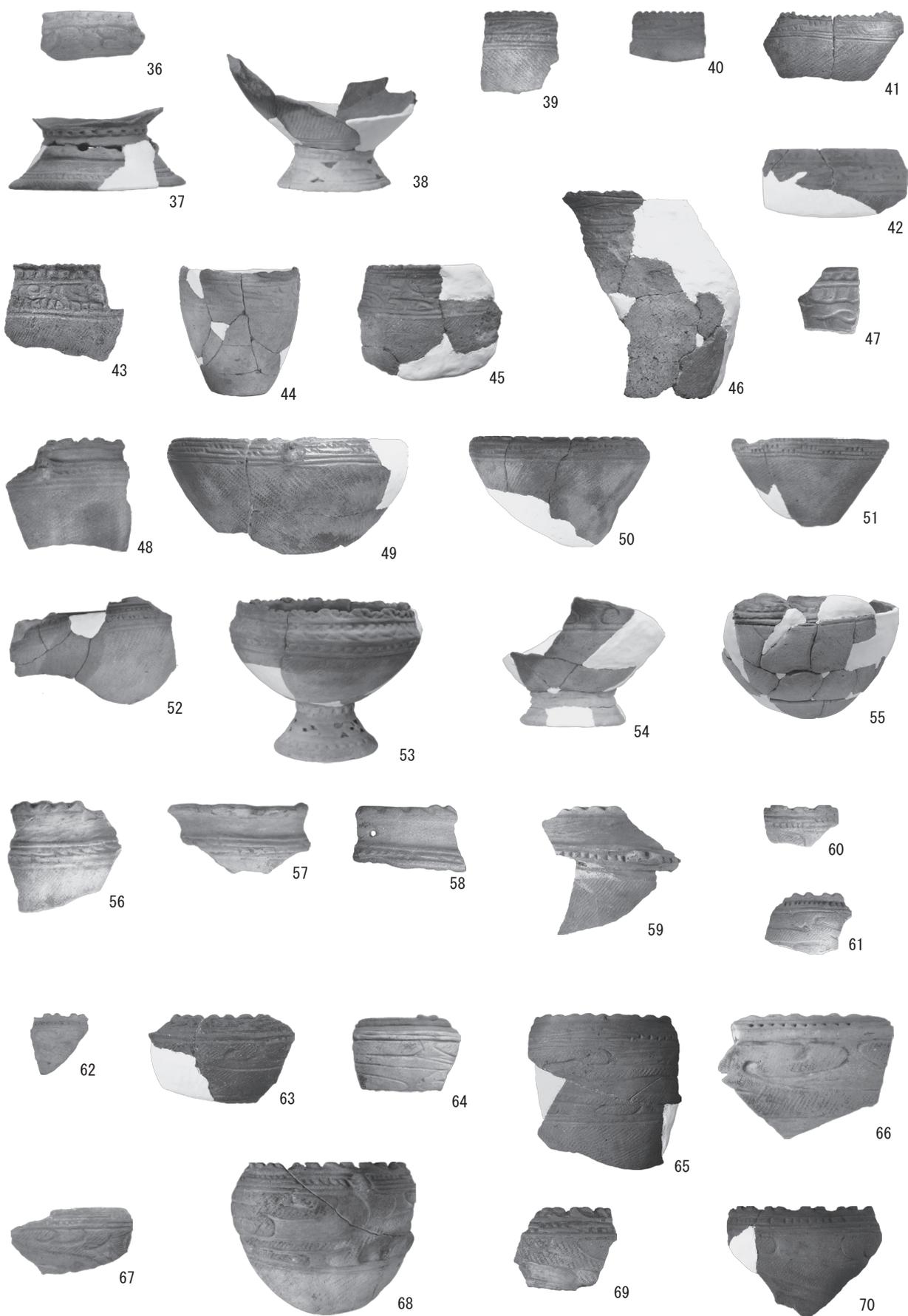


8B・9B グリッド付近柱穴群 (北から)

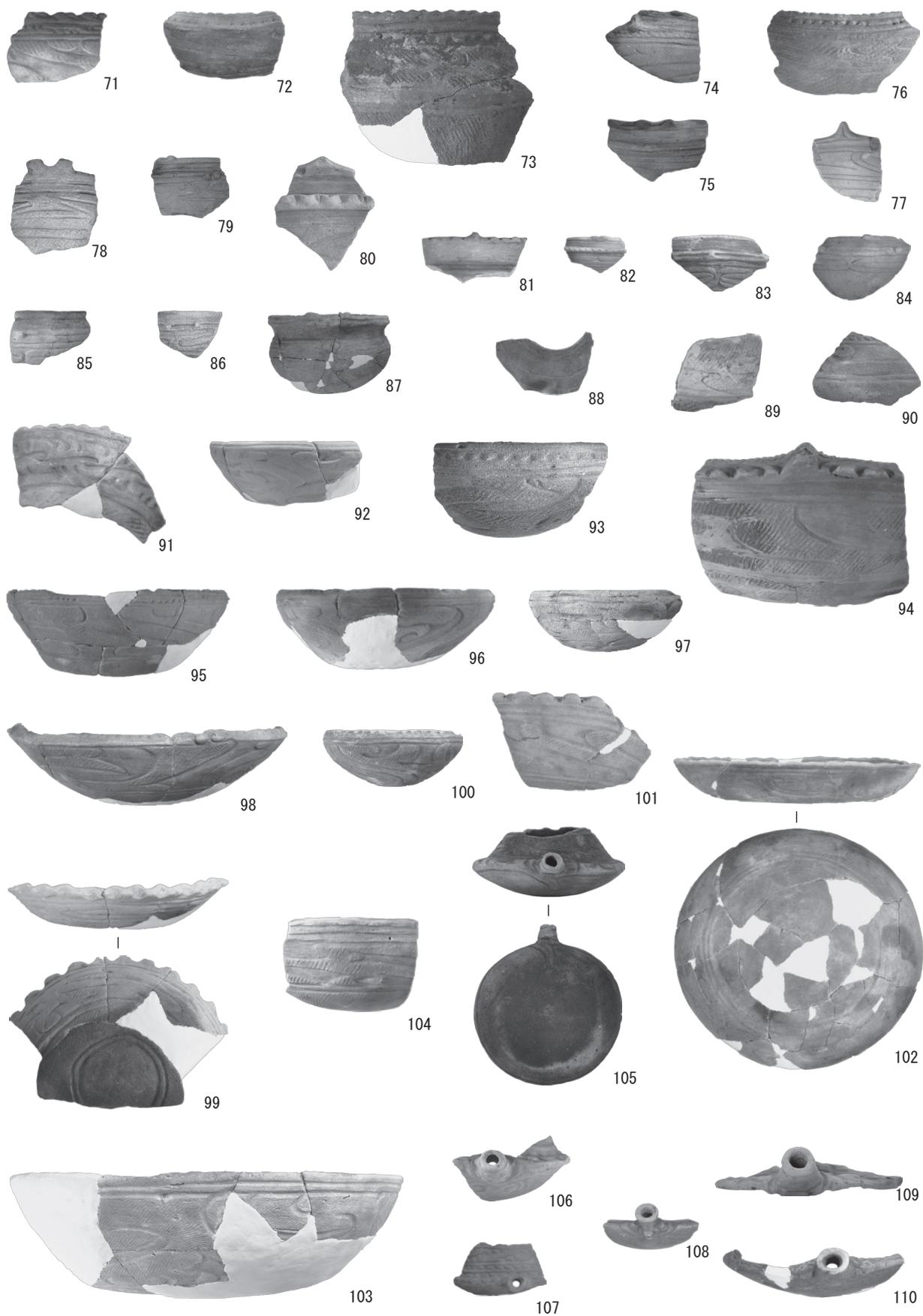
写真図版 4 土坑・竪穴住居跡・柱穴群



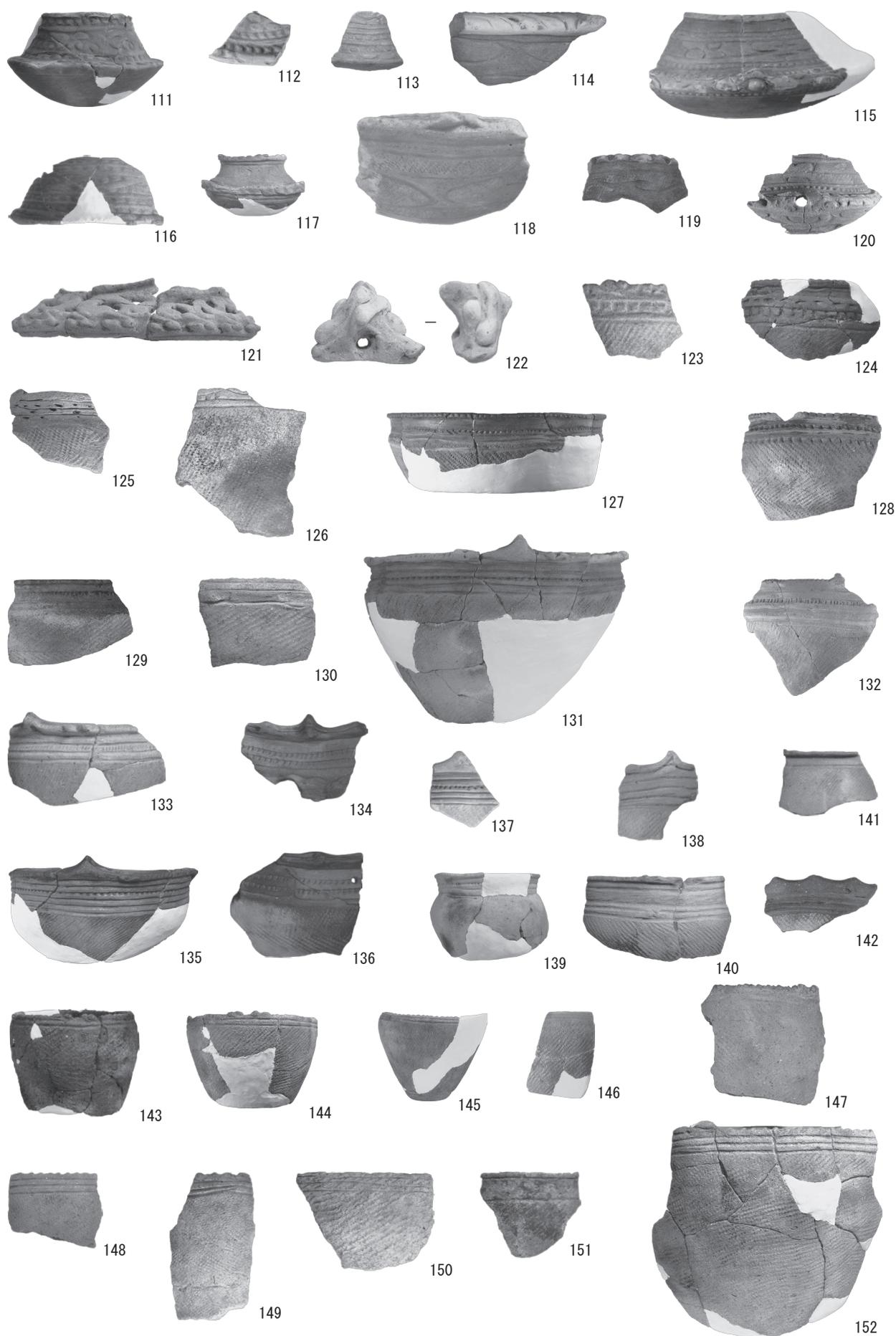
写真図版5 出土遺物(1) 埋設土器・竪穴状遺構出土土器ほか



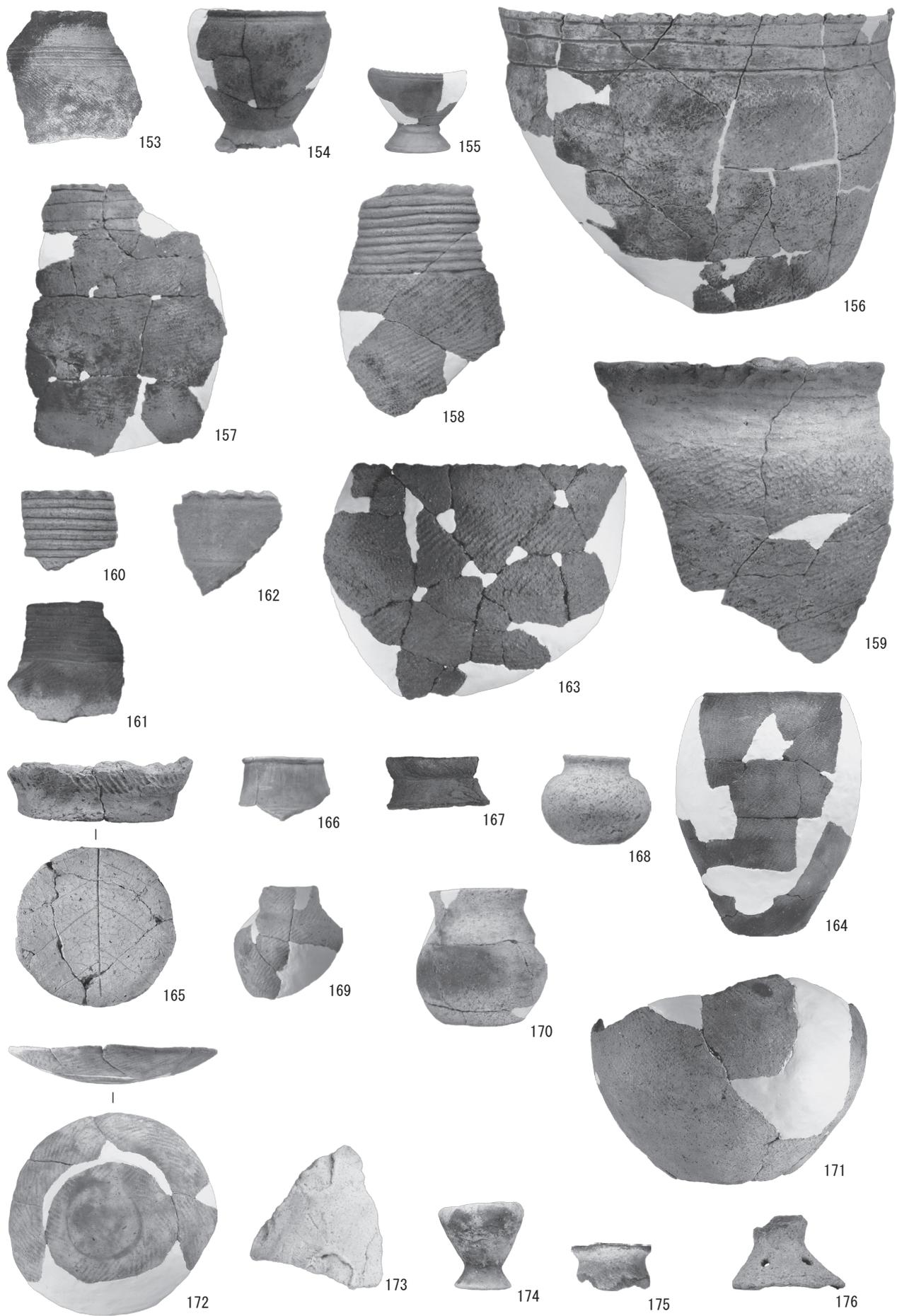
写真図版 6 出土遺物 (2) 遺構外出土土器



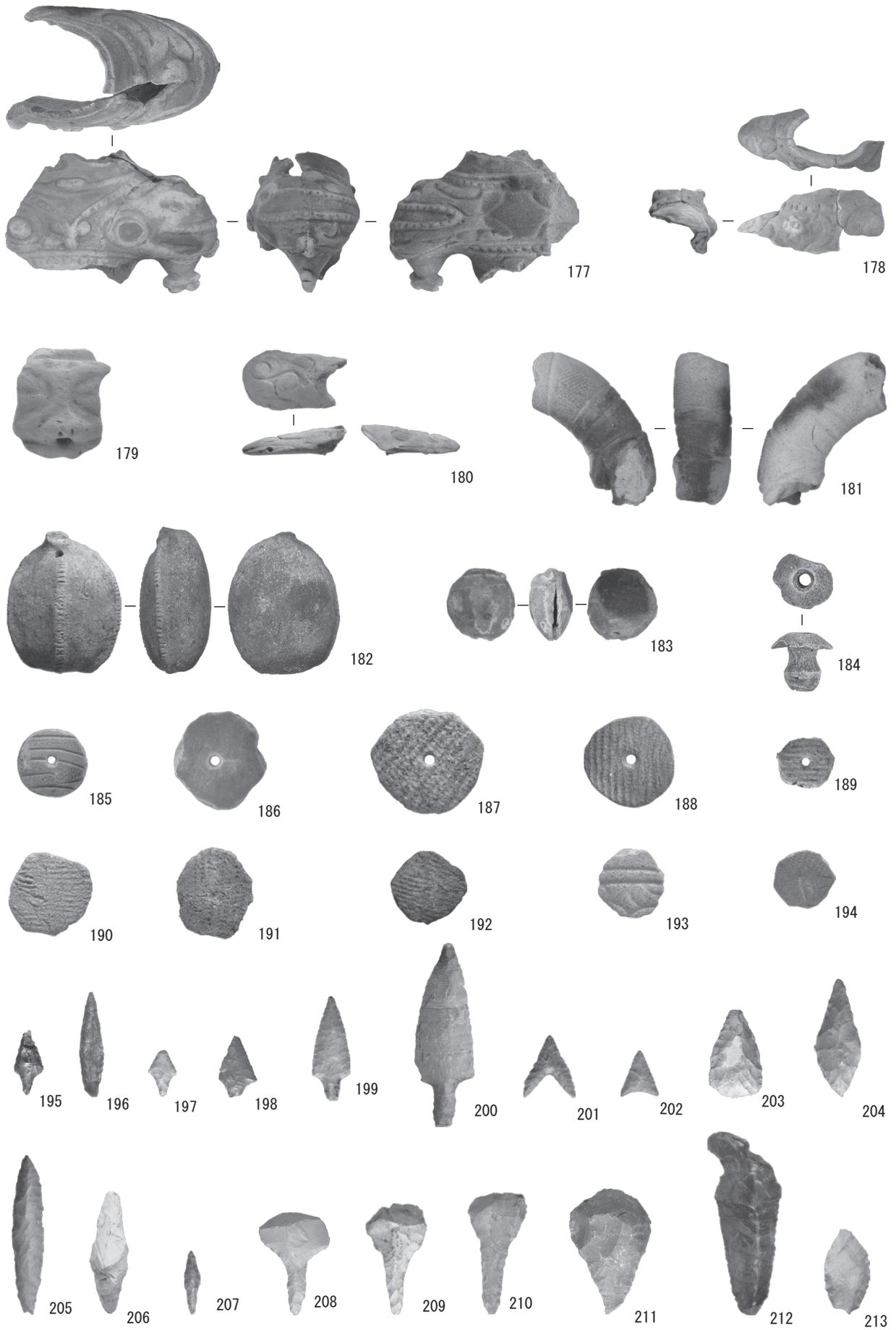
写真図版 7 出土遺物 (3) 遺構外出土土器



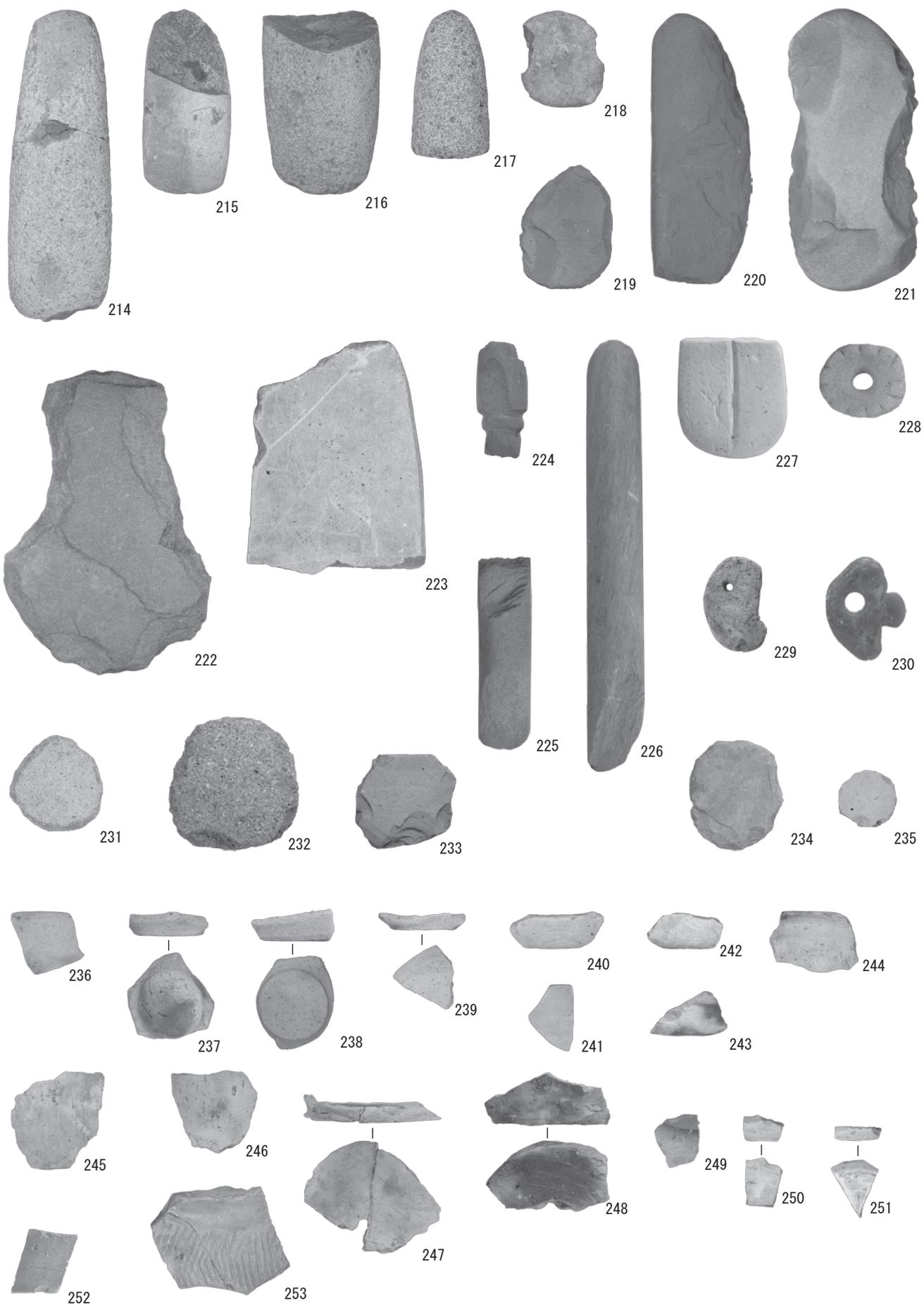
写真図版 8 出土遺物 (4) 遺構外出土土器



写真図版 9 出土遺物 (5) 遺構外出土土器



写真図版 10 出土遺物(6) 土製品・剥片石器



写真図版 11 出土遺物 (7) 礫石器・石製品・古代土器

報告書抄録

ふりがな	ちんたいじゅうたくけんせつかんれんいせきはつくつちょうさほうこくしょへいせい28ねんどちょうさふどういせき
書名	賃貸住宅建設関連遺跡発掘調査報告書 平成28年度調査 不動I遺跡
副書名	
シリーズ名	花巻市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第23集
編著者名	酒井宗孝・橋本征也・菊池賢
遺物実測図	川井久美子・菅原富貴子
遺物写真撮影	高橋 純・吉田宗平
遺物写真編集	高橋 純・吉田宗平
編集機関	花巻市教育委員会 文化財課
所在地	〒028-3163 岩手県花巻市石鳥谷町八幡4-161 電話 0198-45-1311
発行年月日	平成30年(2018)3月16日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
ふどういせき 不動I遺跡	はなまきし 花巻市 ふどうちやうばちやうめ 不動町二丁目 7-1	032051	ME36- 0040	39度 22分 37秒	141度 6分 33秒	2016年 9月12日～ 11月30日	866.75㎡	賃貸住宅 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				
不動I遺跡	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡 埋設土器	縄文土器(後、晩期)、石器、土師器				

要 約

不動I遺跡	縄文時代晩期の埋設土器9基や竪穴状遺構1棟、縄文時代後期～晩期にかけての遺物包含層、平安時代の竪穴住居跡2棟(うち1棟は平成2年度調査のもの)、近世以降の柱穴群ほかを検出した。豊沢川に面した北側緩斜面への移行部分に埋設土器群が分布する様相が確認され、縄文晩期中心の包含層からは大洞BC～C1～C2～A式期にかけて多くの土器や土偶・亀形土製品・朱塗りの耳栓ほか遺物が出土した。
-------	---

花巻市埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集

賃貸住宅建設関連遺跡発掘調査報告書

平成28年度調査

不動I遺跡

平成30年3月16日

発行 花巻市教育委員会 教育長 佐藤 勝

〒028-3163 岩手県花巻市石鳥谷町八幡4-161

TEL (0198) 45-1311 FAX (0198) 45-1322

印刷 川嶋印刷株式会社

〒021-0822 岩手県一関市上大槻街3-11

TEL (0191) 46-4161